

河内長野市
男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

平成 29 年 3 月

河内長野市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	3
1	回答者属性	3
2	男女共同参画について	6
III	河内長野市男女共同参画に関する市民意識調査のまとめ	82
1	回答者属性	82
2	男女の地位の平等感について	82
3	男女共同参画の考え方について	82
4	言葉の認知度について	83
5	女性の就労について	83
6	家庭生活について	83
7	高齢者などに対する介護について	84
8	配偶者などからの暴力（DV）やセクシャル・ハラスメントについて	84
9	「男女共同参画社会」を実現するために有効な取り組みについて	85

I 調査の概要

1 調査の目的

「河内長野市男女共同参画計画（第3期）」の終了にあたり、新たに第4期計画を策定するため、また男女共同参画施策を推進する上での基礎資料とするため実施することを目的としています。

2 調査対象

河内長野市在住の満18歳以上を無作為抽出

3 調査期間

平成29年1月20日から平成29年2月13日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
2,000通	698通	34.9%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

・ 標本誤差については、下記算出式より算出します。

$$\sigma = \kappa \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

σ : 標本誤差

N : 母集団

n : 標本数

p : 回答比率

κ : 信頼率による変数

信頼率による変数 κ は、信頼率 95% では 1.96 と定義されています。

今回のアンケート調査における信頼率を 95% とすると、各回答比率別の標本誤差は以下のとおりとなります。

標本数	回答比率 (%)				
	10% or 90%	20% or 80%	30% or 70%	40% or 60%	50%
700	±2.21	±2.95	±3.38	±3.62	±3.69
600	±2.39	±3.19	±3.65	±3.91	±3.99
500	±2.62	±3.50	±4.01	±4.28	±4.37
400	±2.93	±3.90	±4.47	±4.78	±4.88
300	±3.38	±4.51	±5.17	±5.53	±5.64
200	±4.15	±5.53	±6.34	±6.77	±6.91
100	±5.88	±7.84	±8.98	±9.60	±9.79
50	±8.31	±11.08	±12.70	±13.58	±13.86

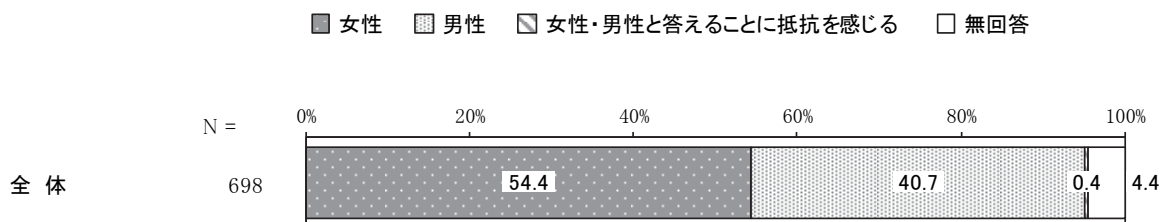
これは、標本数 700 において、ある設問で「A」という回答の割合が 50% であれば、18 歳以上の河内長野市民に同じ質問をしても、統計学的には「A」という回答の割合は、95% の確率で ± 3.69% の範囲内 (46.31% ~ 53.69%) にあることを示しています。

Ⅱ 調査結果

1 回答者属性

F 1 あなたの性別についてお答えください。

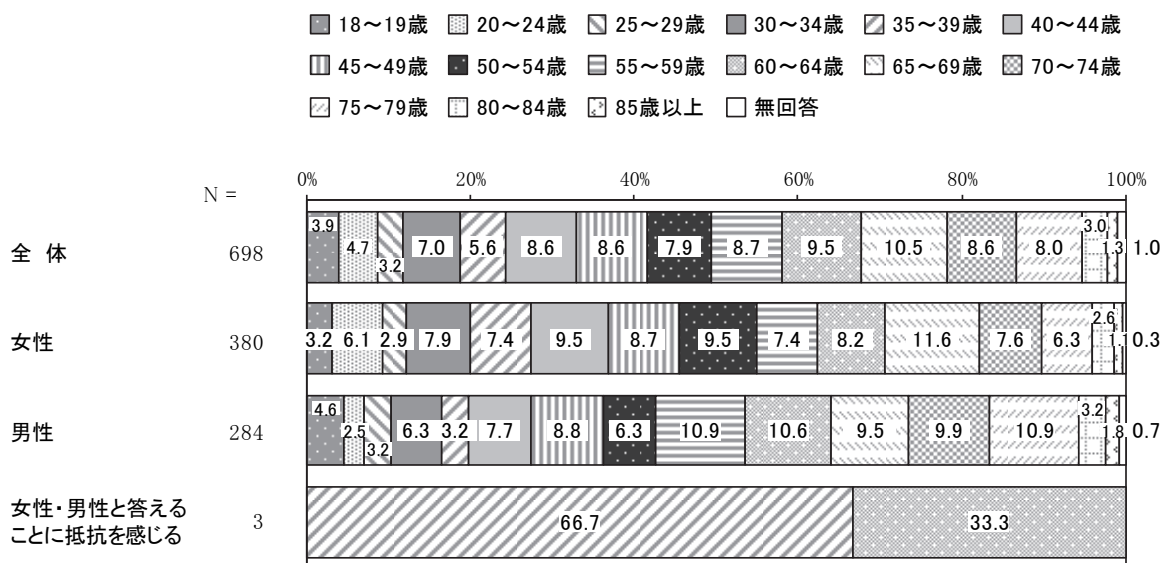
「女性」の割合が54.4%と最も高く、次いで「男性」の割合が40.7%となっています。



F 2 あなたの年齢についてお答えください。(1つだけに○)

「65～69歳」の割合が10.5%と最も高くなっています。

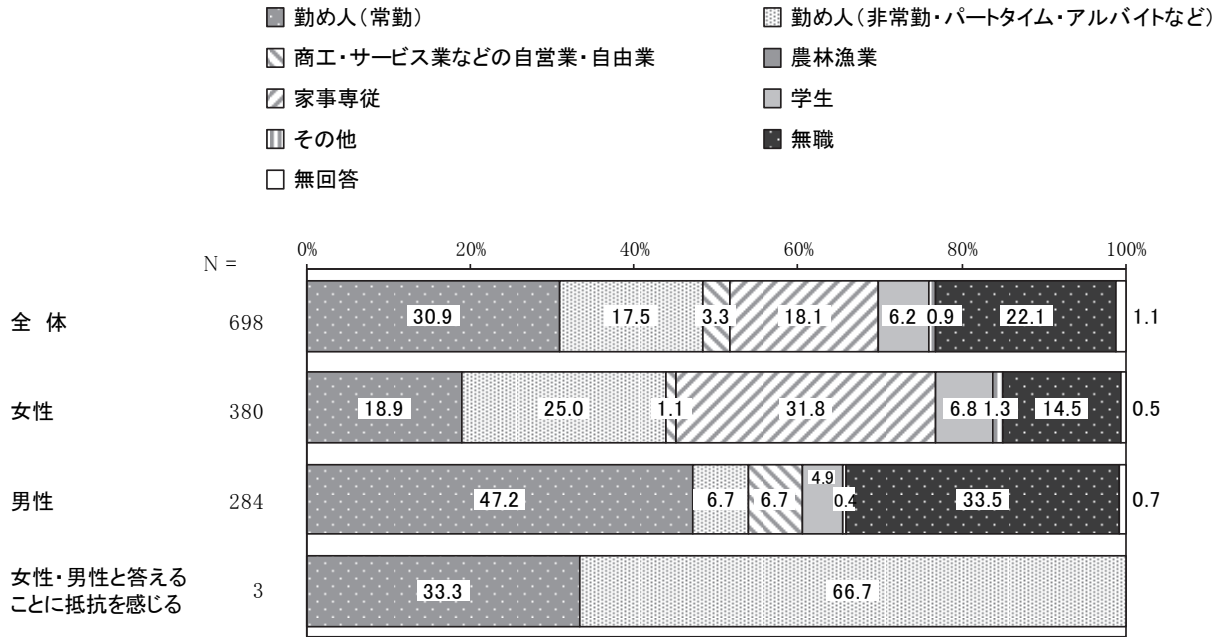
性別でみると、大きな差異はみられません。



F 3 あなたのご職業についてお答えください。(1つだけに○)

「勤め人(常勤)」の割合が30.9%と最も高く、次いで「無職」の割合が22.1%、「家事専従」の割合が18.1%となっています。

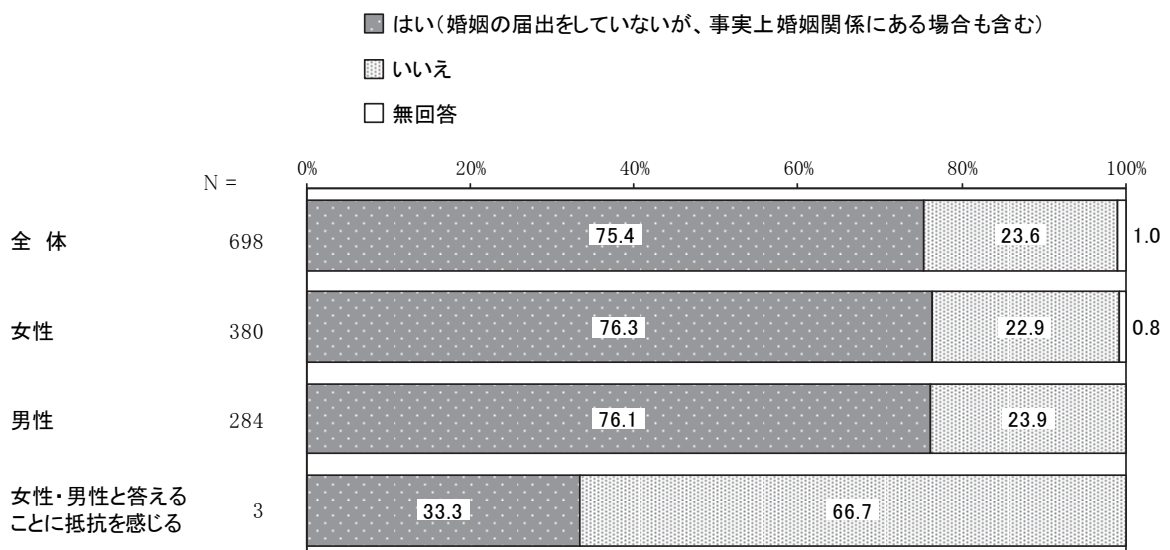
性別でみると、男性に比べ、女性で「勤め人(非常勤・パートタイム・アルバイトなど)」「家事専従」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「勤め人(常勤)」「商工・サービス業などの自営業・自由業」「無職」の割合が高くなっています。



F 4 あなたは、現在、結婚されていますか。(どちらかに○)

「はい(婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻関係にある場合も含む)」の割合が75.4%、「いいえ」の割合が23.6%となっています。

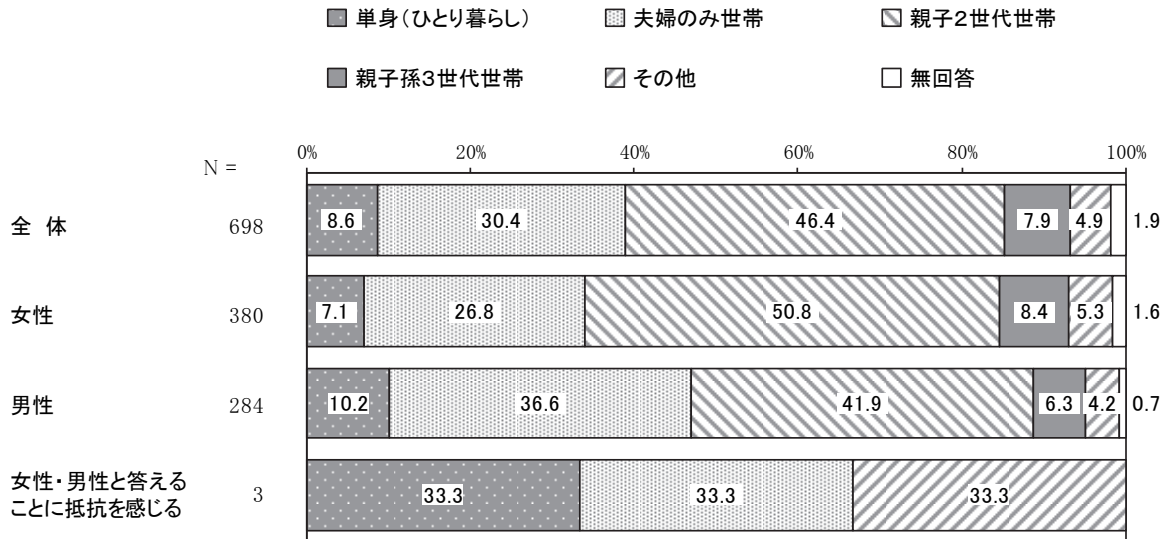
性別でみると、大きな差異はみられません。



F 5 あなたの家族構成についてお答えください。(1つだけに○)

「親子2世代世帯」の割合が46.4%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」の割合が30.4%となっています。

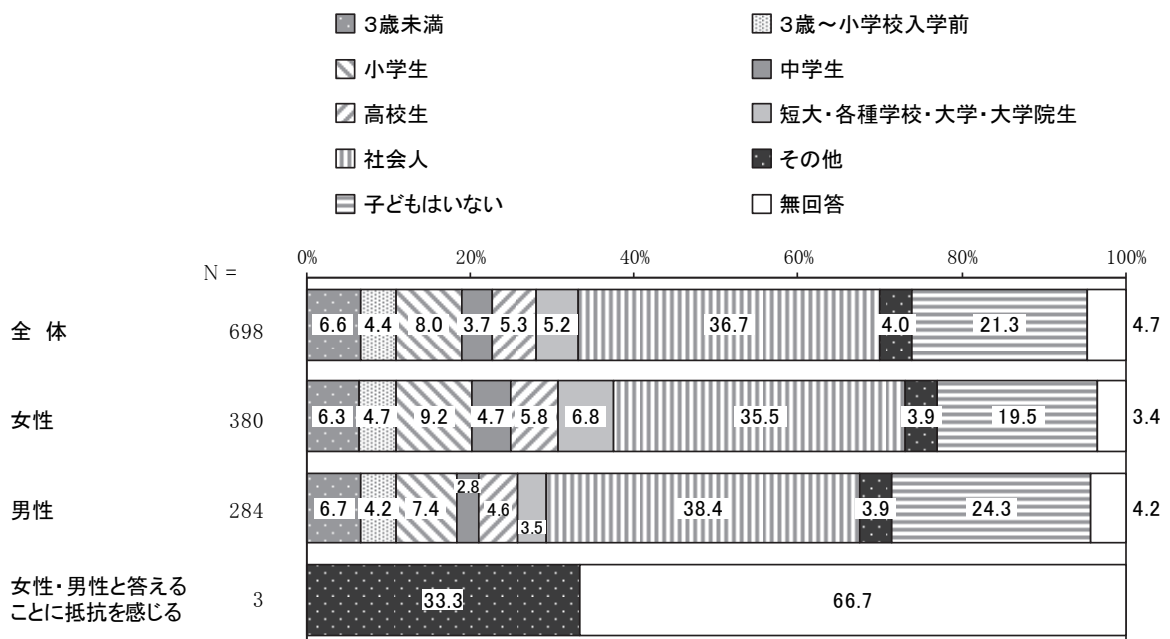
性別でみると、男性に比べ、女性で「親子2世代世帯」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「夫婦のみ世帯」の割合が高くなっています。



F 6 あなたの一番年少のお子さんは、次のうちどれにあたりますか。(1つだけに○)

「社会人」の割合が36.7%と最も高く、次いで「子どもはいない」の割合が21.3%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

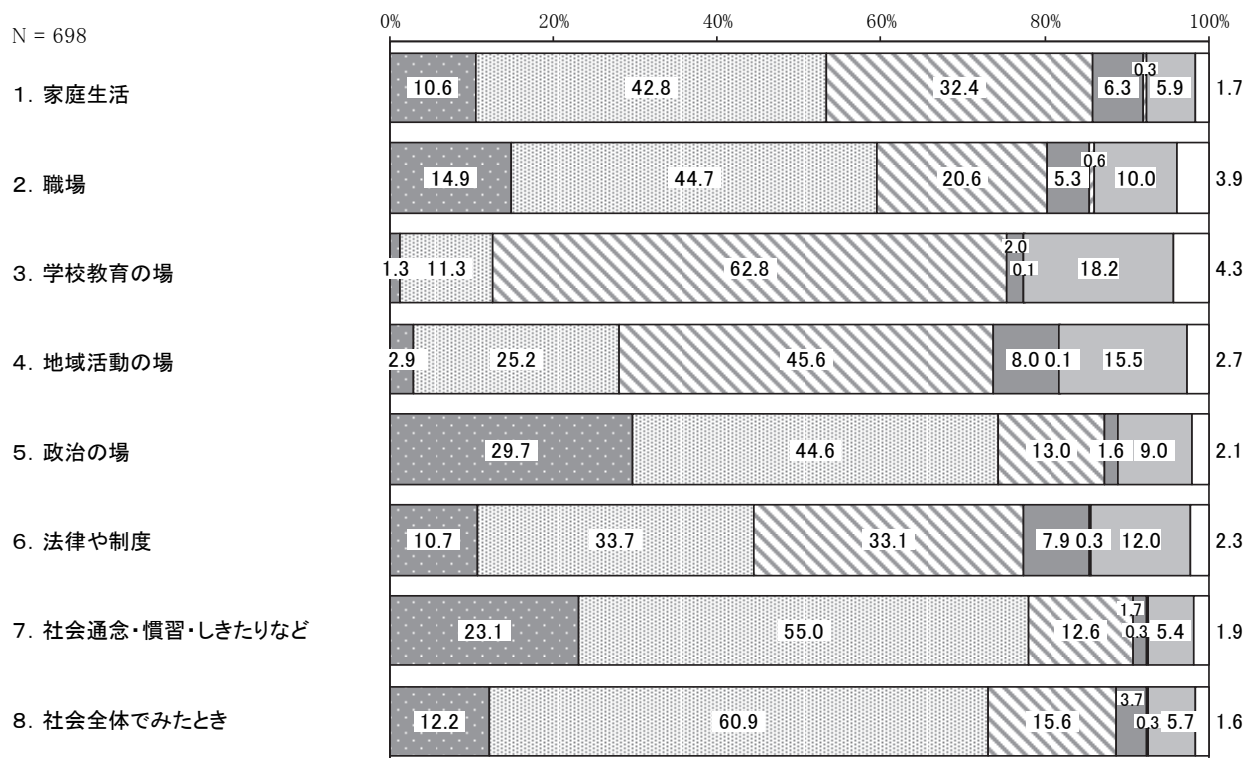


2 男女共同参画について

問1 あなたは、次にあげる分野において、男女の地位は平等になっていると思われますか。各項目についてあなたのお考えに近い番号に○をつけてください。(それぞれ1つずつに○)

5. 政治の場、7. 社会通念・慣習・しきたりなど、8. 社会全体でみたとき「男性のほう
が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」をあわせた“男
性のほうが優遇されている”の割合が高く、7割を超えています。また、3. 学校教育の場で「平
等」の割合が高く、6割を超えています。

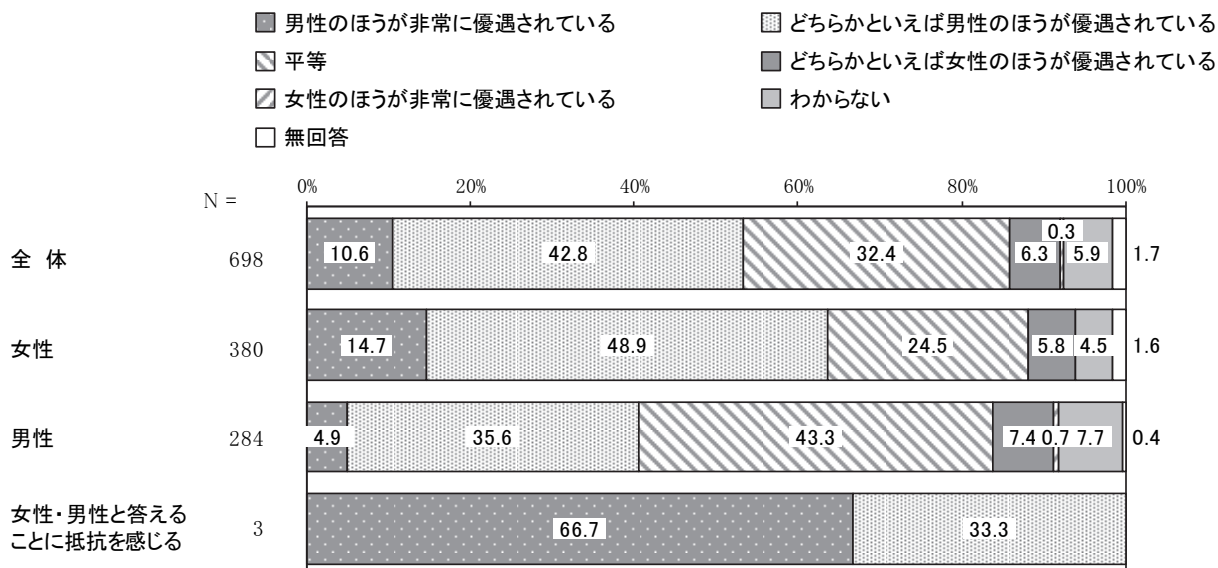
- 男性のほうが非常に優遇されている
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- 女性のほうが非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



1. 家庭生活

“男性のほうが優遇されている”の割合が53.4%、「平等」の割合が32.4%、“女性のほうが優遇されている”の割合が6.6%となっています。

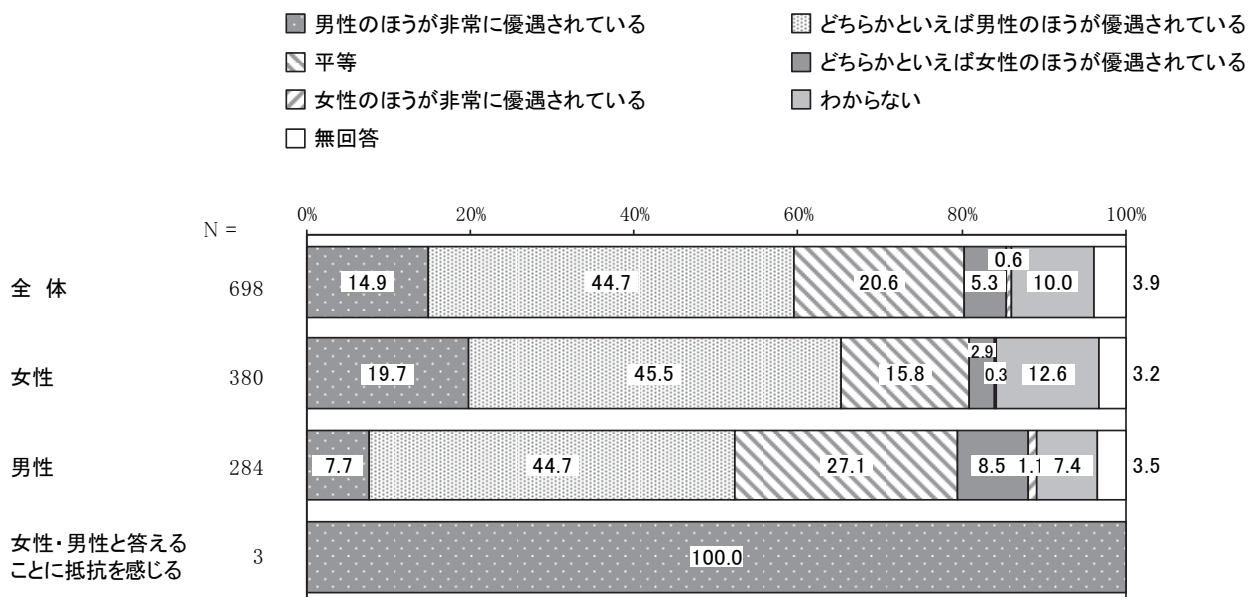
性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高くなっています。



2. 職場

“男性のほうが優遇されている”の割合が59.6%、「平等」の割合が20.6%、“女性のほうが優遇されている”の割合が5.9%となっています。

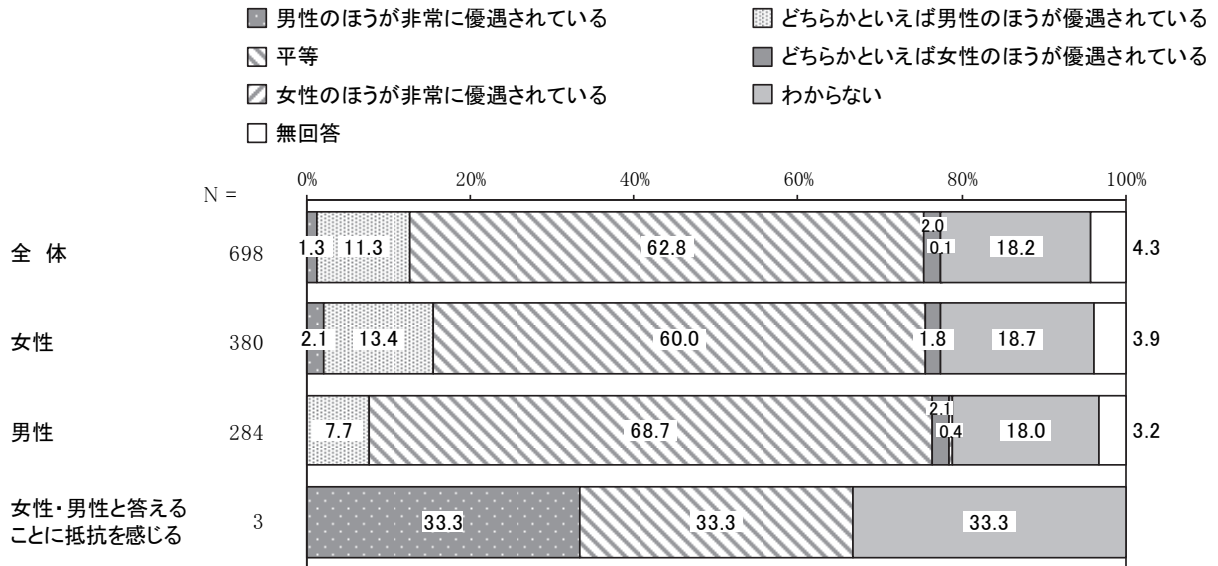
性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」と「女性のほうが優遇されている」をあわせた“女性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。



3. 学校教育の場

“男性のほうが優遇されている”の割合が12.6%、「平等」の割合が62.8%、“女性のほうが優遇されている”の割合が2.1%となっています。

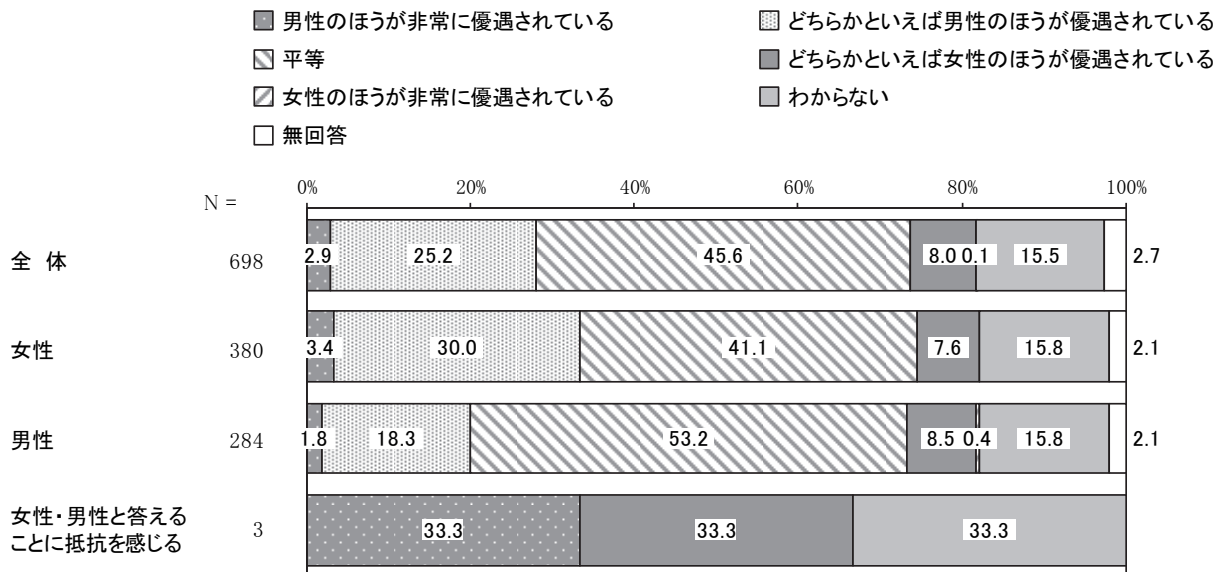
性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高くなっています。



4. 地域活動の場

“男性のほうが優遇されている”の割合が28.1%、「平等」の割合が45.6%、“女性のほうが優遇されている”の割合が8.1%となっています。

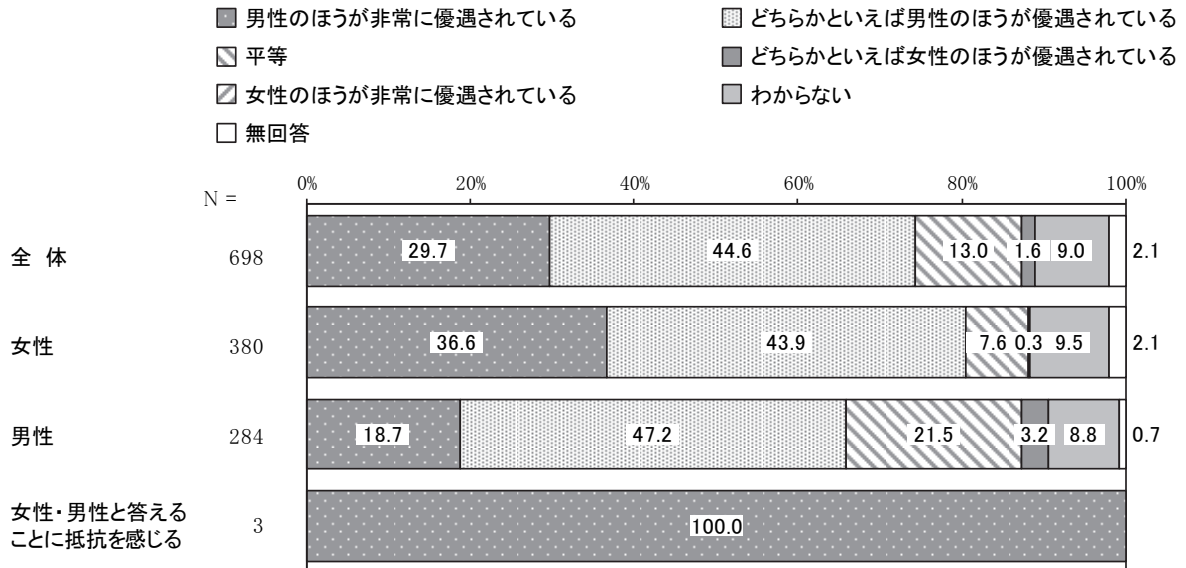
性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高くなっています。



5. 政治の場

“男性のほうが優遇されている”の割合が74.3%、「平等」の割合が13.0%、“女性のほうが優遇されている”の割合が1.6%となっています。

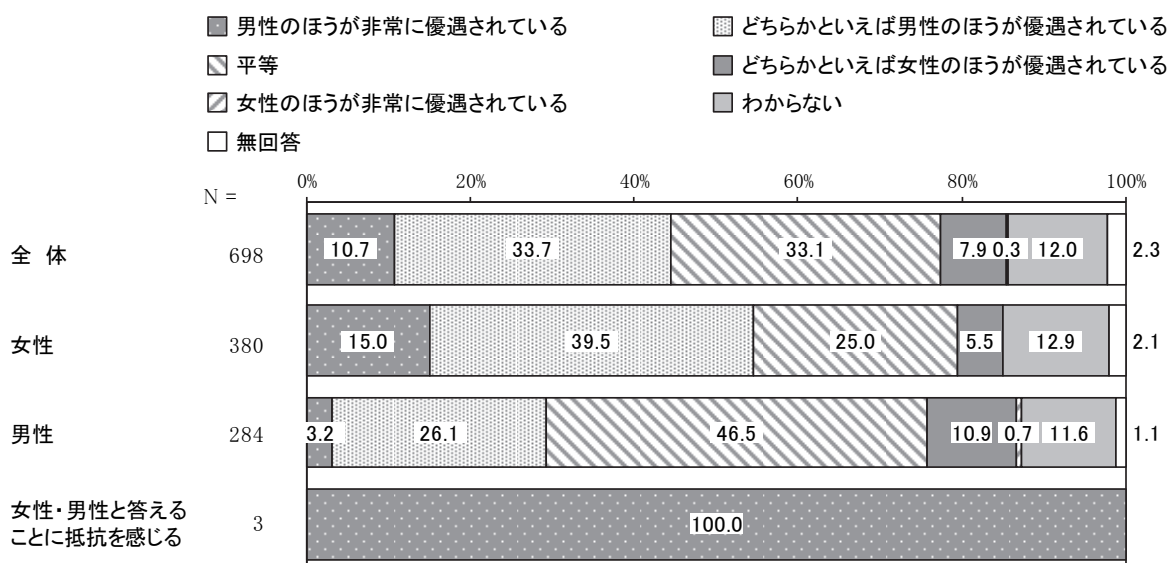
性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高くなっています。



6. 法律や制度

“男性のほうが優遇されている”の割合が44.4%、「平等」の割合が33.1%、“女性のほうが優遇されている”の割合が8.2%となっています。

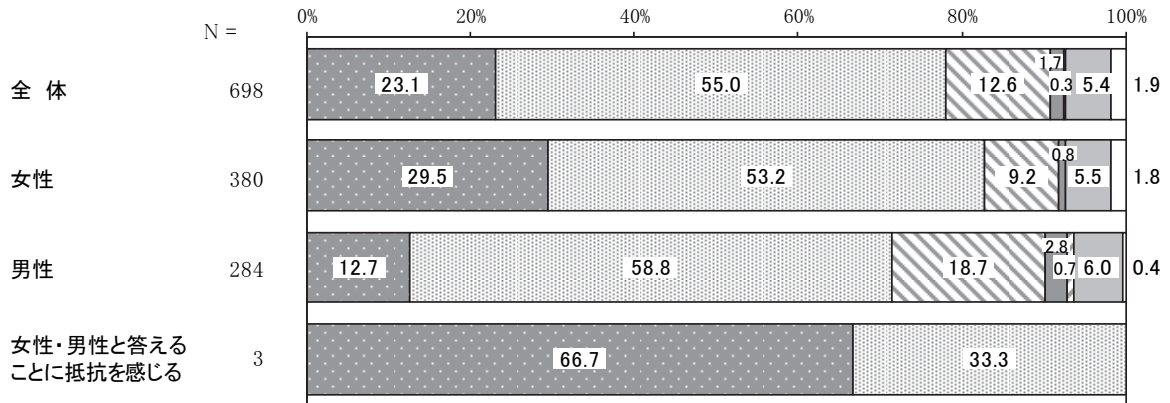
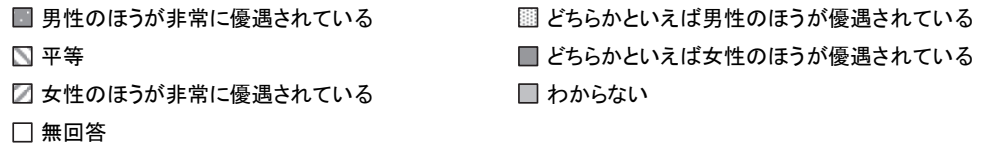
性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」「女性のほうが優遇されている」の割合が高くなっています。



7. 社会通念・慣習・しきたりなど

“男性のほうが優遇されている”の割合が78.1%、「平等」の割合が12.6%、“女性のほうが優遇されている”の割合が2.0%となっています。

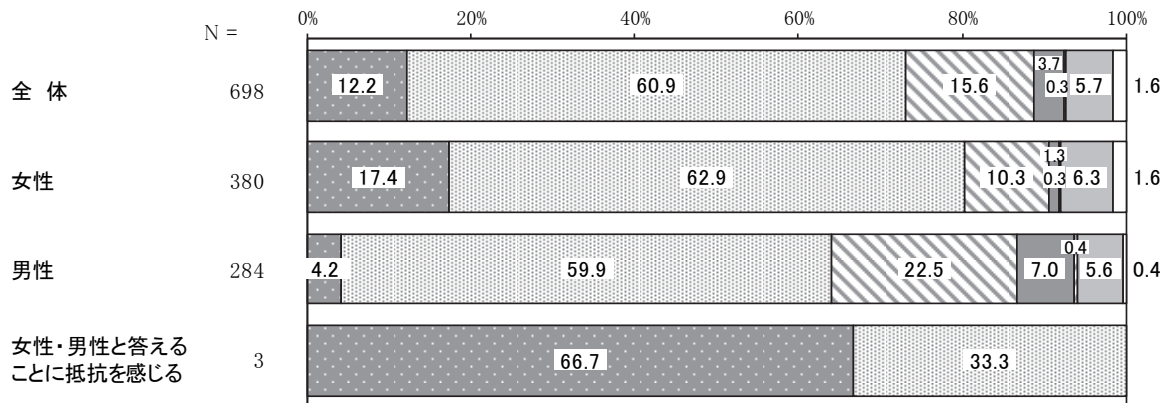
性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高くなっています。



8. 社会全体でみたとき

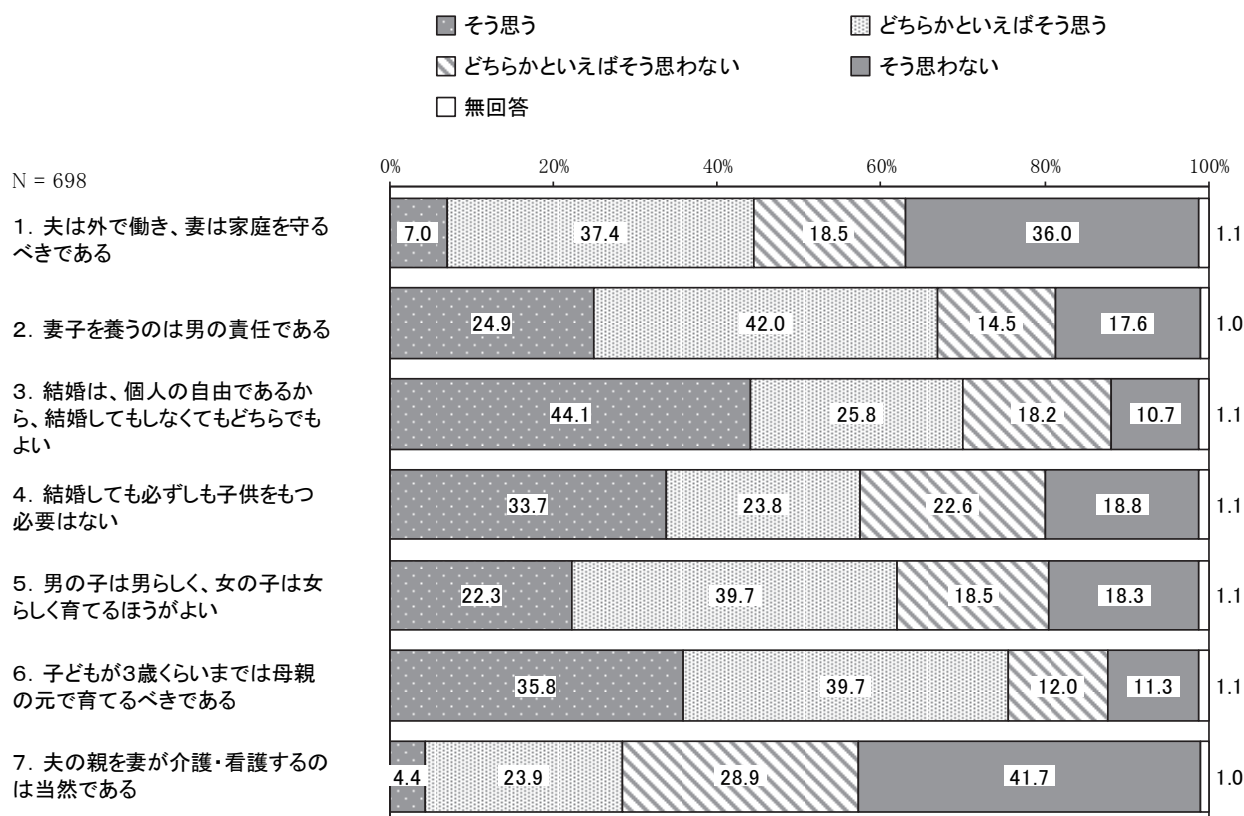
“男性のほうが優遇されている”の割合が73.1%、「平等」の割合が15.6%、“女性ほうが優遇されている”の割合が4.0%となっています。

性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性のほうが優遇されている”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「平等」「女性のほうが優遇されている」の割合が高くなっています。



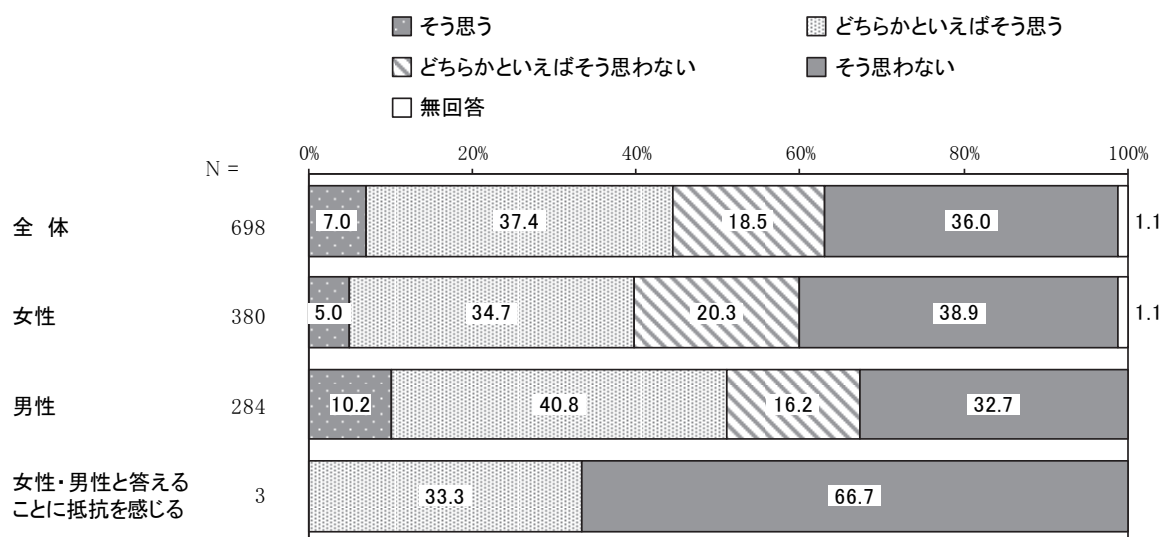
問2 あなたは、次のような考えに対してどのように思われますか。各項目についてあなたのお考えに近い番号に○をつけてください。(それぞれ1つずつに○)

2. 妻子を養うのは男の責任である、3. 結婚は、個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい、6. 子どもが3歳くらいまでは母親の元で育てるべきであるで「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた「そう思う」の割合が高く、6割を超えています。一方、7. 夫の親を妻が介護・看護するのは当然であるで「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた「そう思わない」の割合が高く、約7割となっています。



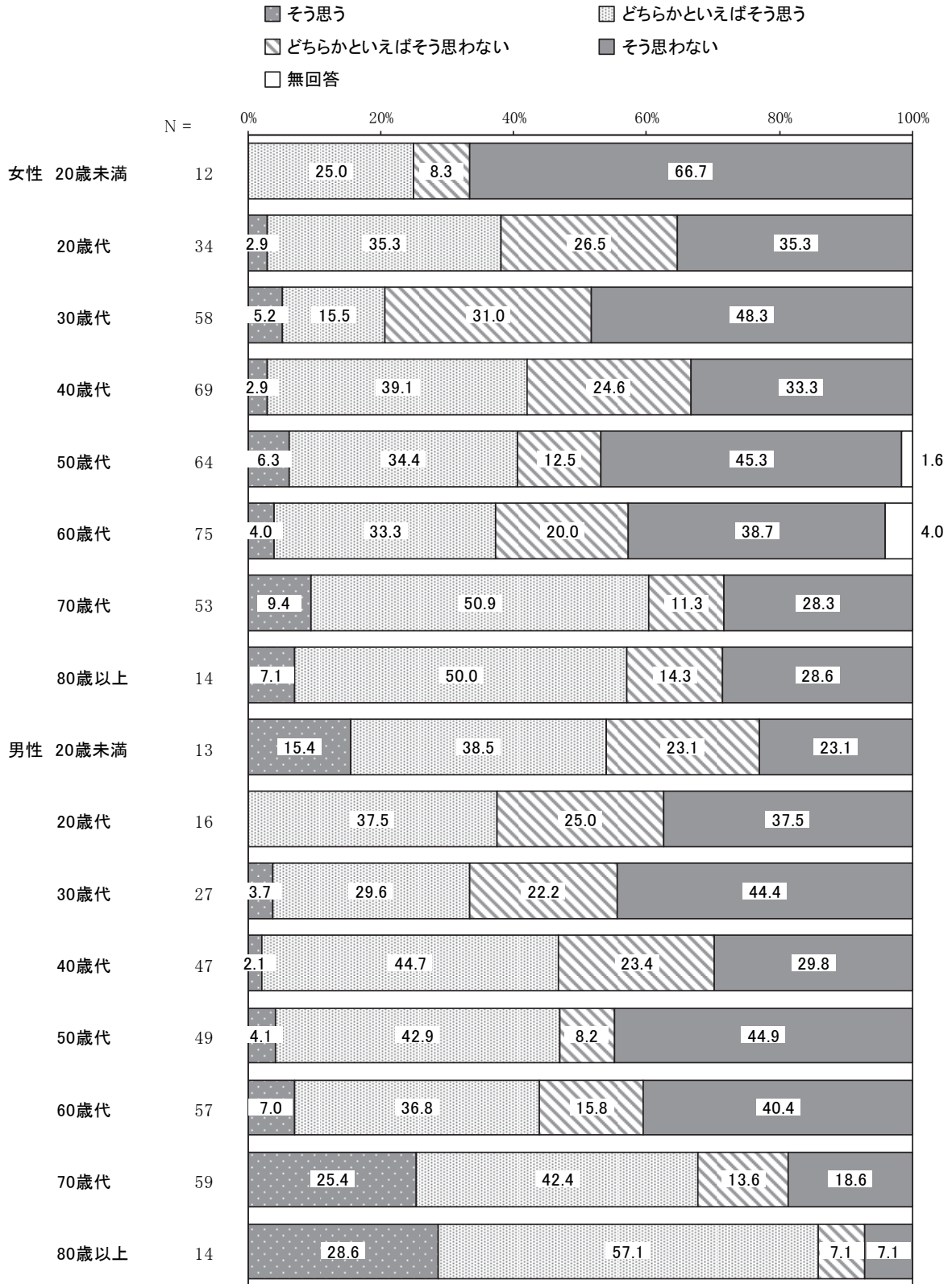
1. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

“そう思う”の割合が44.4%、“そう思わない”の割合が54.5%となっています。
性別で見ると、男性に比べ、女性で“そう思わない”の割合が高くなっています。



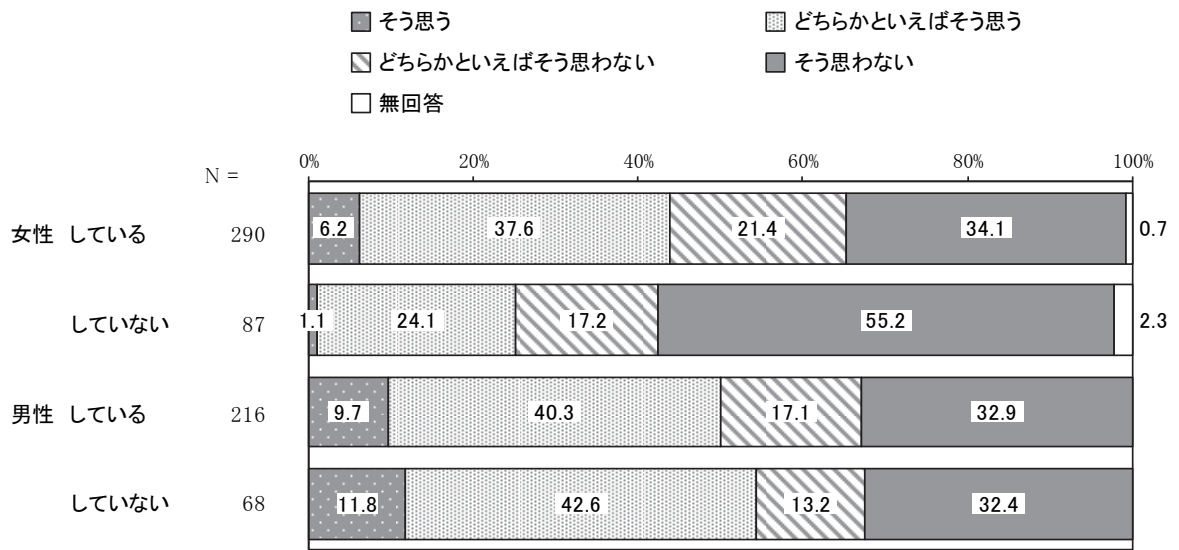
【性・年代別】

性・年代別で見ると、他に比べ、女性の70歳代、80歳以上、男性の80歳以上で“そう思う”の割合が高くなっています。



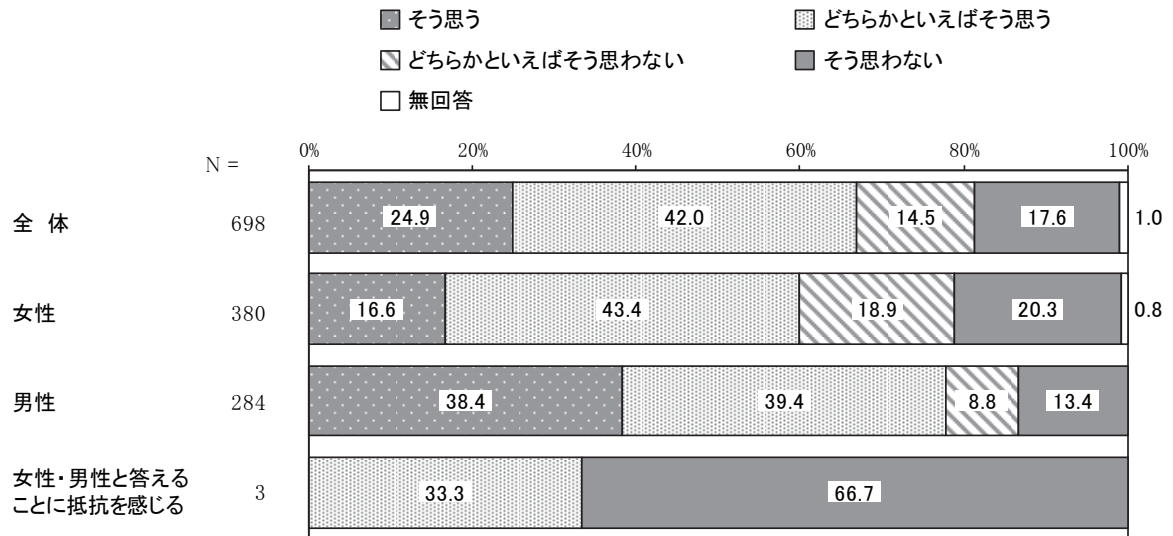
【結婚しているか別】

結婚しているか別でみると、女性のしているで“そう思う”の割合が高くなっています。



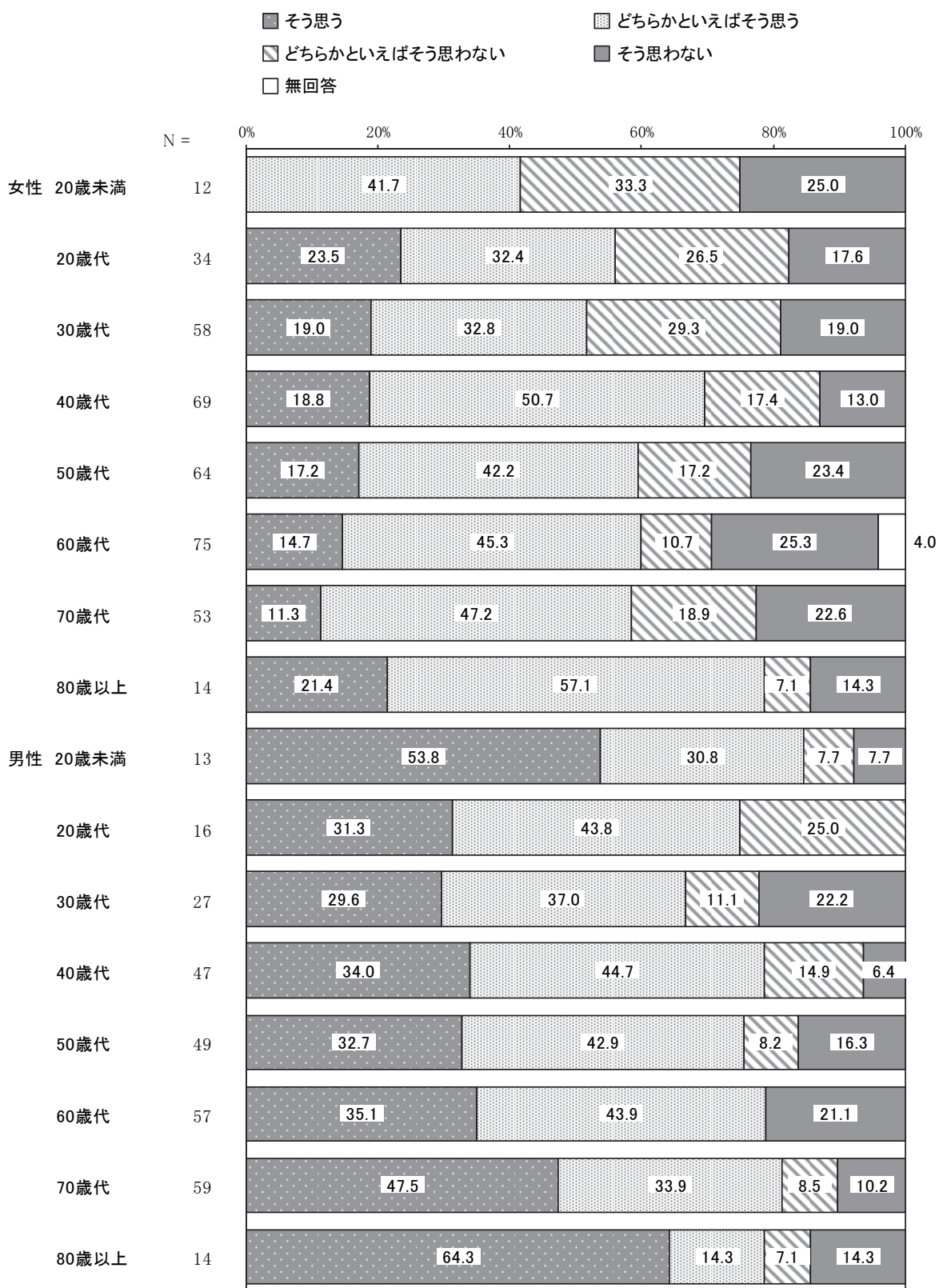
2. 妻子を養うのは男の責任である

“そう思う”の割合が66.9%、“そう思わない”の割合が32.1%となっています。性別で見ると、男性に比べ、女性で“そう思わない”の割合が高くなっています。



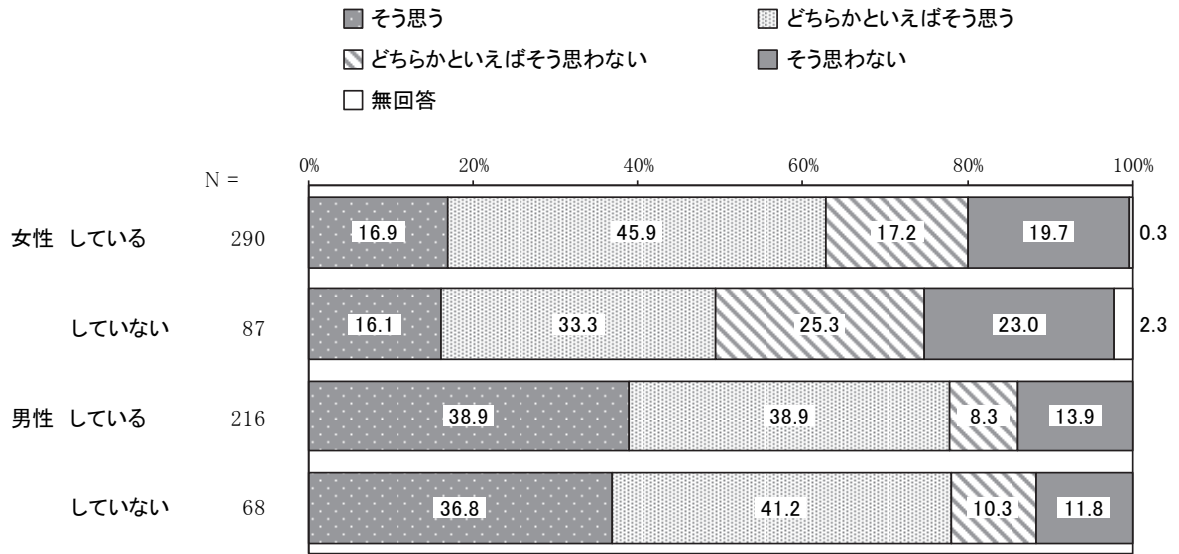
【性・年代別】

性・年代別で見ると、他に比べ、女性の80歳以上、男性の20歳未満で“そう思う”の割合が高くなっています。



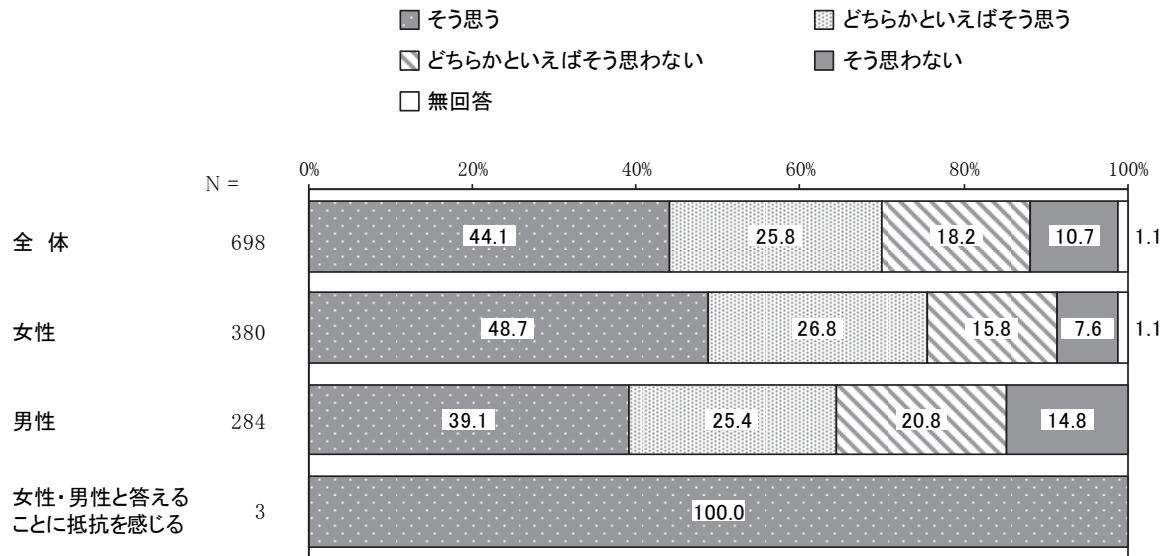
【結婚しているか別】

結婚しているか別でみると、女性のしているで“そう思う”の割合が高くなっています。



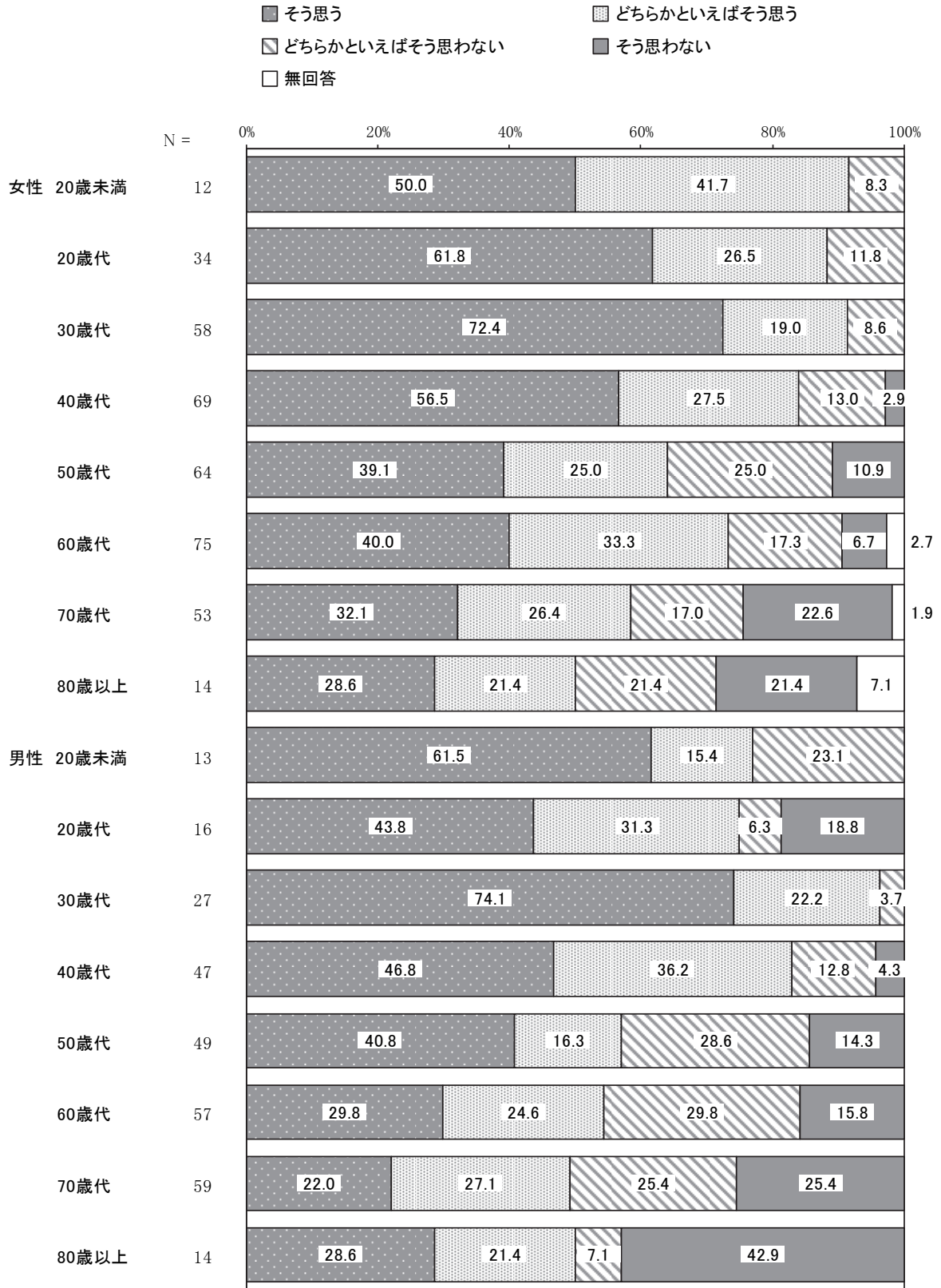
3. 結婚は、個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

“そう思う”の割合が69.9%、“そう思わない”の割合が28.9%となっています。
性別で見ると、男性に比べ、女性で“そう思う”の割合が高くなっています。



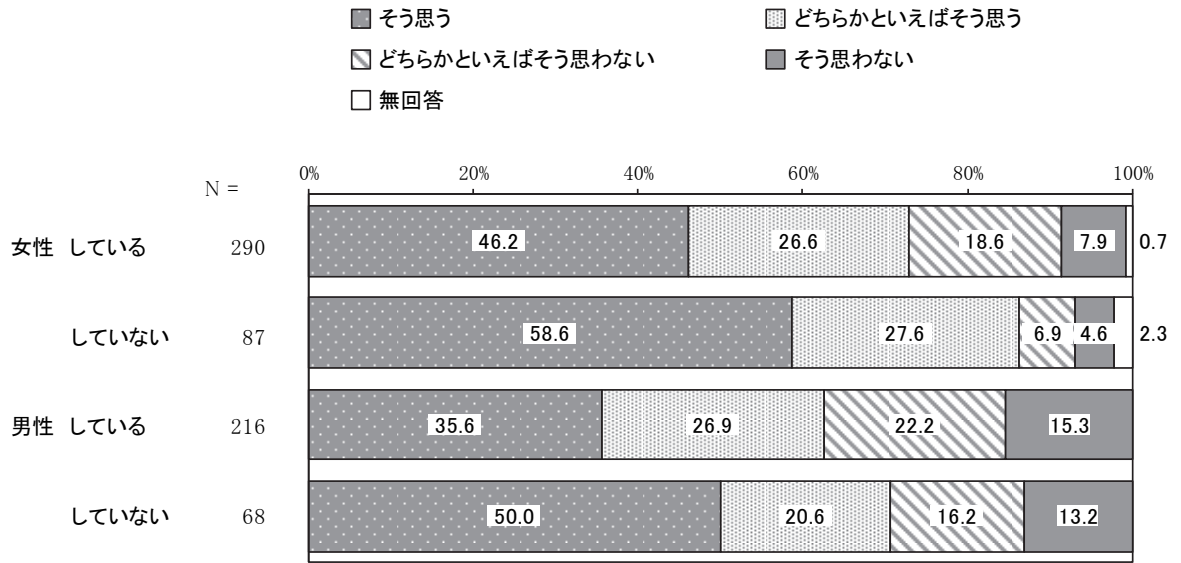
【性・年代別】

性・年代別で見ると、他に比べ、女性の20歳未満、20歳代、30歳代、40歳代、男性の30歳代で“そう思う”の割合が高くなっています。



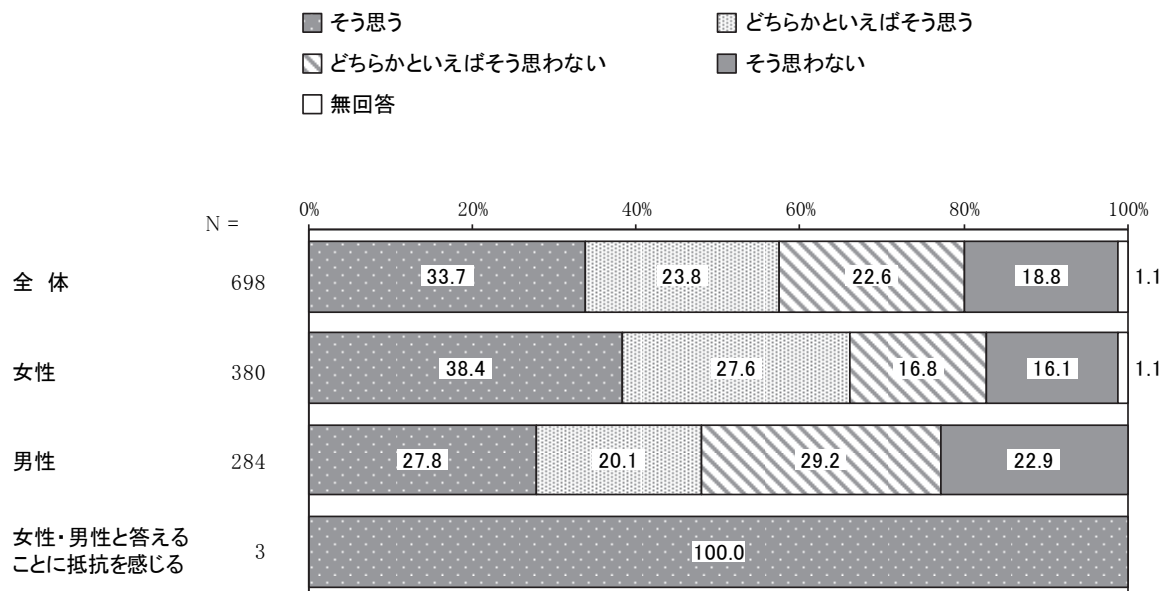
【結婚しているか別】

結婚しているか別でみると、女性のしていないで“そう思う”の割合が高くなっています。



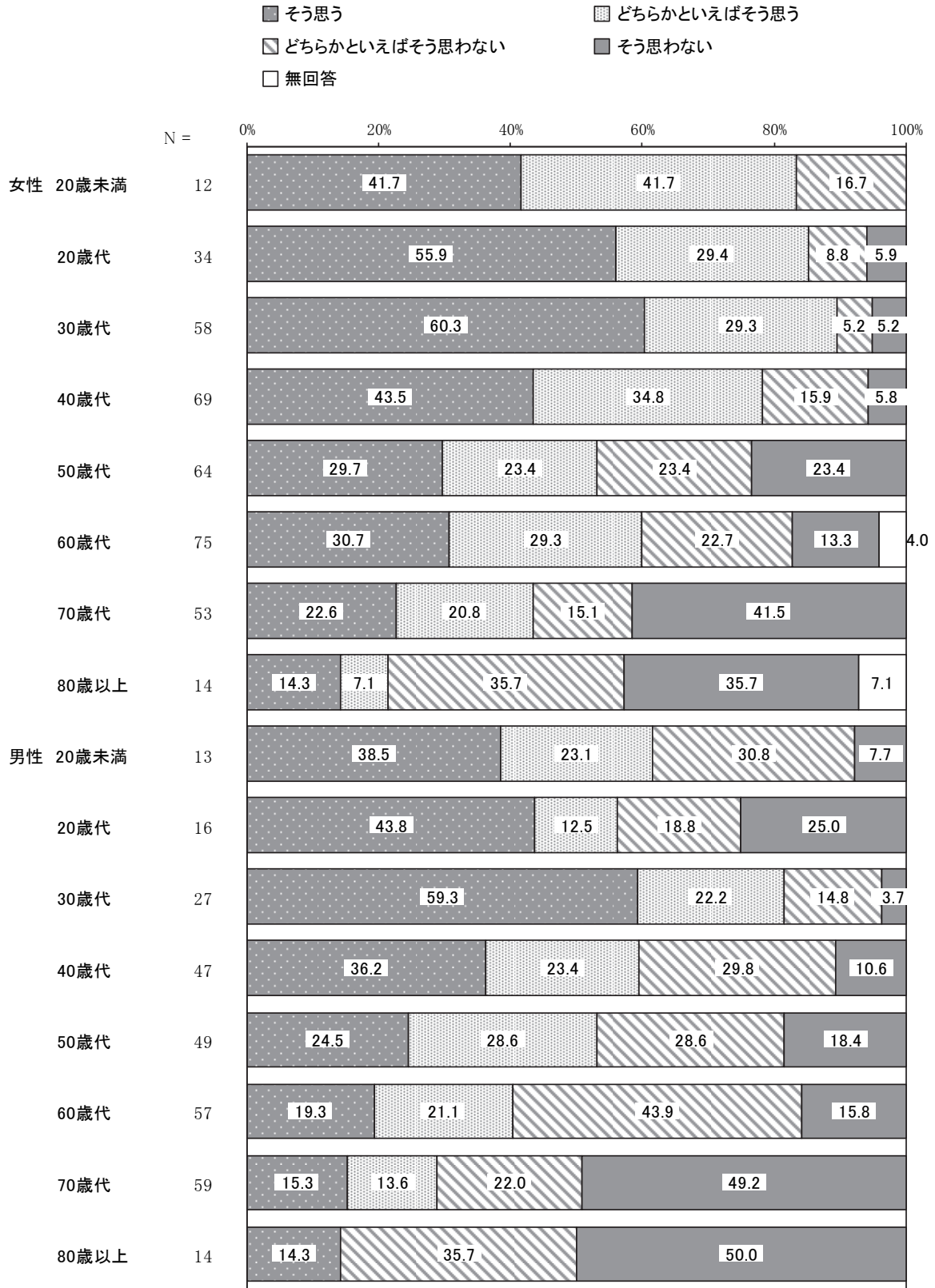
4. 結婚しても必ずしも子供をもつ必要はない

“そう思う”の割合が57.5%、“そう思わない”の割合が41.4%となっています。
性別で見ると、男性に比べ、女性で“そう思う”の割合が高くなっています。



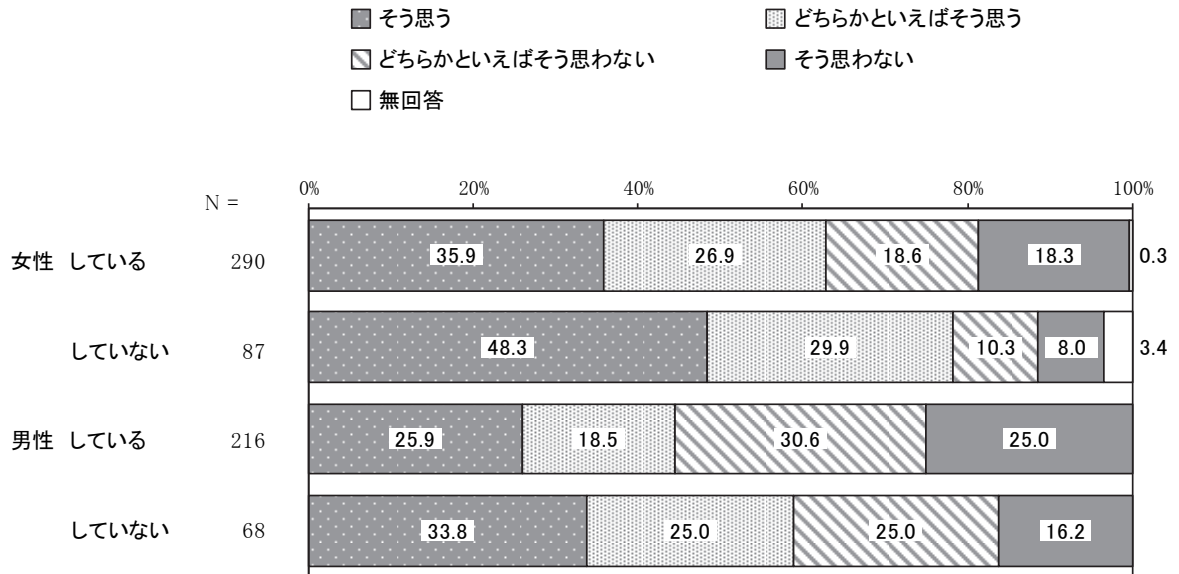
【性・年代別】

性・年代別で見ると、他に比べ、女性の20歳未満、20歳代、30歳代、40歳代、男性の30歳代で“そう思う”の割合が高くなっています。



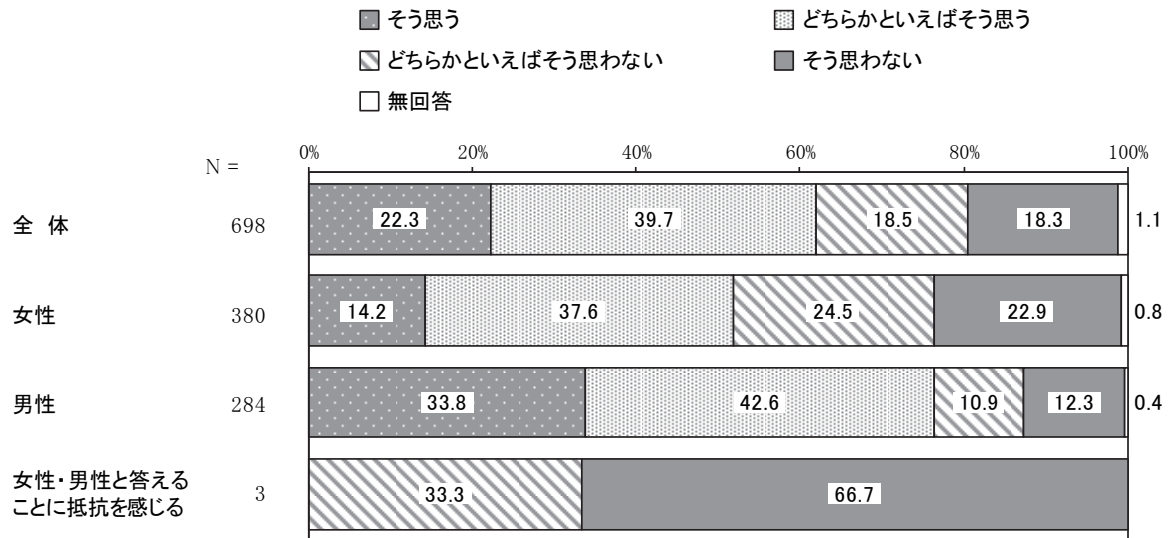
【結婚しているか別】

結婚しているか別でみると、男女ともにしていないで“そう思う”の割合が高くなっています。



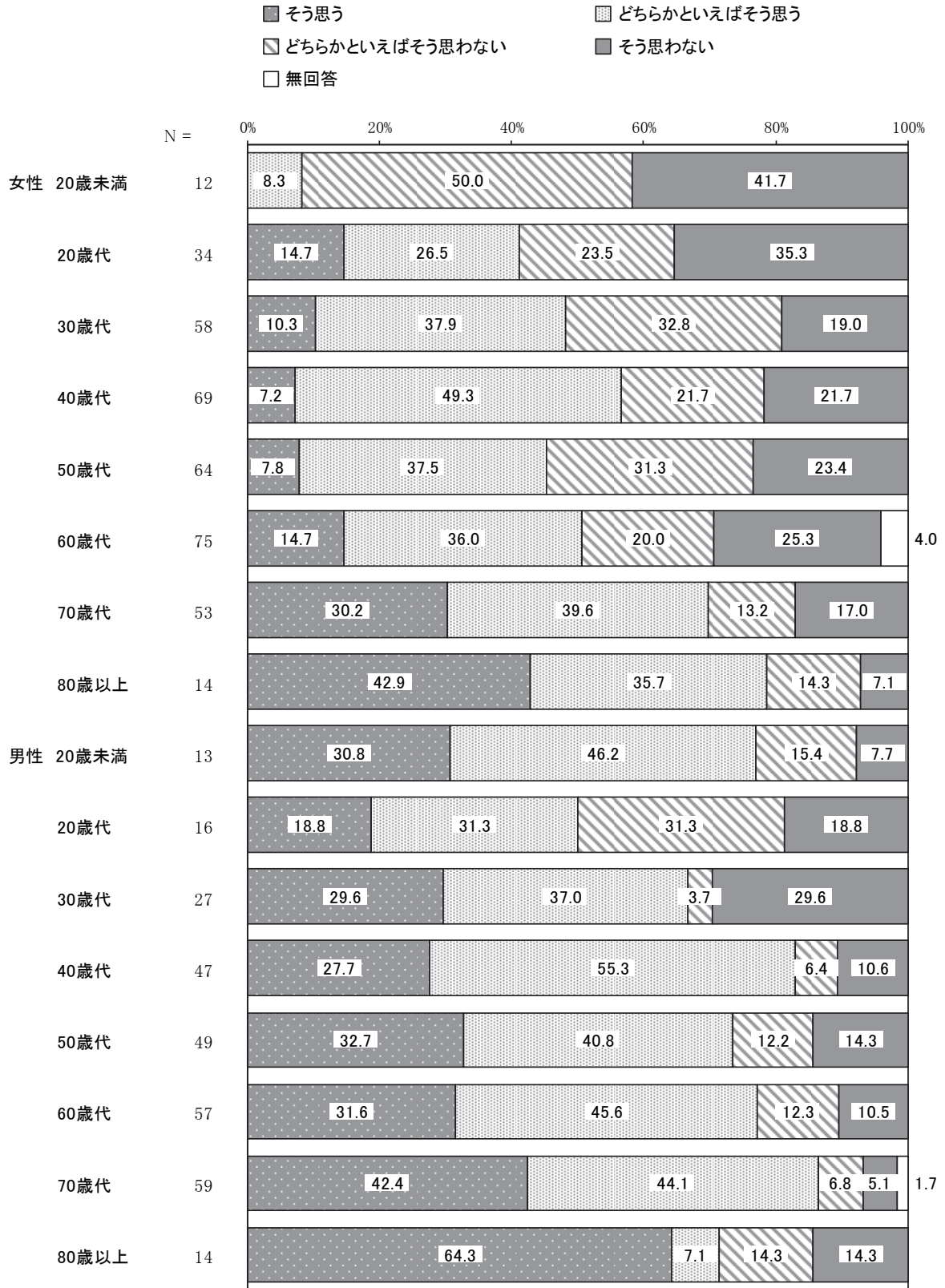
5. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい

“そう思う”の割合が62.0%、“そう思わない”の割合が36.8%となっています。
性別で見ると、男性に比べ、女性で“そう思わない”の割合が高くなっています。



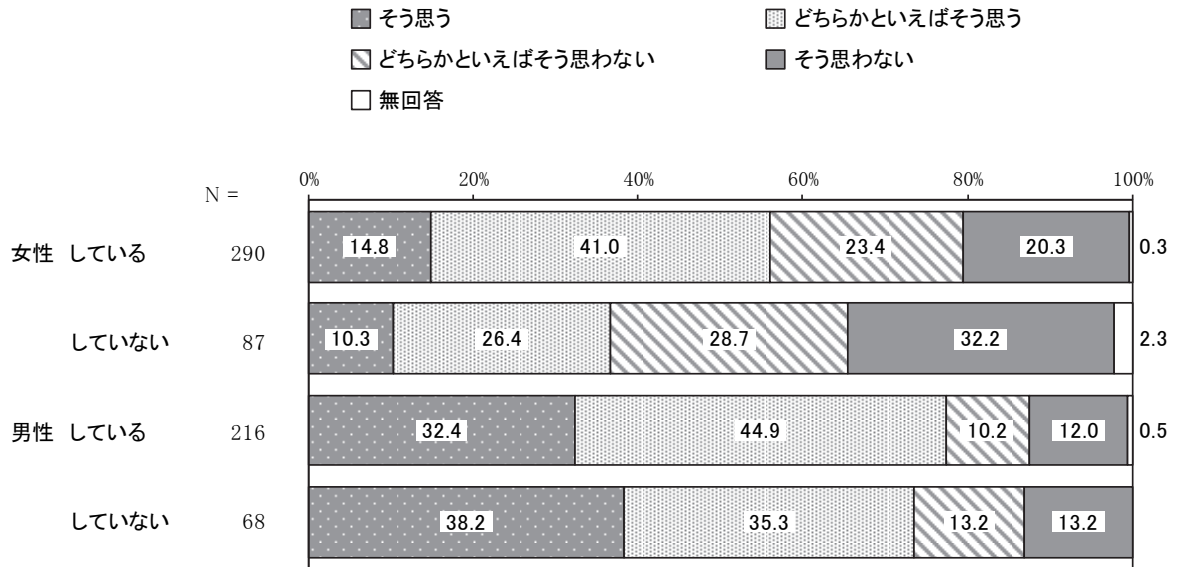
【性・年代別】

性・年代別で見ると、他に比べ、女性の70歳代、80歳以上、男性の20歳未満、40歳代、70歳代で“そう思う”の割合が高くなっています。



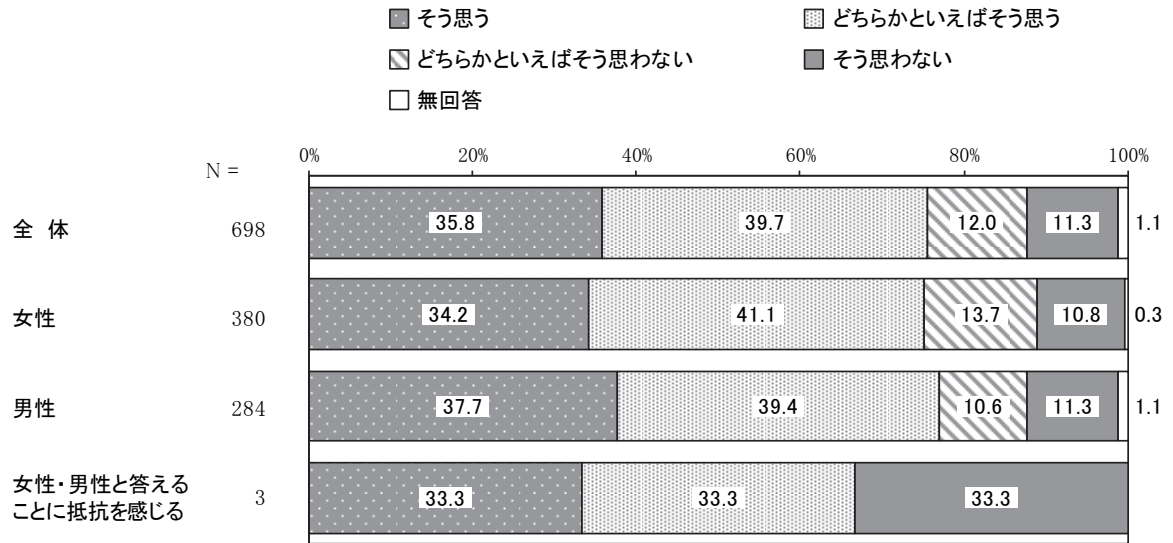
【結婚しているか別】

結婚しているか別でみると、女性のしているで“そう思う”の割合が高くなっています。



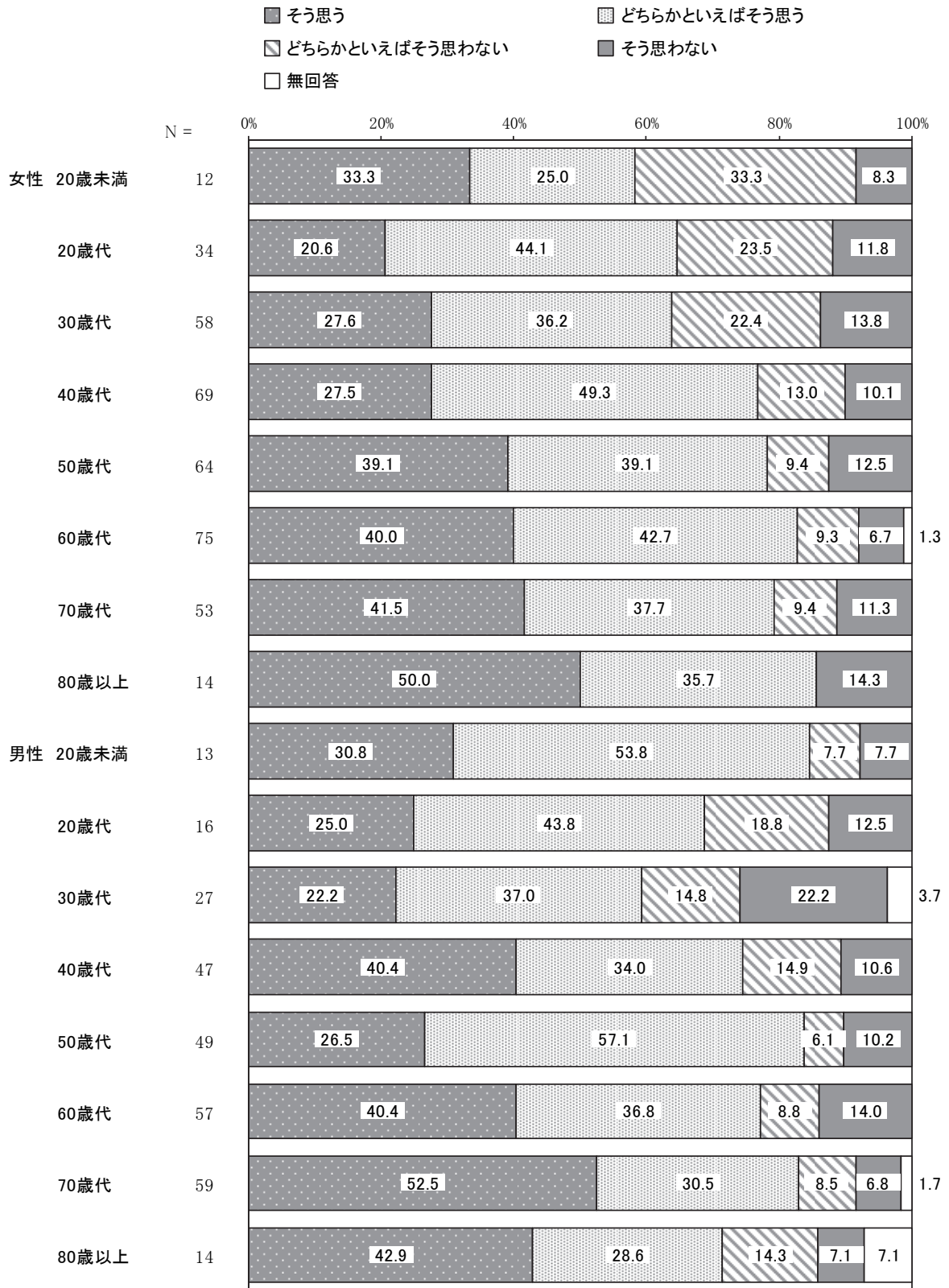
6. 子どもが3歳くらいまでは母親の元で育てるべきである

“そう思う”の割合が75.5%、“そう思わない”の割合が23.3%となっています。
性別で見ると、大きな差異はみられません。



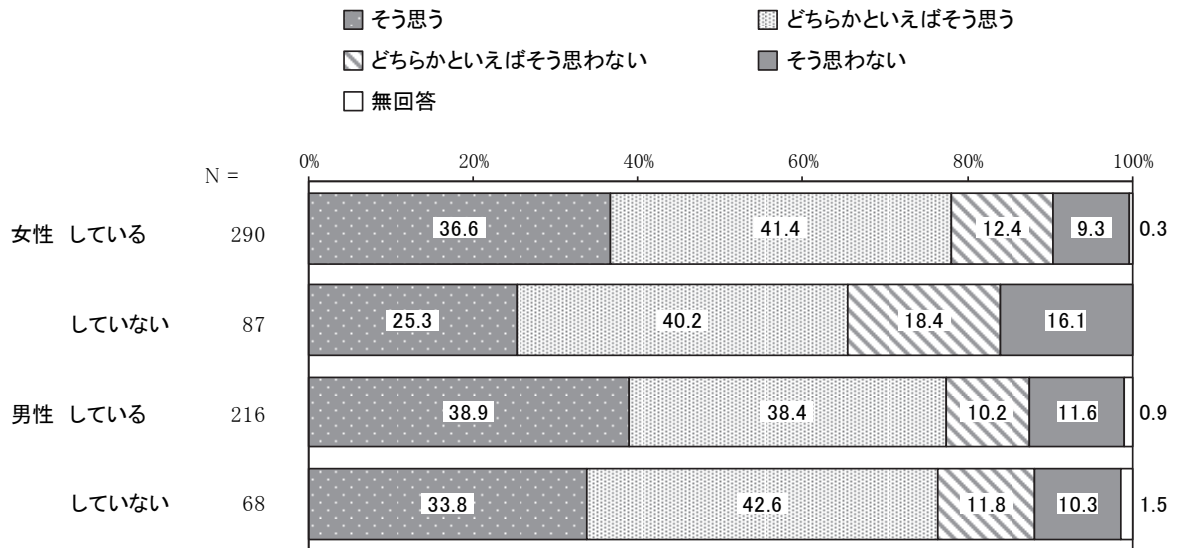
【性・年代別】

性・年代別でみると、他に比べ、女性の40歳代、50歳代、60歳代、70歳代、80歳以上、男性の20歳未満、50歳代、70歳代で“そう思う”の割合が高くなっています。



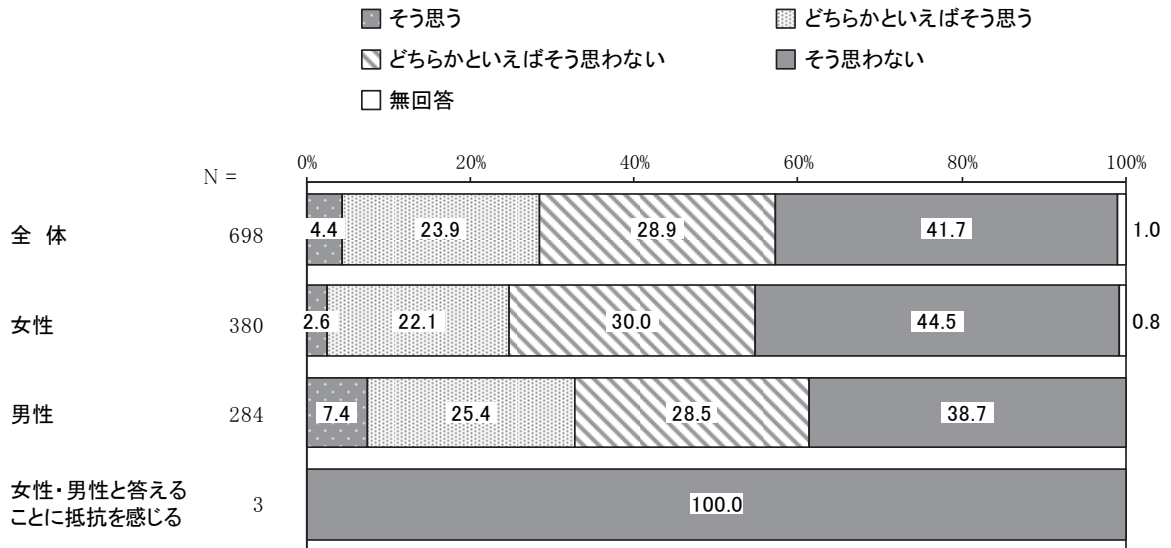
【結婚しているか別】

結婚しているか別でみると、女性のしているで“そう思う”の割合が高くなっています。



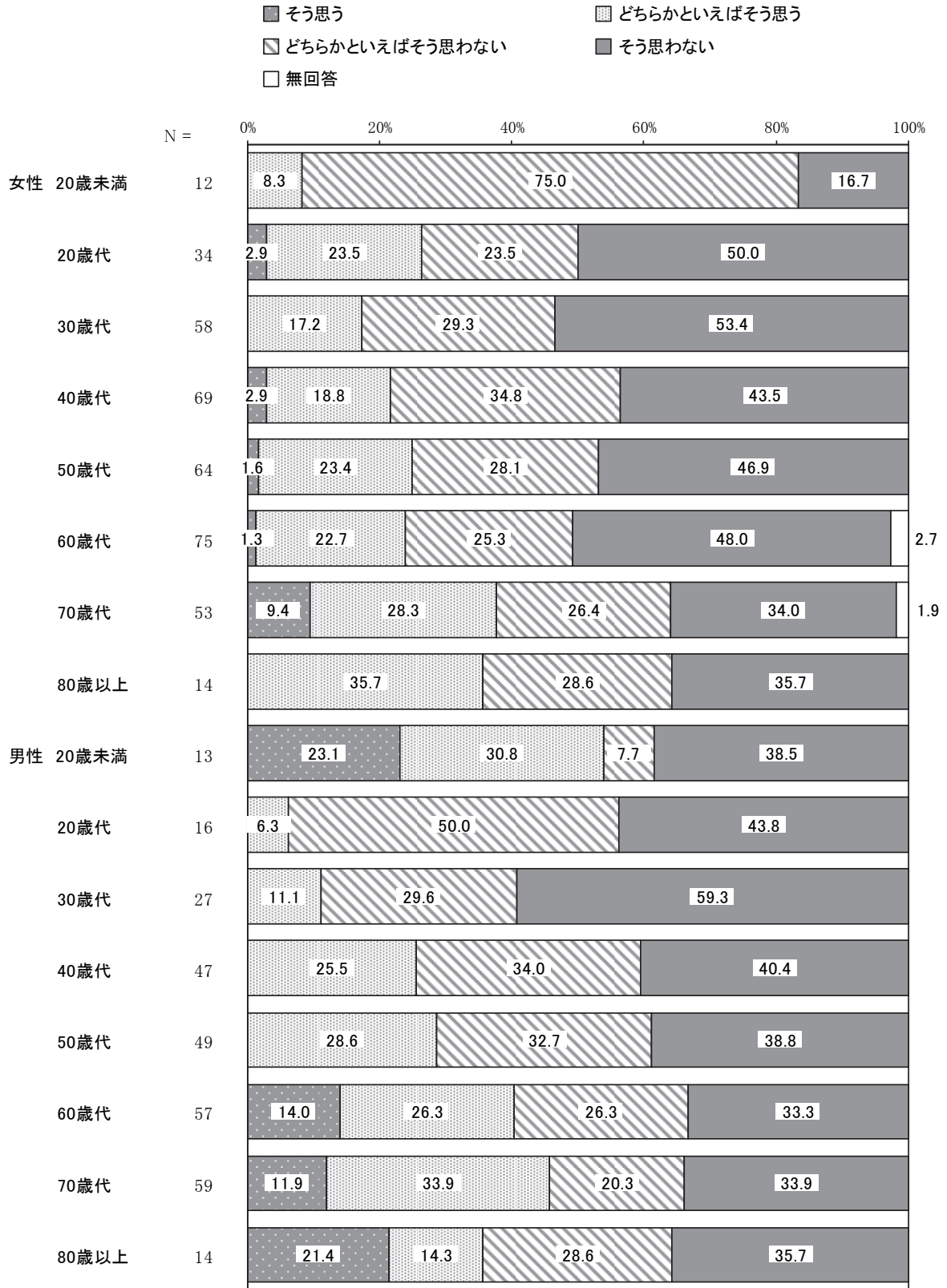
7. 夫の親を妻が介護・看護するのは当然である

“そう思う”の割合が28.3%、“そう思わない”の割合が70.6%となっています。
性別で見ると、男性に比べ、女性で“そう思わない”の割合が高くなっています。



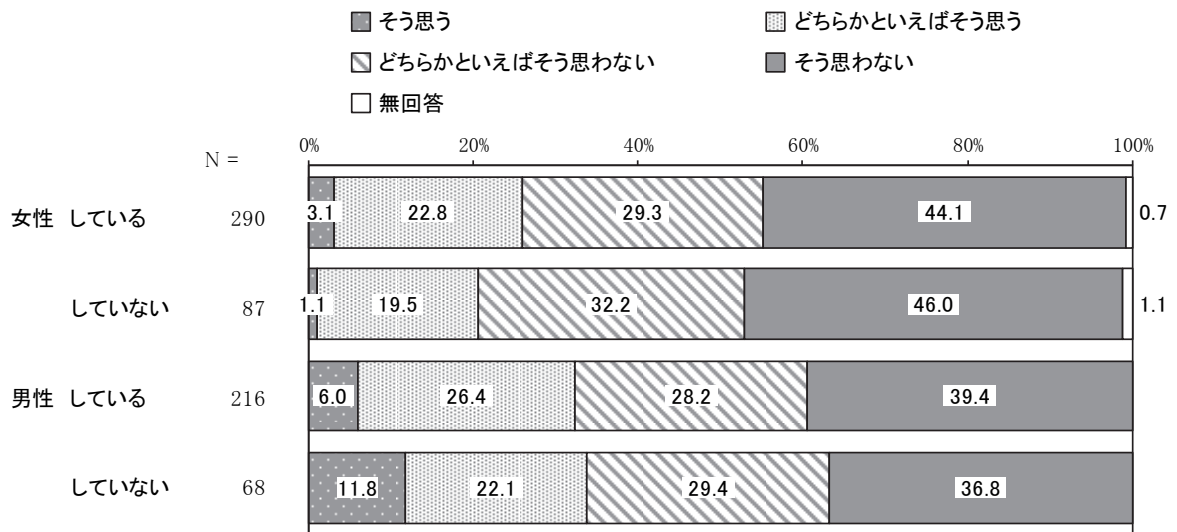
【性・年代別】

性・年代別で見ると、他に比べ、女性の70歳代、80歳以上、男性の20歳未満で“そう思う”の割合が高くなっています。



【結婚しているか別】

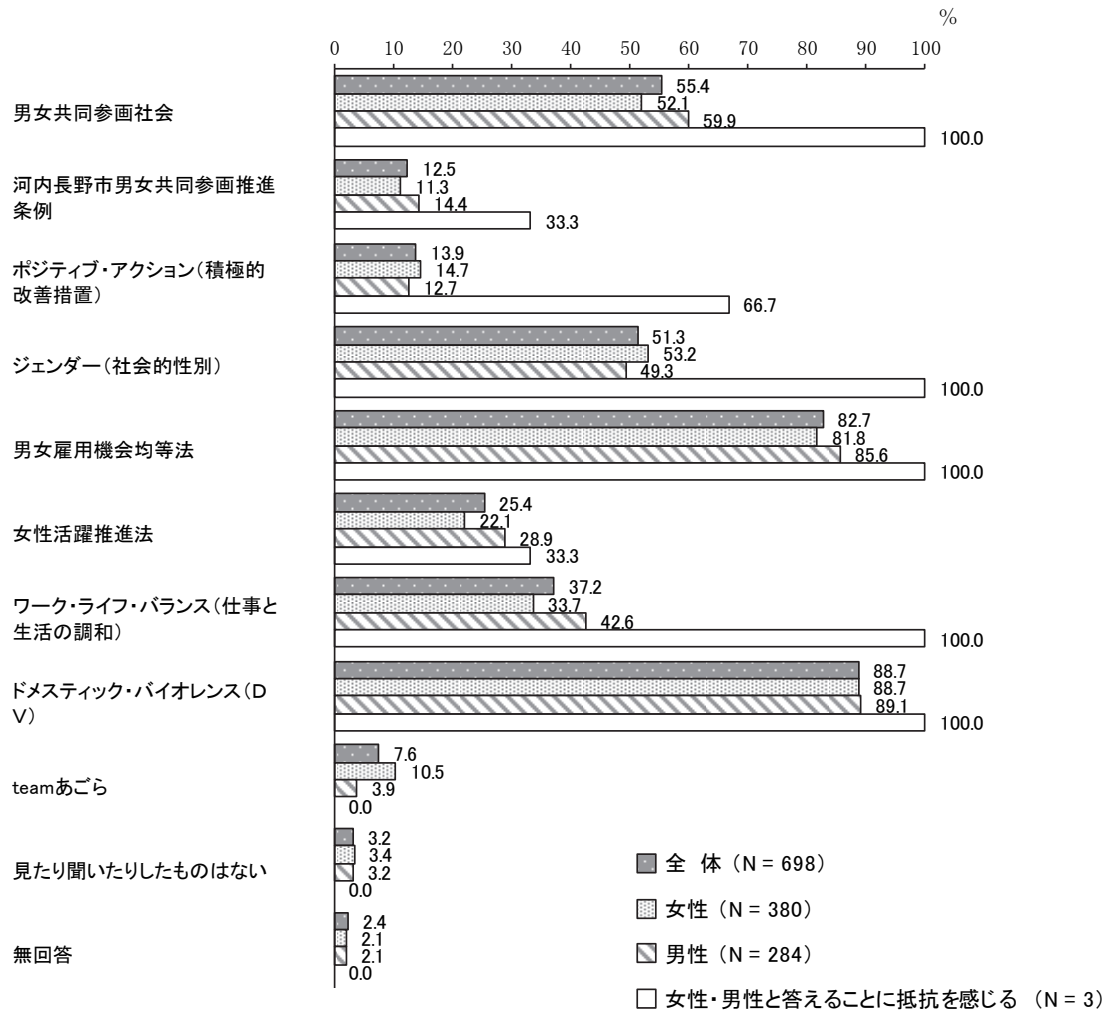
結婚しているか別でみると、女性のしているで“そう思う”の割合が高くなっています。



問3 これらの言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。(あてはまるものすべてに○)

「ドメスティック・バイオレンス (DV)」の割合が 88.7%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」の割合が 82.7%、「男女共同参画社会」の割合が 55.4%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「team あごら」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「男女共同参画社会」「女性活躍推進法」「ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)」の割合が高くなっています。



【年代別】

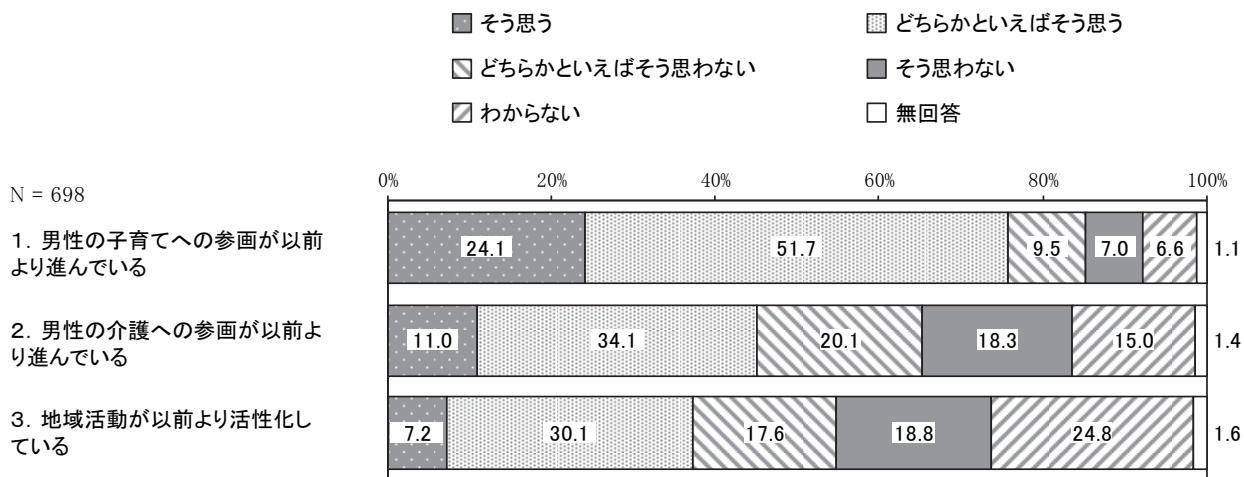
年代別でみると、他に比べ、20歳代、70歳代で「男女共同参画社会」の割合が、20歳代で「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の割合が、30歳代から50歳代で「ドメスティック・バイオレンス（DV）」の割合が高くなっています。また、60歳代、70歳代で「女性活躍推進法」の割合が、70歳代で「河内長野市男女共同参画推進条例」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	男女共同参画社会	河内長野市男女共同参画 推進条例	ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	ジェンダー (社会的性別)	男女雇用機会均等法	女性活躍推進法	ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	ドメスティック・バイオレンス (DV)	t e a mあいら	見たり聞いたりしたもの はない	無回答
20歳未満	27	51.9	—	11.1	70.4	81.5	18.5	44.4	85.2	—	3.7	3.7
20歳代	55	70.9	7.3	21.8	74.5	81.8	27.3	50.9	87.3	1.8	1.8	1.8
30歳代	88	39.8	6.8	8.0	69.3	81.8	22.7	40.9	92.0	5.7	3.4	—
40歳代	120	50.0	8.3	6.7	49.2	84.2	19.2	39.2	94.2	7.5	3.3	1.7
50歳代	116	58.6	10.3	12.9	59.5	83.6	25.9	38.8	92.2	11.2	1.7	0.9
60歳代	139	54.0	11.5	19.4	39.6	82.0	32.4	33.8	89.2	8.6	1.4	4.3
70歳代	116	69.0	30.2	19.8	39.7	88.8	31.9	34.5	88.8	10.3	0.9	2.6
80歳以上	30	43.3	13.3	6.7	13.3	56.7	3.3	10.0	46.7	3.3	26.7	6.7

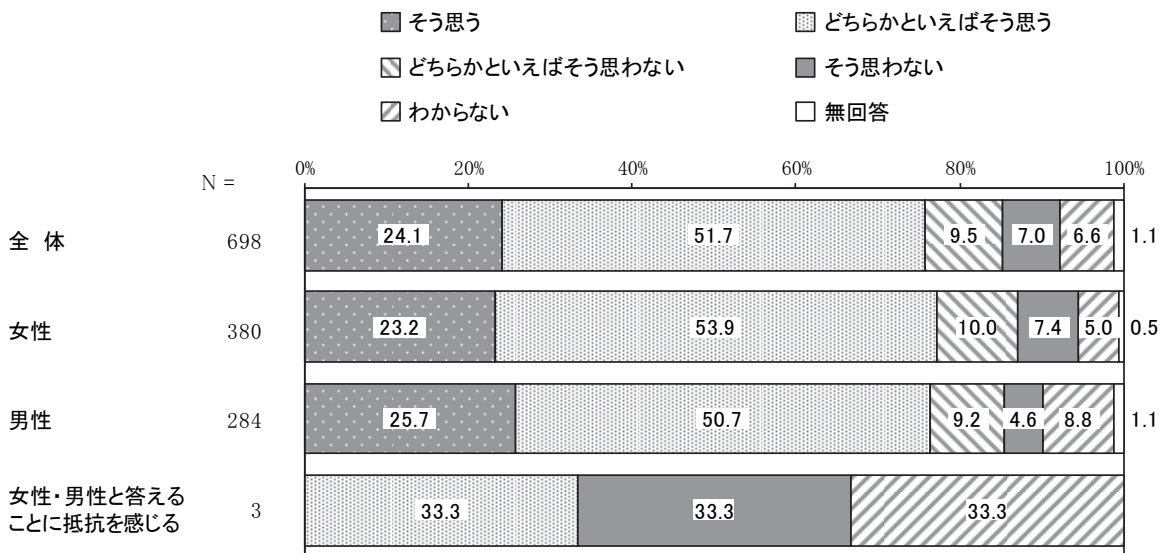
問4 あなたご自身の経験に照らして、次にあげることがらについて、あなたのお考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つずつに○)

1. 男性の子育てへの参画が以前より進んでいるで「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が高く、7割半ばとなっています。



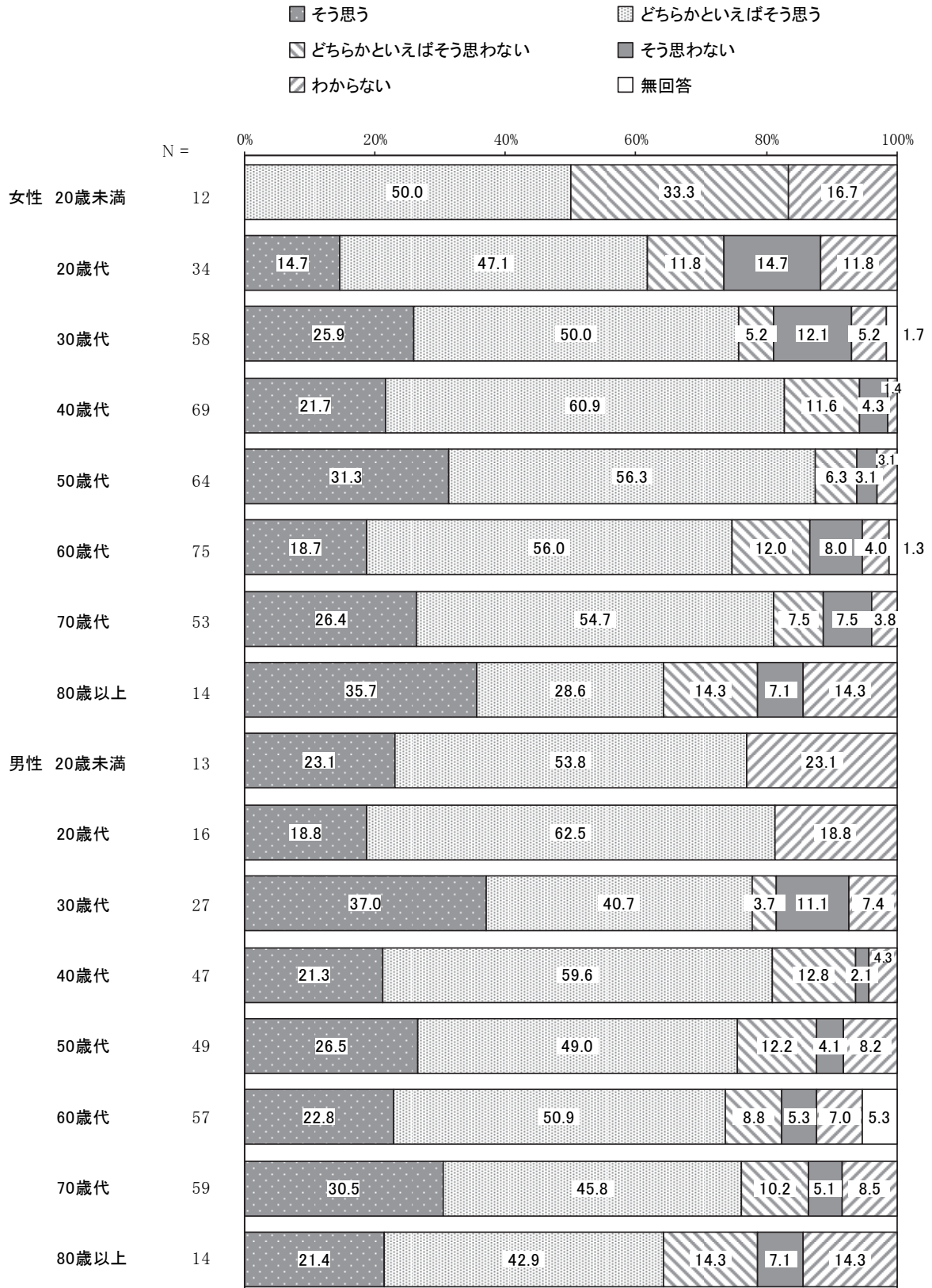
1. 男性の子育てへの参画が以前より進んでいる

“そう思う”の割合が75.8%、“そう思わない”の割合が16.5%となっています。性別で見ると、大きな差異はみられません。



【性・年代別】

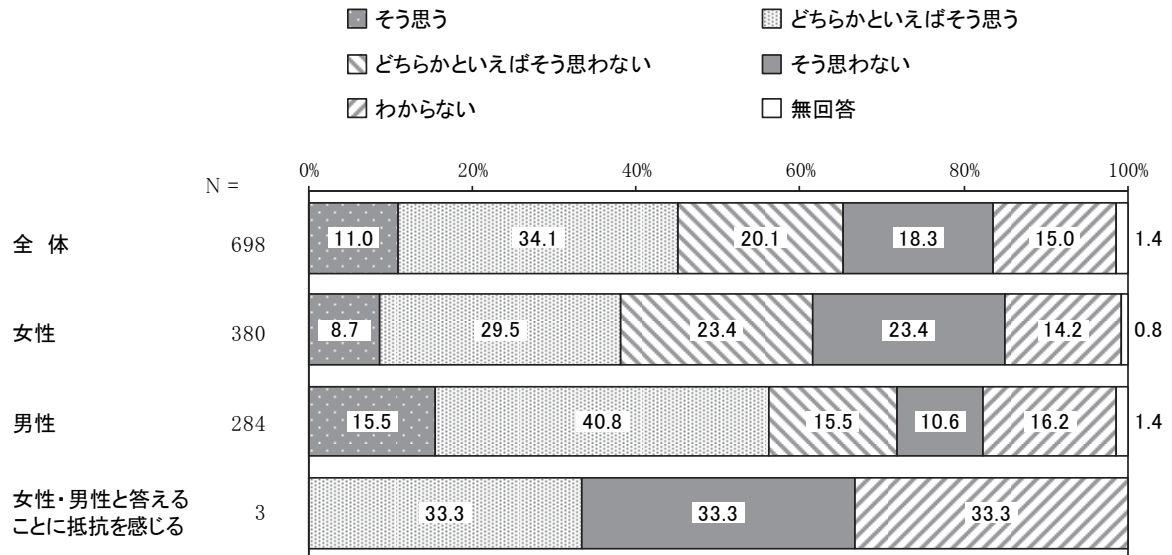
性・年代別で見ると、他に比べ、女性の40歳代、50歳代、70歳代、男性の20歳代、40歳代で“そう思う”の割合が高くなっています。



2. 男性の介護への参画が以前より進んでいる

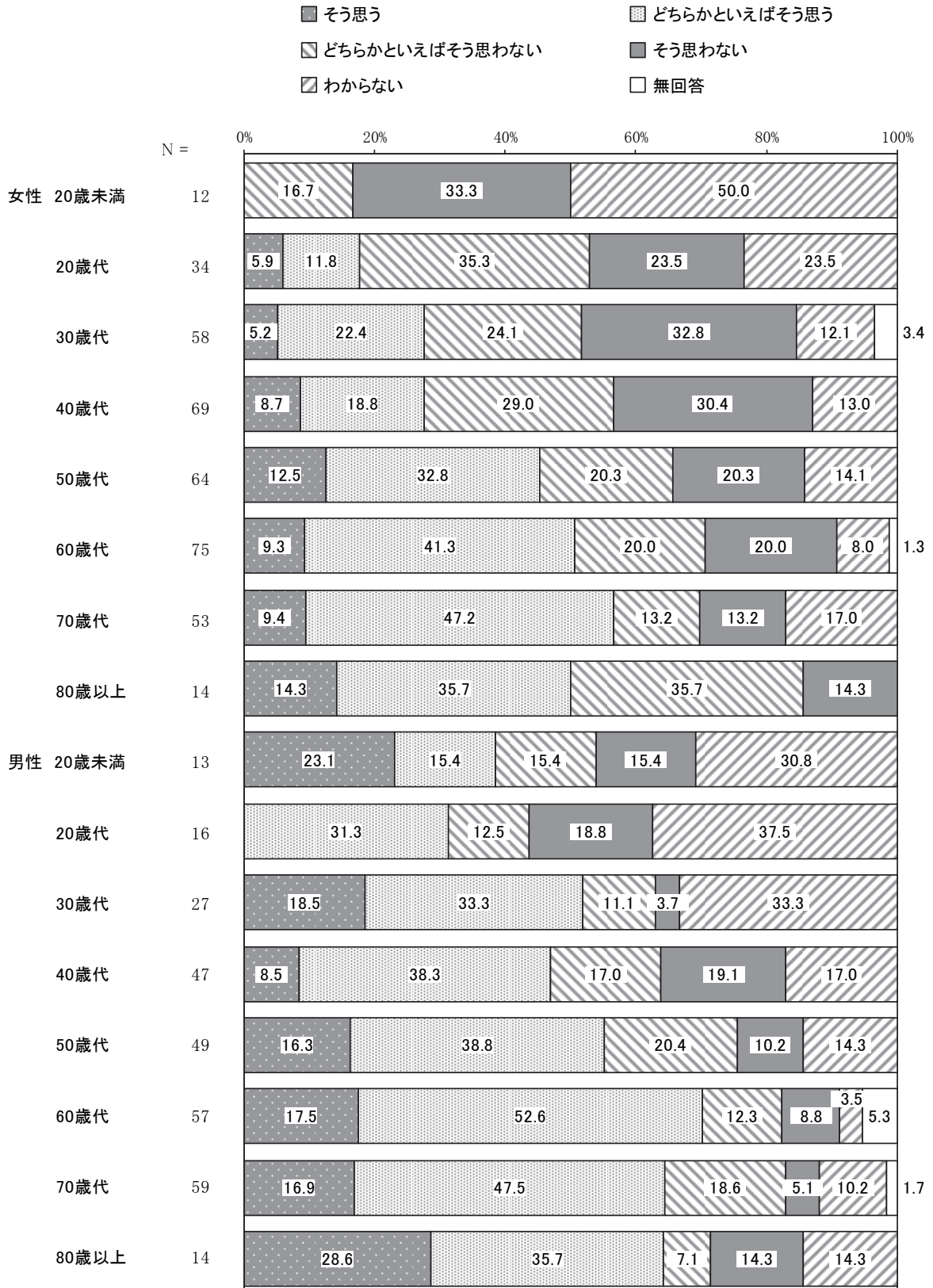
“そう思う”の割合が45.1%、“そう思わない”の割合が38.4%となっています。

性別で見ると、男性に比べ、女性で「そう思わない」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「そう思う」の割合が高くなっています。



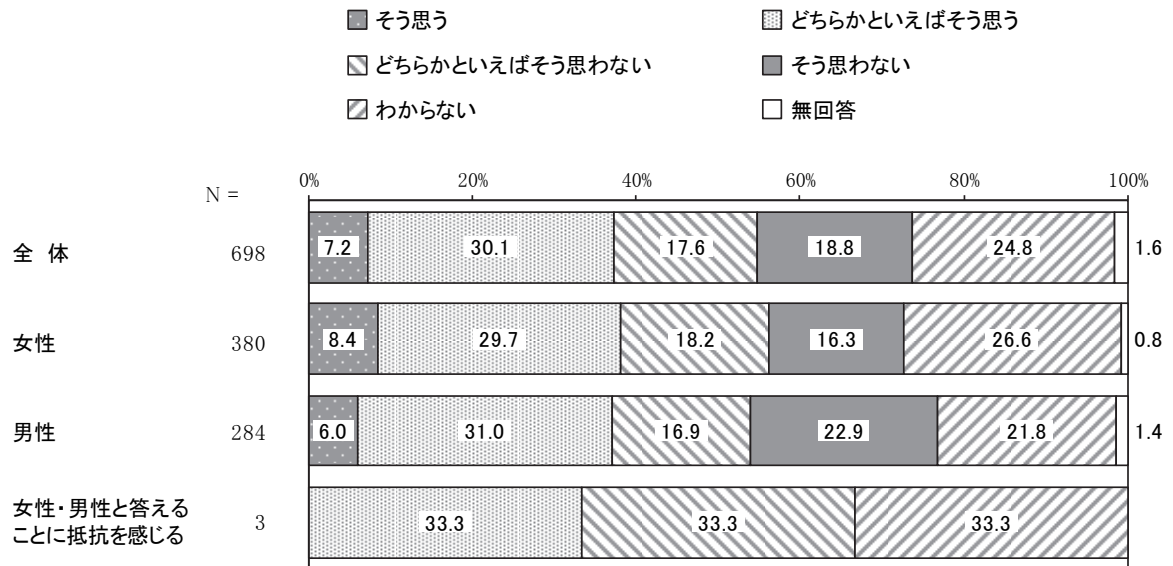
【性・年代別】

性・年代別で見ると、他に比べ、女性の70歳代、男性の60歳代で“そう思う”の割合が高くなっています。



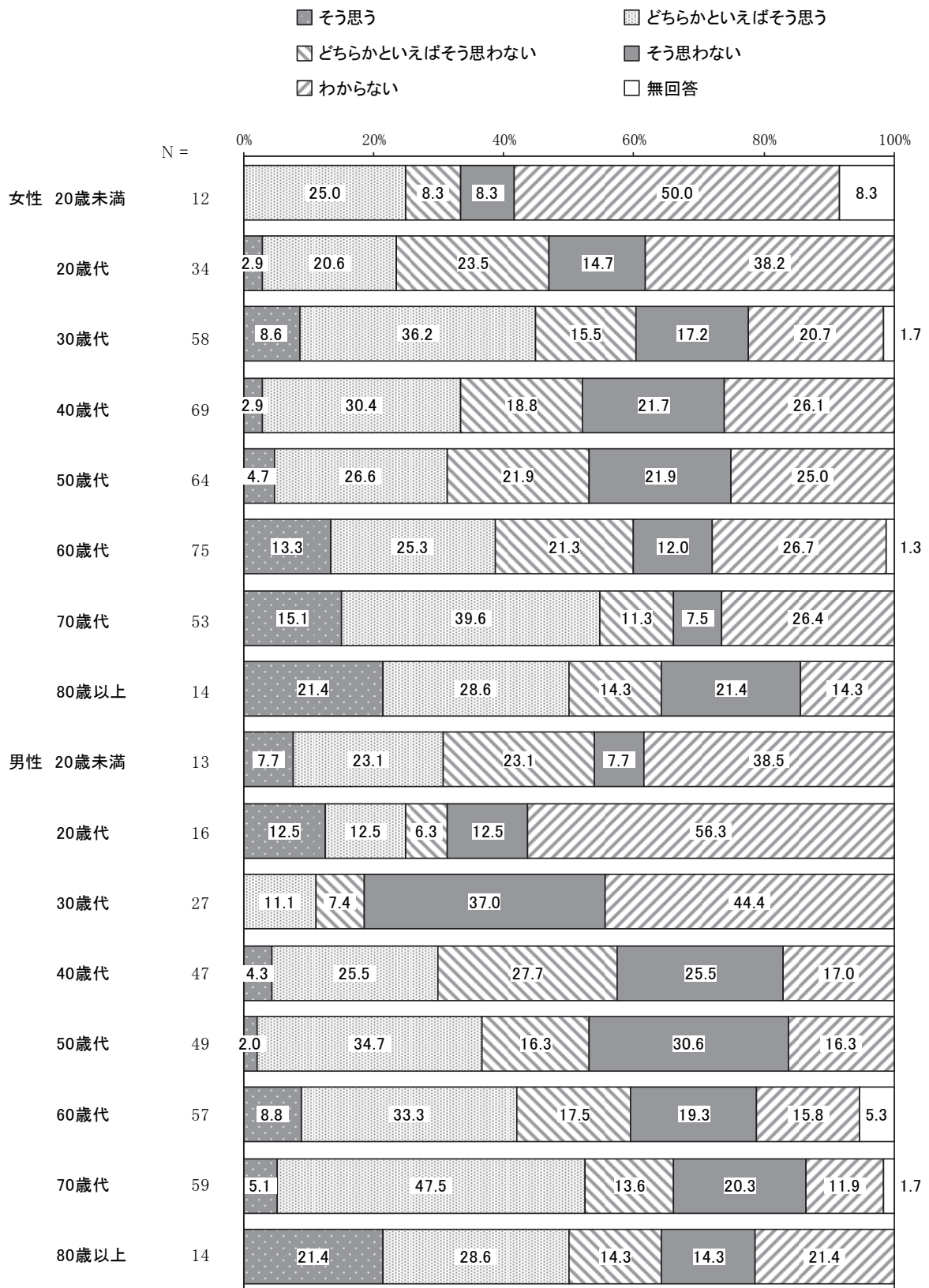
3. 地域活動が以前より活性化している

“そう思う”の割合が37.3%、“そう思わない”の割合が36.4%となっています。
性別で見ると、女性に比べ、男性で「そう思わない」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

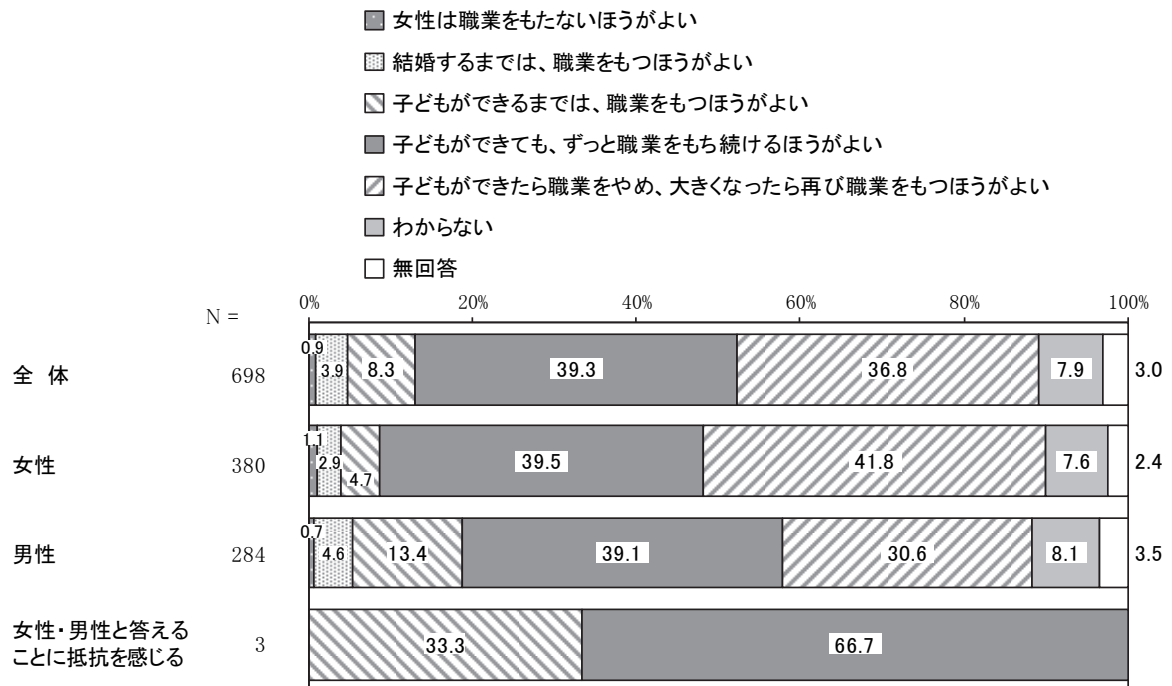
性・年代別でみると、男女ともに70歳以上で“そう思う”の割合が高くなっています。



問5 一般的に、女性が職業をもつことについて、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(1つだけに○)

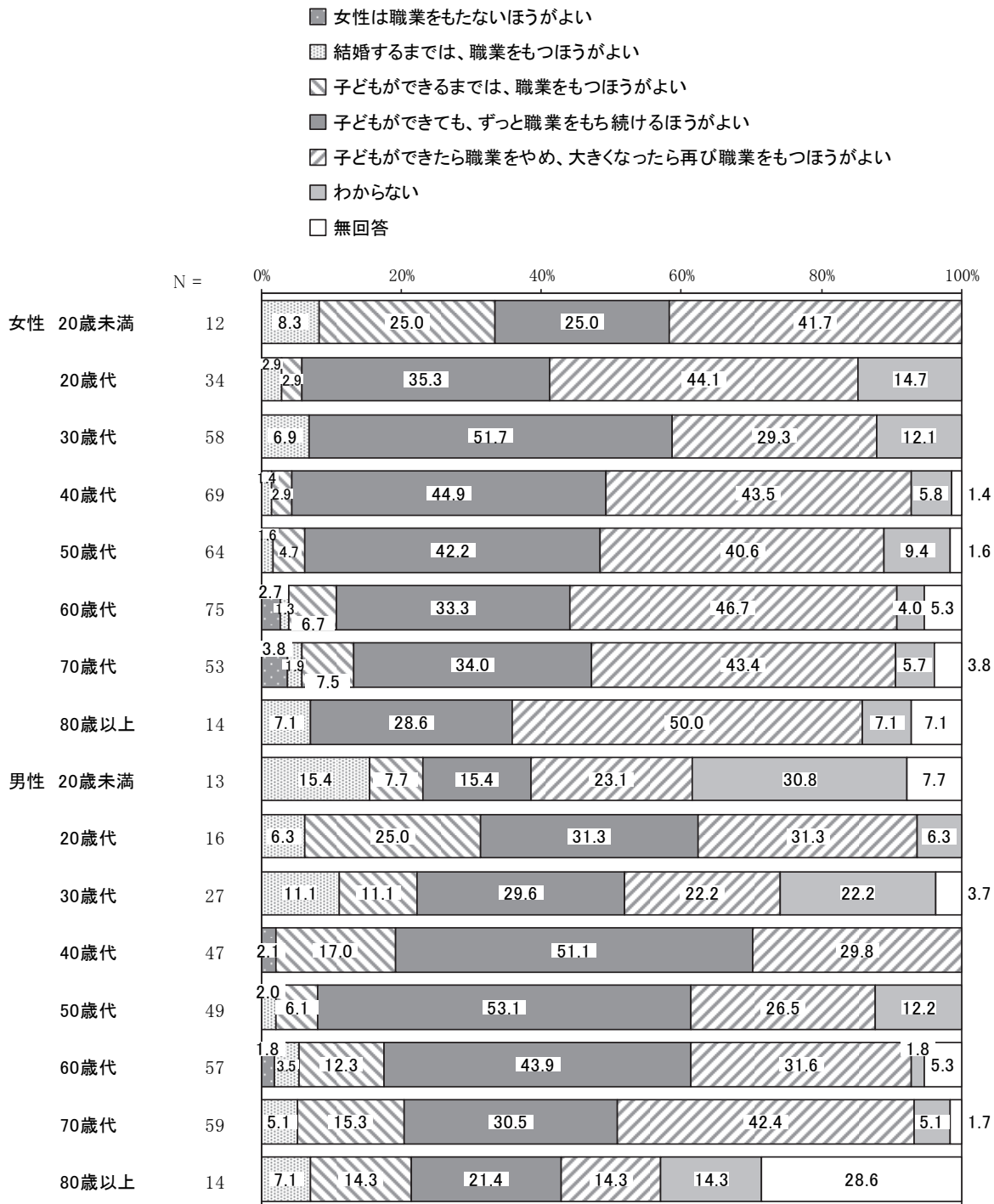
「子どもができて、ずっと職業をもち続けるほうがよい」の割合が39.3%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」の割合が36.8%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「子どもができるまでは、職業をもつほうがよい」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

性・年代別でみると、他に比べ、女性の20歳未満、男性の20歳代で「子どもができるまでは、職業をもつほうがよい」の割合が、女性の30歳代、男性の40歳代、50歳代で「子どもができて、ずっと職業をもち続けるほうがよい」の割合が高くなっています。また、女性の80歳以上、男性の70歳代で「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」の割合が高くなっています。

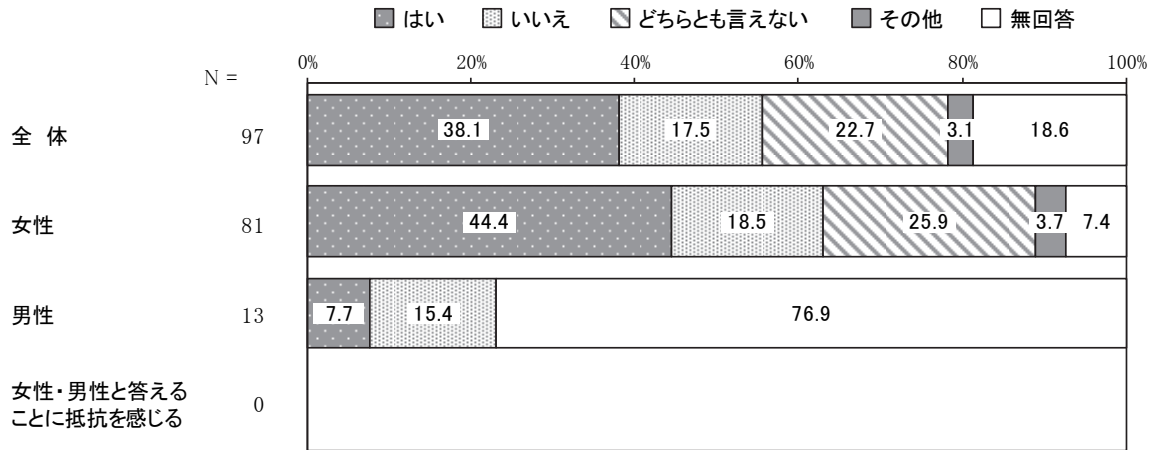


64歳以下の女性の方で、現在、家事専業または、無職の方（学生は除く）におうかがいします

問6 あなたは今後働きたいとお考えですか。（1つだけに○）

「はい」の割合が38.1%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」の割合が22.7%、「いいえ」の割合が17.5%となっています。

性別で見ると、男性に比べ、女性で「はい」「どちらとも言えない」の割合が高くなっています。

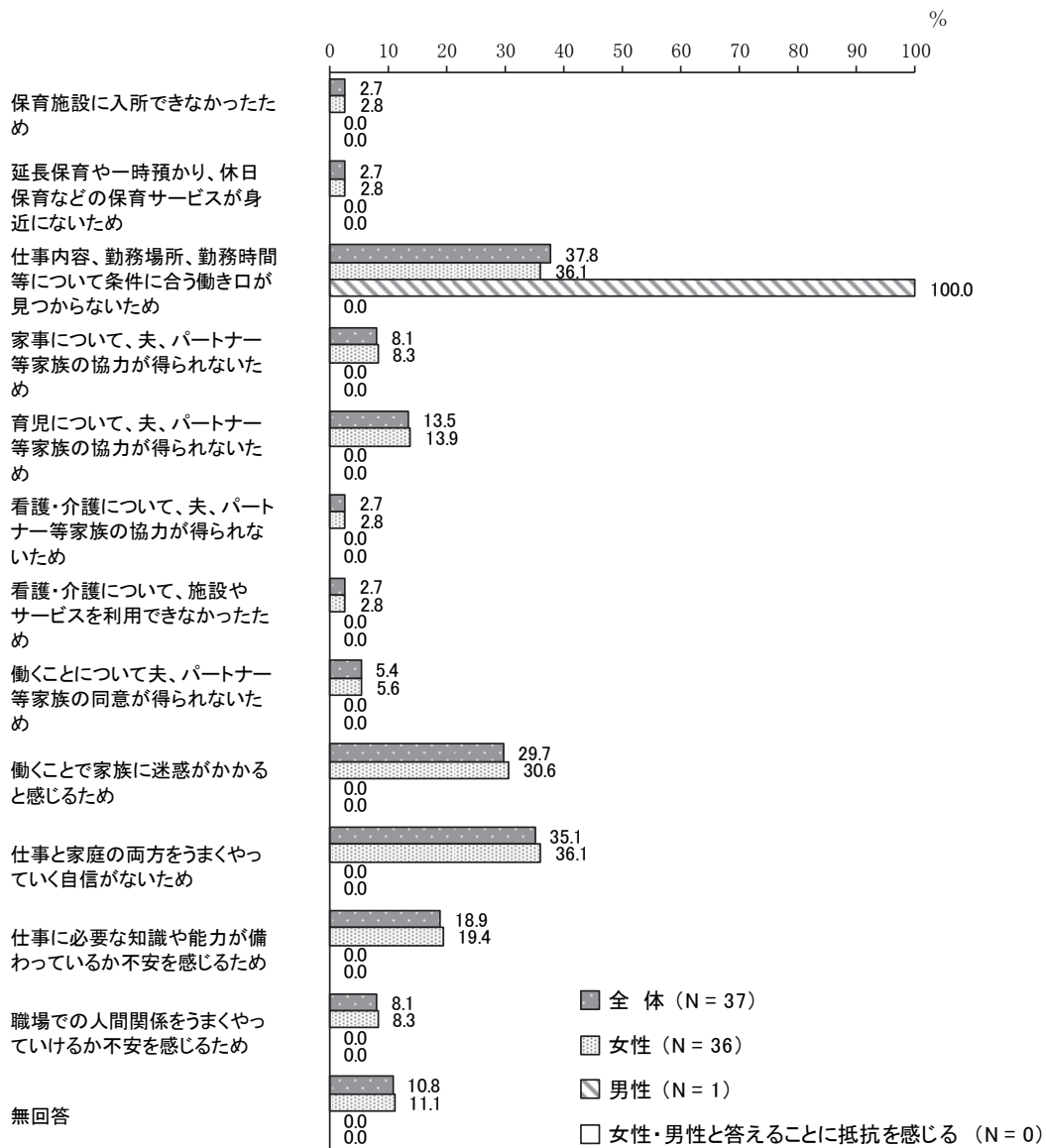


問6で「1」と答えた方におうかがいします

問6-1 今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため」の割合が37.8%と最も高く、次いで「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないため」の割合が35.1%、「働くことで家族に迷惑がかかると感じるため」の割合が29.7%となっています。

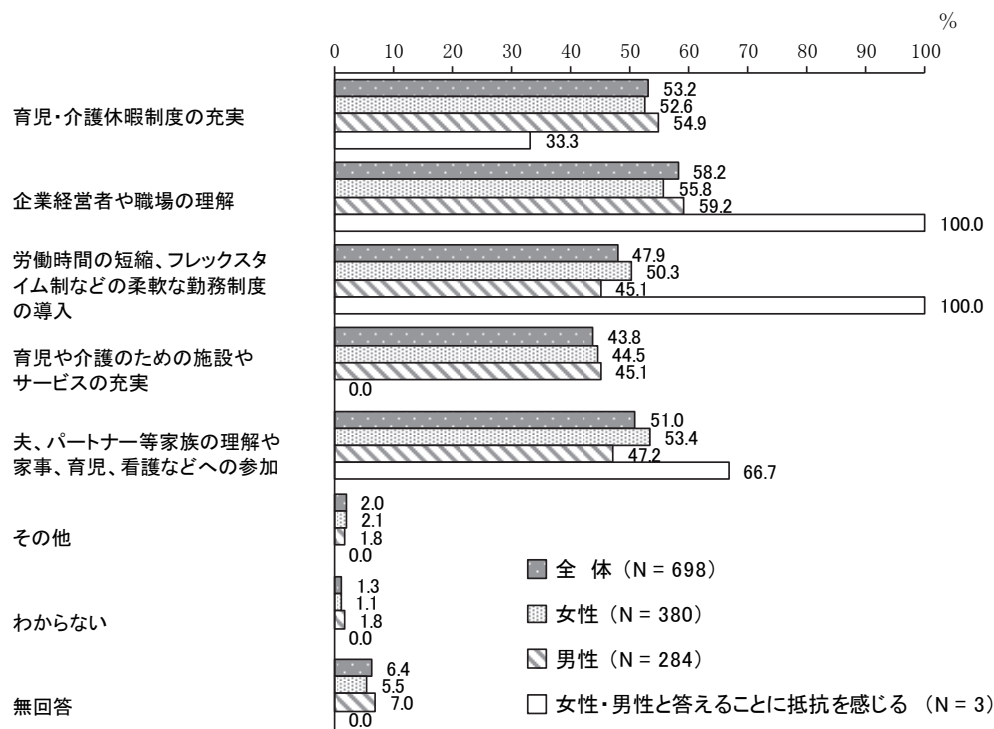
性別でみると、男性に比べ、女性で「家事について、夫、パートナー等家族の協力が得られないため」「育児について、夫、パートナー等家族の協力が得られないため」「働くことについて夫、パートナー等家族の同意が得られないため」「働くことで家族に迷惑がかかると感じるため」「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないため」「仕事に必要な知識や能力が備わっているか不安を感じるため」「職場での人間関係をうまくやっけていけるか不安を感じるため」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため」の割合が高くなっています。



問7 出産・子育て・介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「企業経営者や職場の理解」の割合が58.2%と最も高く、次いで「育児・介護休暇制度の充実」の割合が53.2%、「夫、パートナー等家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」の割合が51.0%となっています。

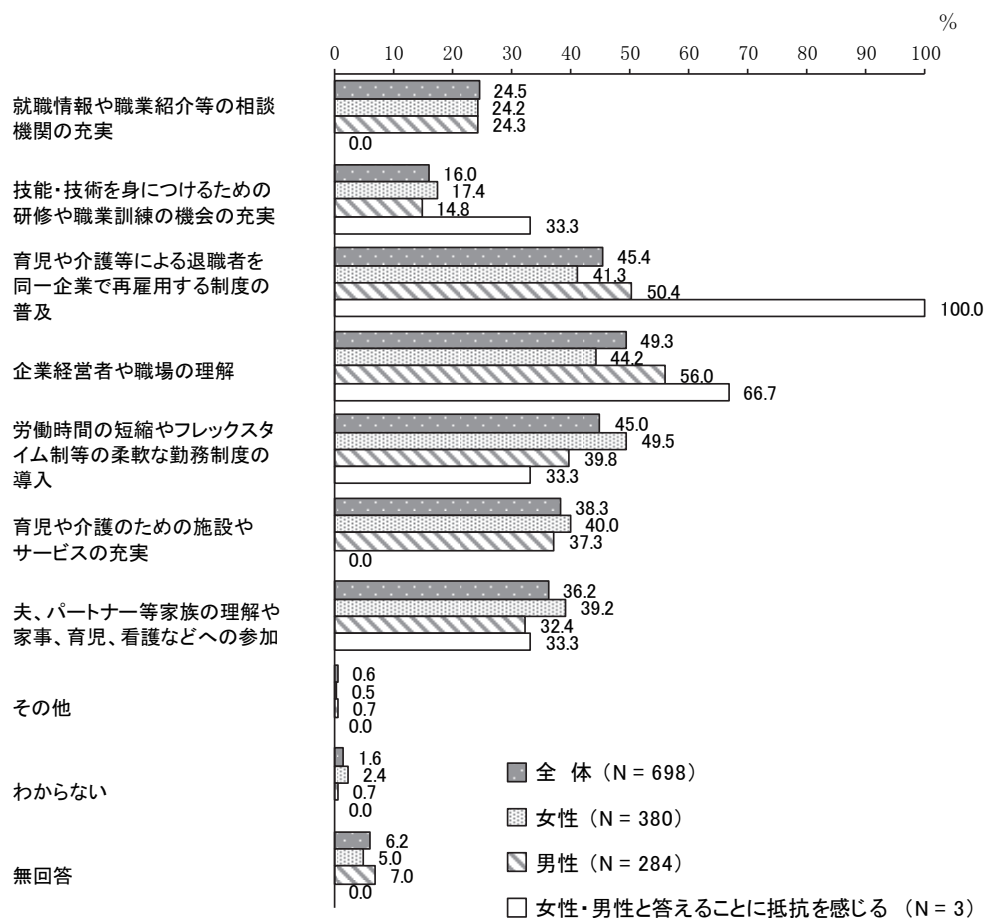
性別でみると、男性に比べ、女性で「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」「夫、パートナー等家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」の割合が高くなっています。



問8 出産・子育て・介護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

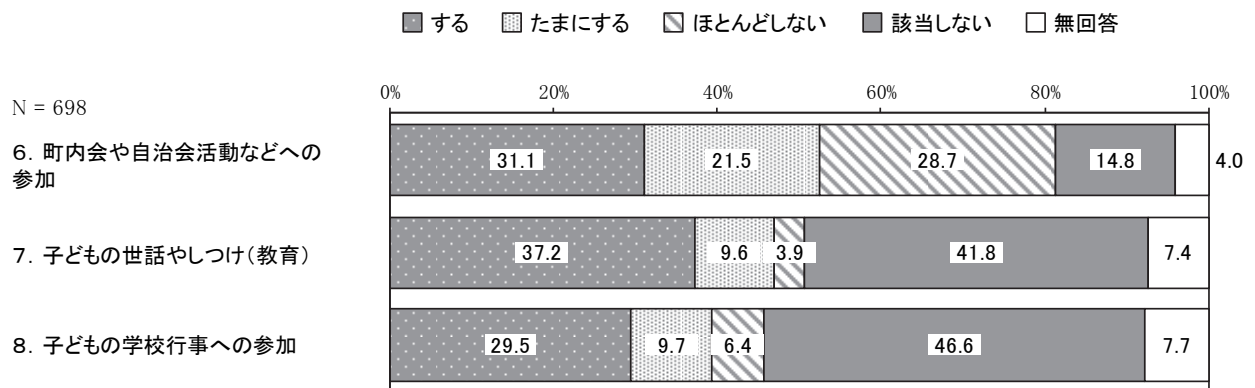
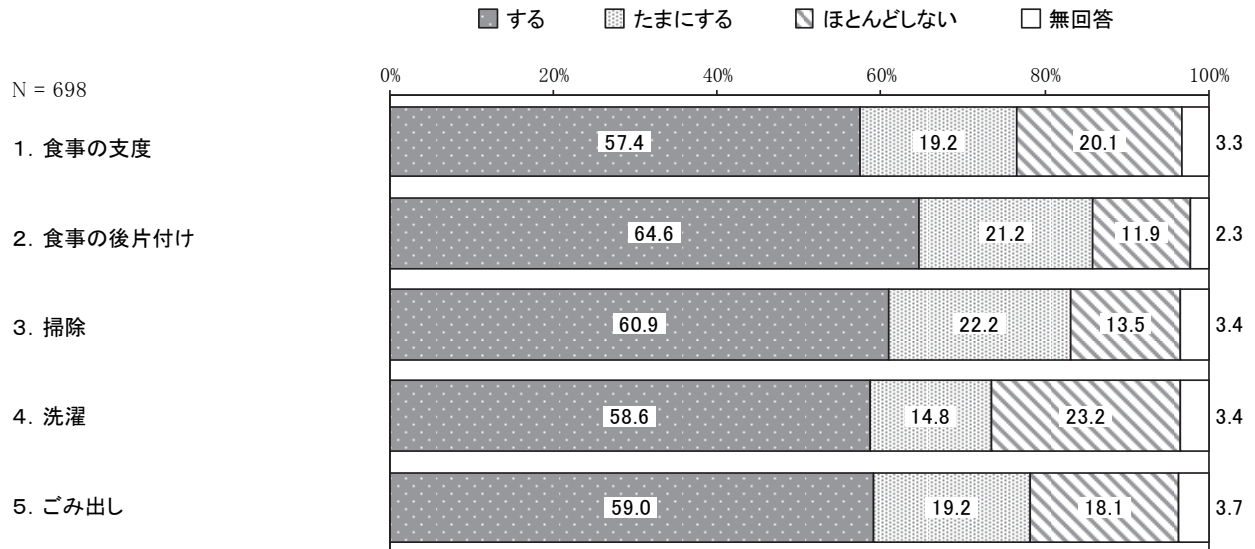
「企業経営者や職場の理解」の割合が49.3%と最も高く、次いで「育児や介護等による退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」の割合が45.4%、「労働時間の短縮やフレックスタイム制等の柔軟な勤務制度の導入」の割合が45.0%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「労働時間の短縮やフレックスタイム制等の柔軟な勤務制度の導入」「夫、パートナー等家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「育児や介護等による退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」「企業経営者や職場の理解」の割合が高くなっています。



問9 あなたは、普段ご家庭で次のことをされていますか。(それぞれ1つずつに○)

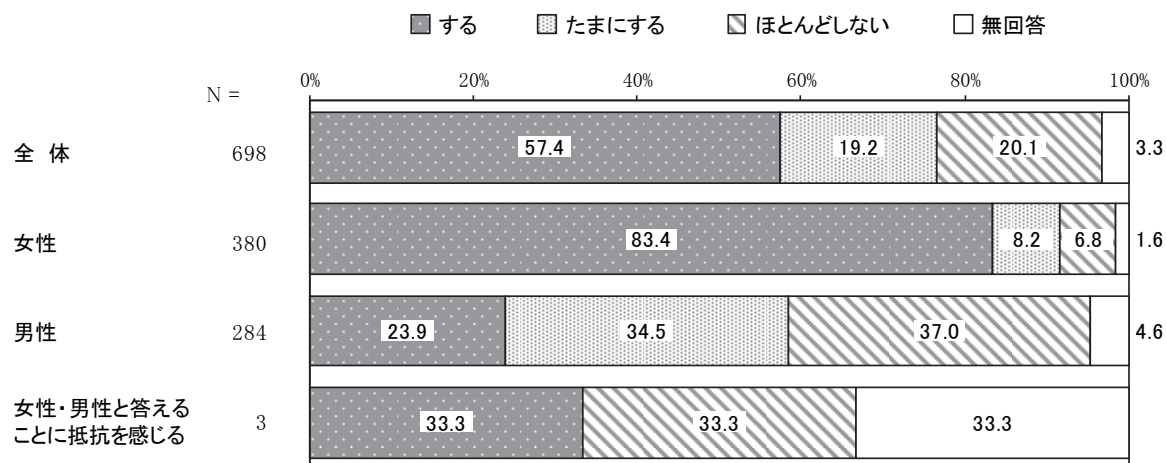
6. 町内会や自治会活動などへの参加で「ほとんどしない」の割合が高く、約3割となっています。



1. 食事の支度

「する」の割合が57.4%と最も高く、次いで「ほとんどしない」の割合が20.1%、「たまにする」の割合が19.2%となっています。

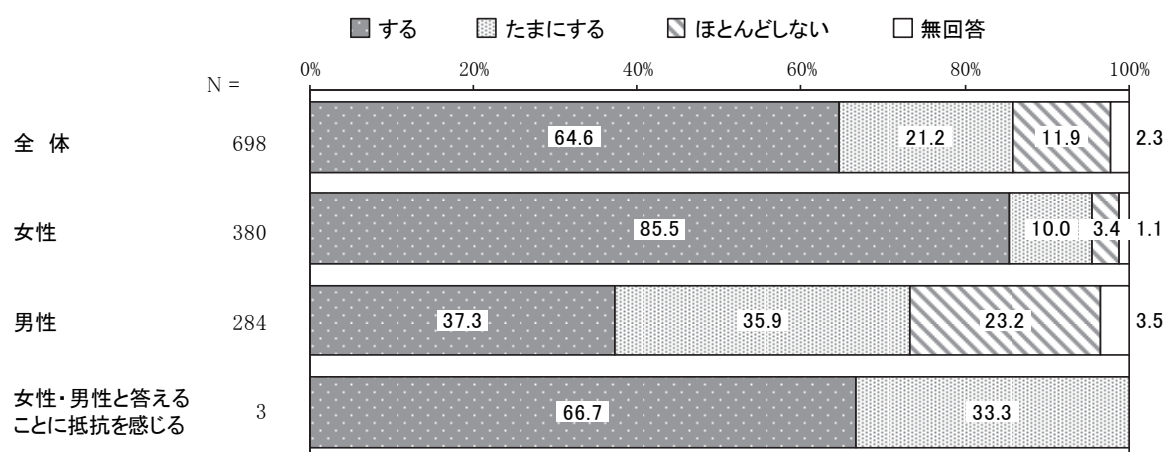
性別で見ると、男性に比べ、女性で「する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「たまにする」「ほとんどしない」の割合が高くなっています。



2. 食事の後片付け

「する」の割合が64.6%と最も高く、次いで「たまにする」の割合が21.2%、「ほとんどしない」の割合が11.9%となっています。

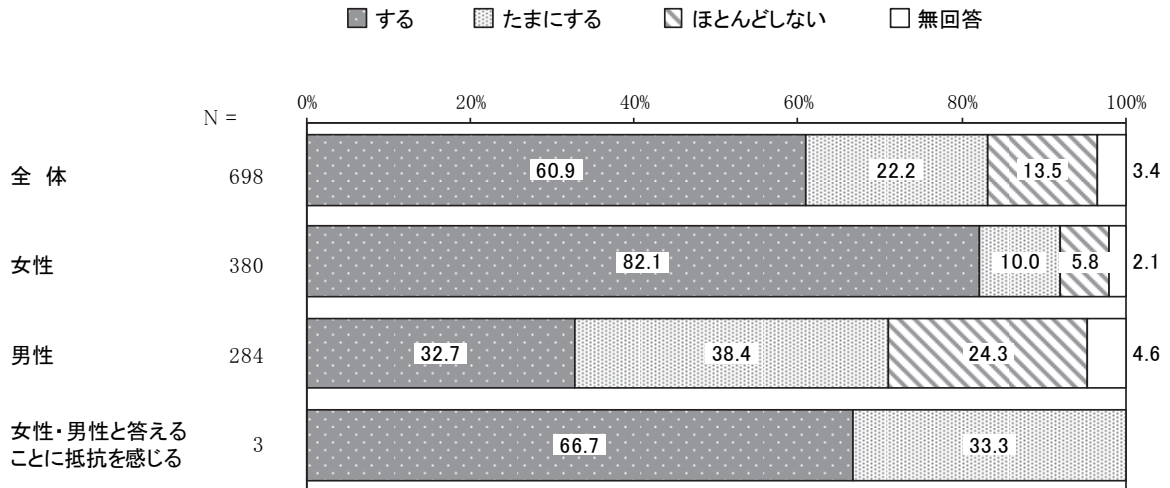
性別で見ると、男性に比べ、女性で「する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「たまにする」「ほとんどしない」の割合が高くなっています。



3. 掃除

「する」の割合が60.9%と最も高く、次いで「たまにする」の割合が22.2%、「ほとんどしない」の割合が13.5%となっています。

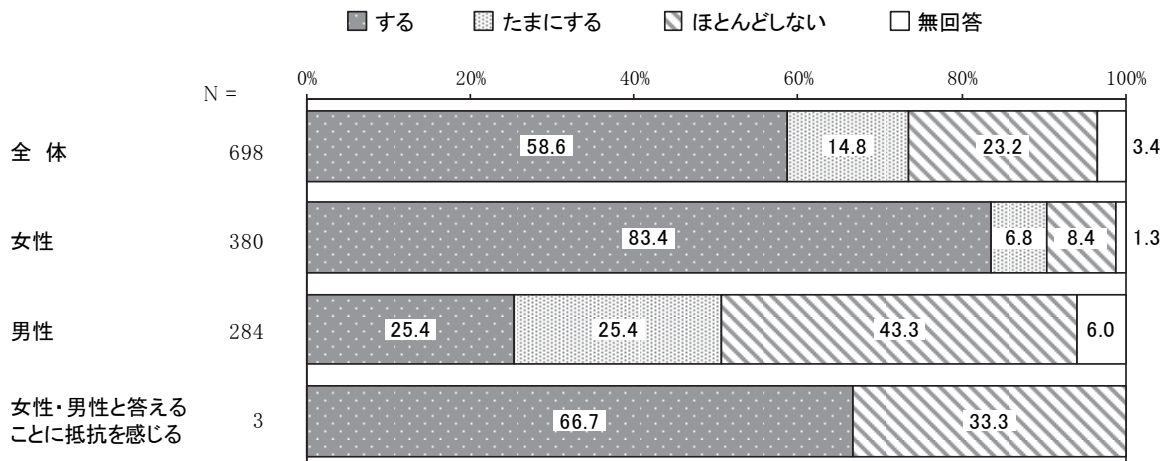
性別で見ると、男性に比べ、女性で「する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「たまにする」「ほとんどしない」の割合が高くなっています。



4. 洗濯

「する」の割合が58.6%と最も高く、次いで「ほとんどしない」の割合が23.2%、「たまにする」の割合が14.8%となっています。

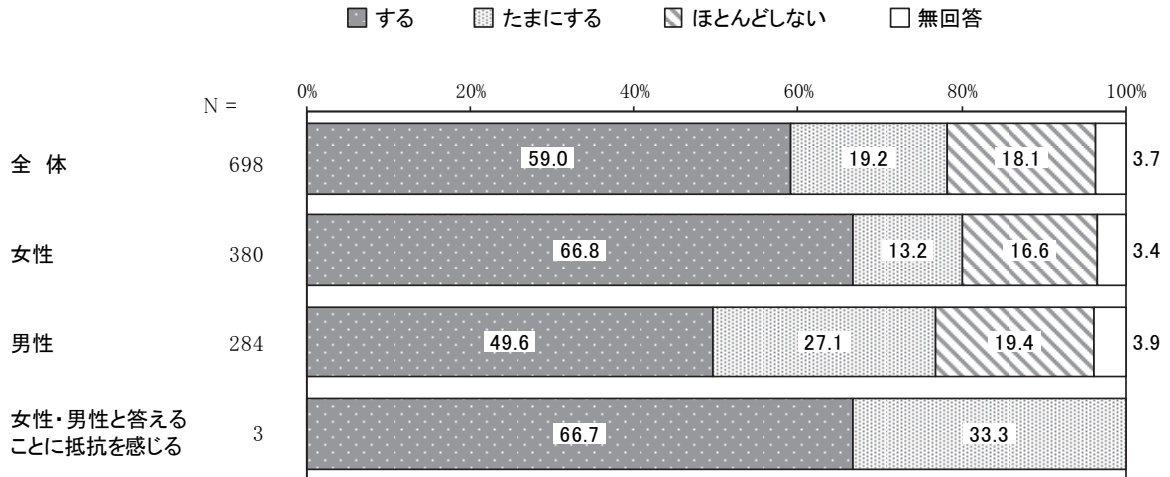
性別で見ると、女性に比べ、男性で「する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「たまにする」「ほとんどしない」の割合が高くなっています。



5. ごみ出し

「する」の割合が59.0%と最も高く、次いで「たまにする」の割合が19.2%、「ほとんどしない」の割合が18.1%となっています。

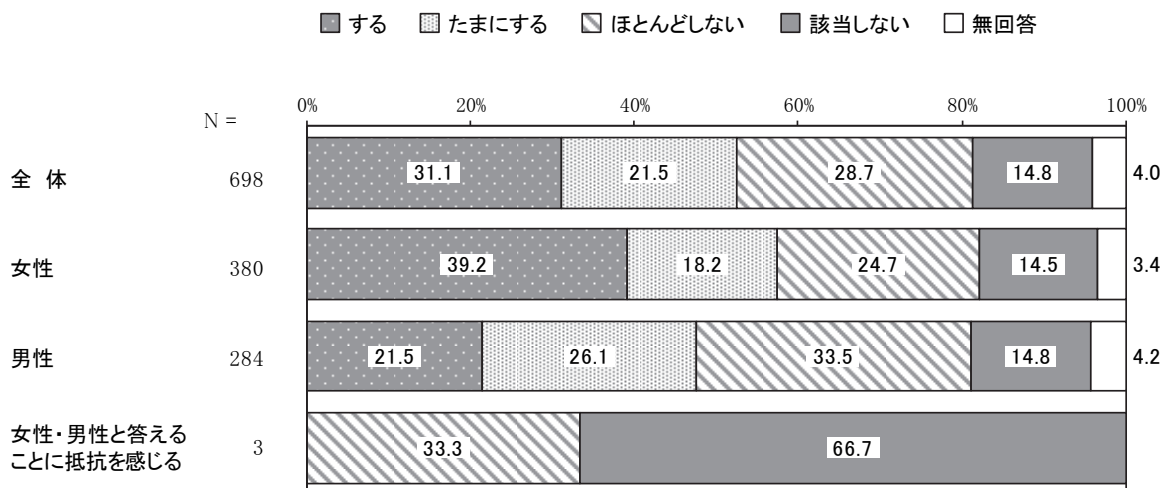
性別で見ると、男性に比べ、女性で「する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「たまにする」の割合が高くなっています。



6. 町内会や自治会活動などへの参加

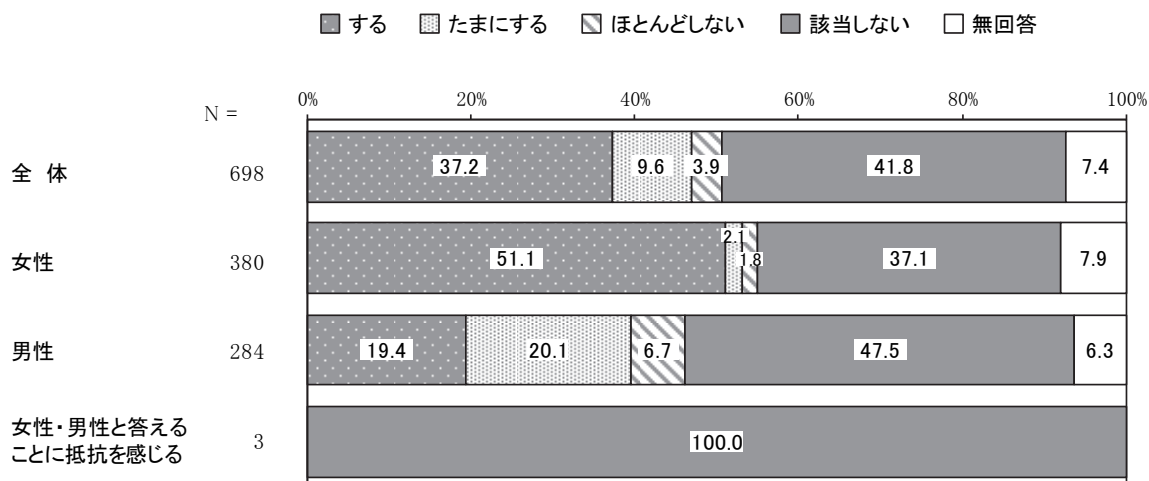
「する」の割合が31.1%と最も高く、次いで「ほとんどしない」の割合が28.7%、「たまにする」の割合が21.5%となっています。

性別で見ると、女性に比べ、男性で「する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「たまにする」「ほとんどしない」の割合が高くなっています。



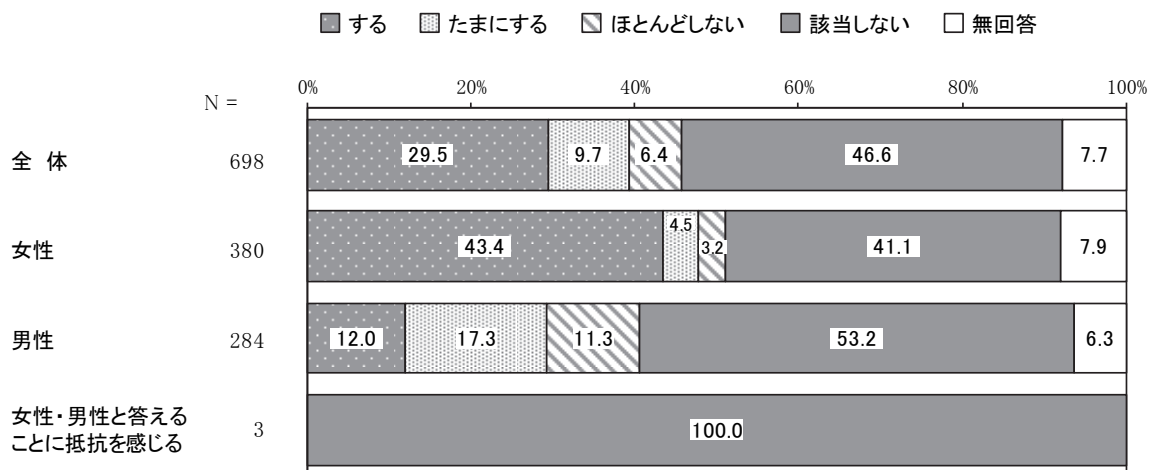
7. 子どもの世話やしつけ（教育）

「該当しない」の割合が41.8%と最も高く、次いで「する」の割合が37.2%となっています。
性別で見ると、男性に比べ、女性で「する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「たまにする」「該当しない」の割合が高くなっています。



8. 子どもの学校行事への参加

「該当しない」の割合が46.6%と最も高く、次いで「する」の割合が29.5%となっています。
性別で見ると、男性に比べ、女性で「する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「たまにする」「ほとんどしない」「該当しない」の割合が高くなっています。



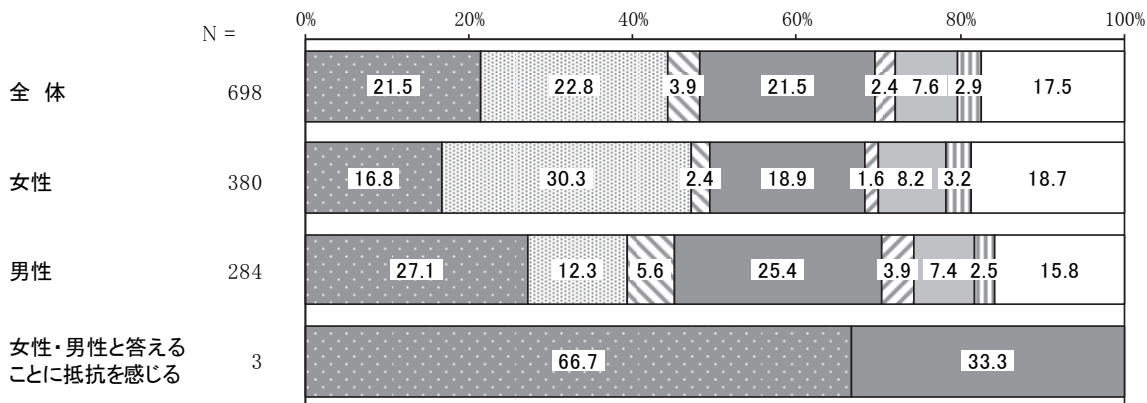
問 10 生活の中における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの現実の生活、理想の生活に最も近いものをお答えください。
 (「A. 現実」と「B. 理想」でそれぞれ1つずつに○)

A. 現実

「家庭生活」を優先の割合が22.8%と最も高く、次いで「仕事」を優先、「仕事」と「家庭生活」をともに優先の割合が21.5%となっています。

性別で見ると、男性に比べ、女性で「家庭生活」を優先の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「仕事」を優先「仕事」と「家庭生活」をともに優先の割合が高くなっています。

- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- ▨ 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 無回答

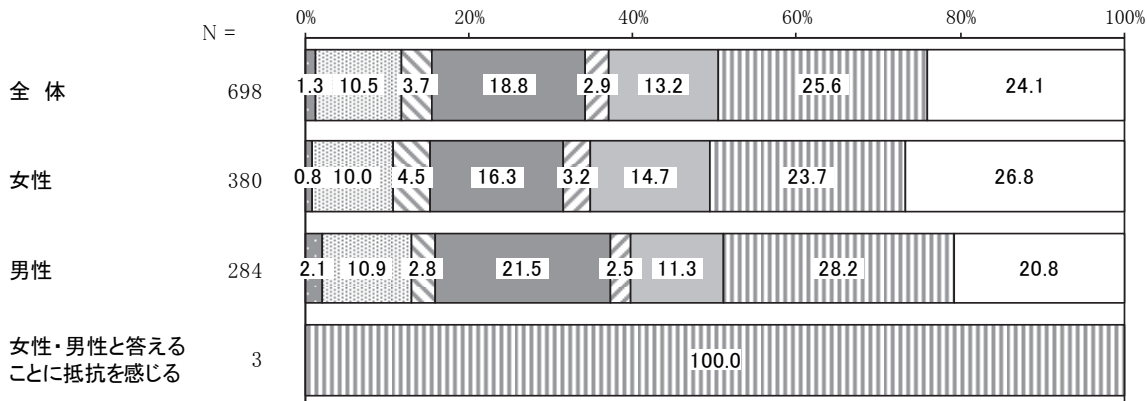


B. 理想

「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先の割合が25.6%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先の割合が18.8%、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先の割合が13.2%となっています。

性別で見ると、女性に比べ、男性で「仕事」と「家庭生活」をともに優先の割合が高くなっています。

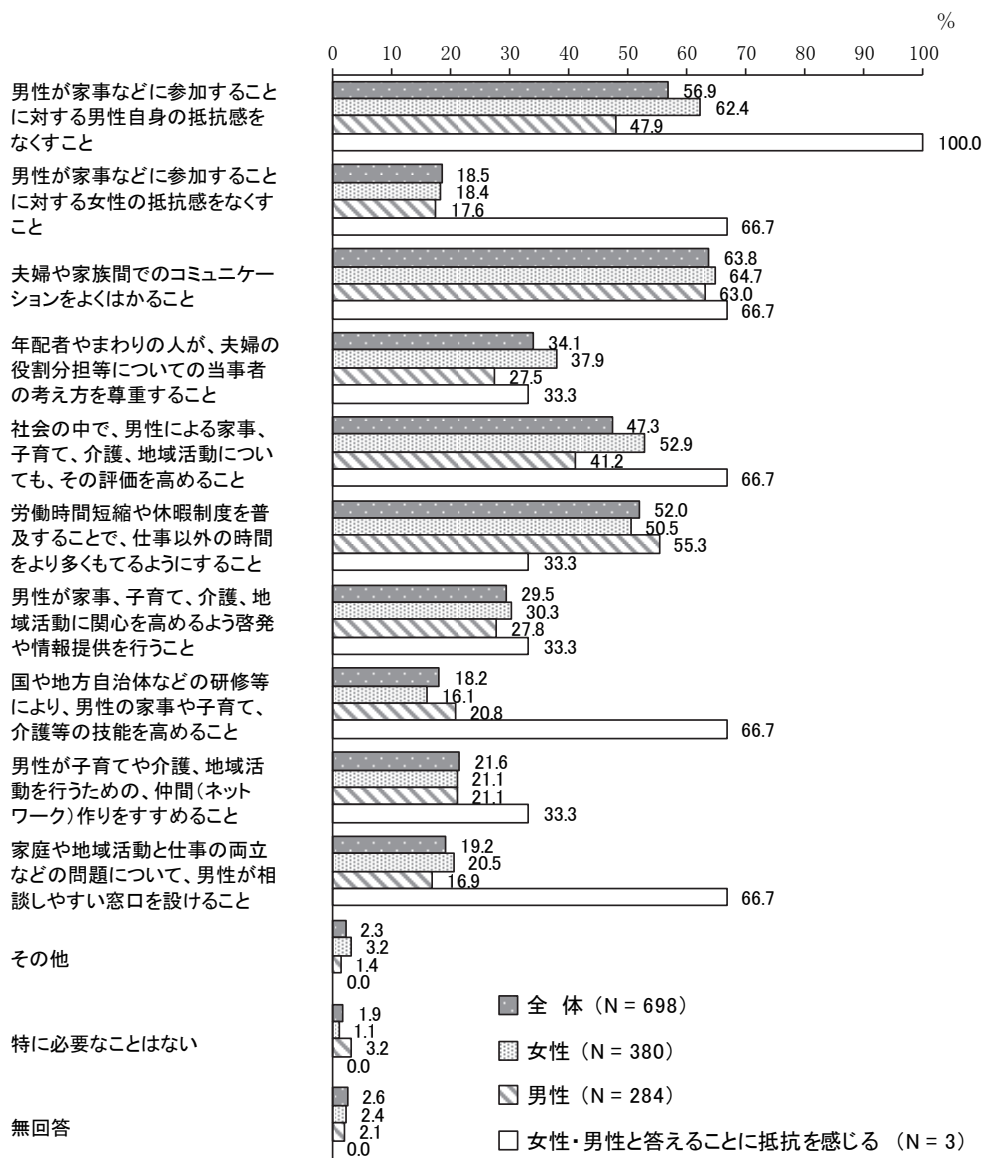
- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- ▨ 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 無回答



問11 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思われますか。
(あてはまるものすべてに○)

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が63.8%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が56.9%、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」の割合が52.0%となっています。

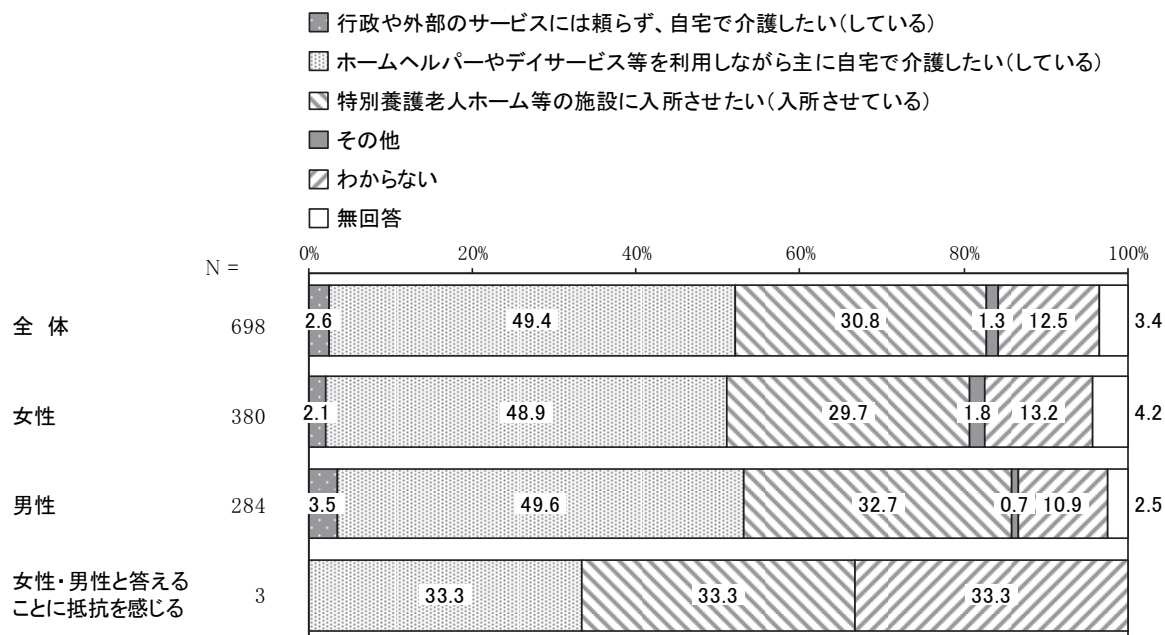
性別でみると、男性に比べ、女性で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」の割合が高くなっています。



問12 あなたは、自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、または、もし家族が介護を要する状態となった場合、どのようにしたいとお考えですか。（1つだけに○）

「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に自宅で介護したい（している）」の割合が49.4%と最も高く、次いで「特別養護老人ホーム等の施設に入所させたい（入所させている）」の割合が30.8%、「わからない」の割合が12.5%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



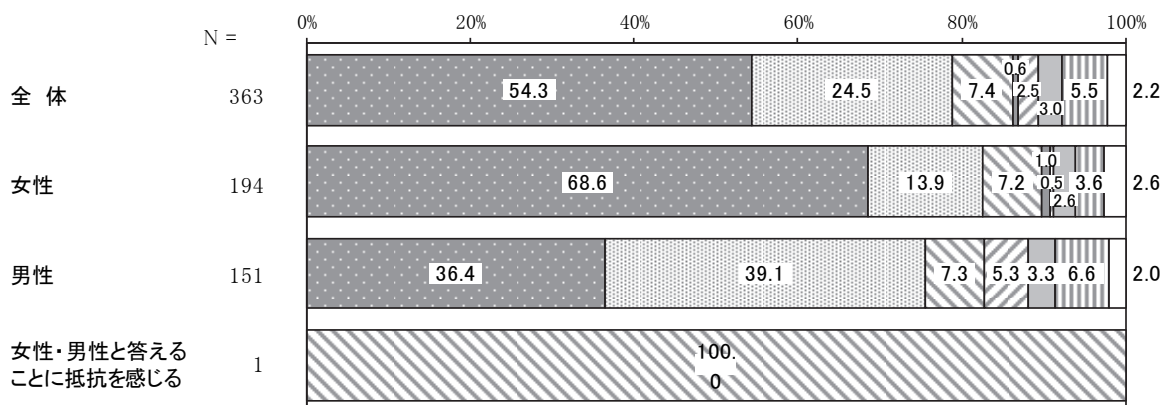
問 12 で「1」または「2」と答えた方におうかがいします

問 12-1 自宅で介護する場合、主に誰が介護することになると思いますか。
(1つだけに○)

「主に、自分が介護すると思う(している)」の割合が 54.3%と最も高く、次いで「主に、配偶者が介護すると思う(している)」の割合が 24.5%となっています。

性別で見ると、男性に比べ、女性で「主に、自分が介護すると思う(している)」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「主に、配偶者が介護すると思う(している)」の割合が高くなっています。

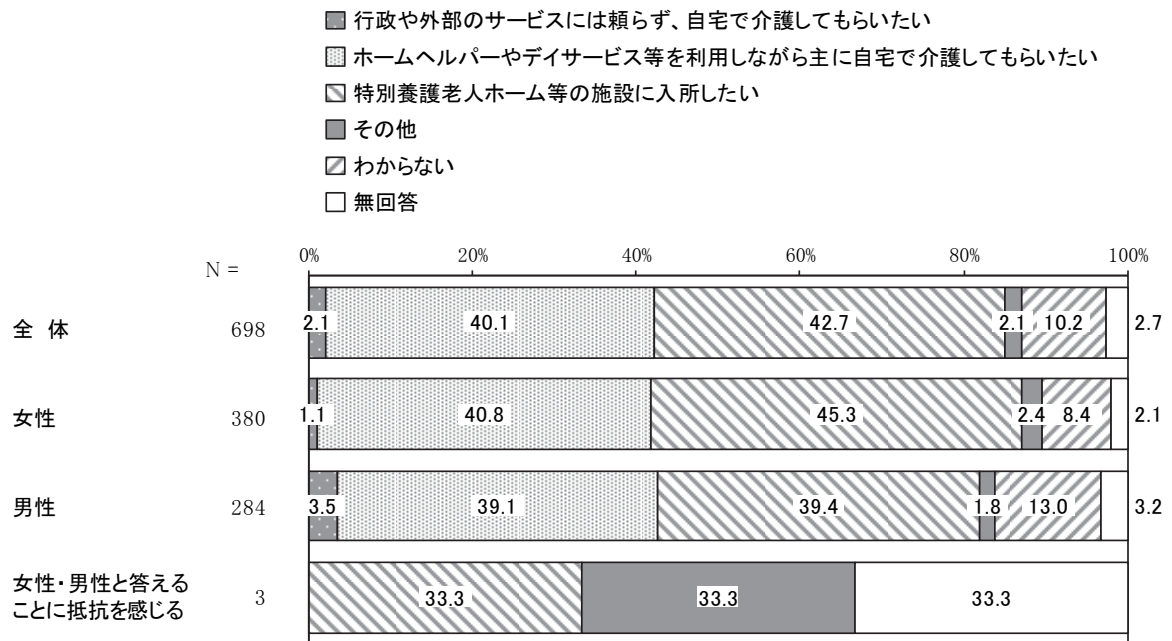
- 主に、自分が介護すると思う(している)
- 主に、配偶者が介護すると思う(している)
- 主に、その他の家族(女性)が介護すると思う(している)
- 主に、その他の家族(男性)が介護すると思う(している)
- 家族以外の人
- その他
- わからない
- 無回答



問13 もしあなた自身が介護を要する状態になった場合、どのようにしてほしいと思いますか。(1つだけに○)

「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」の割合が42.7%と最も高く、次いで「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」の割合が40.1%、「わからない」の割合が10.2%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」の割合が高くなっています。

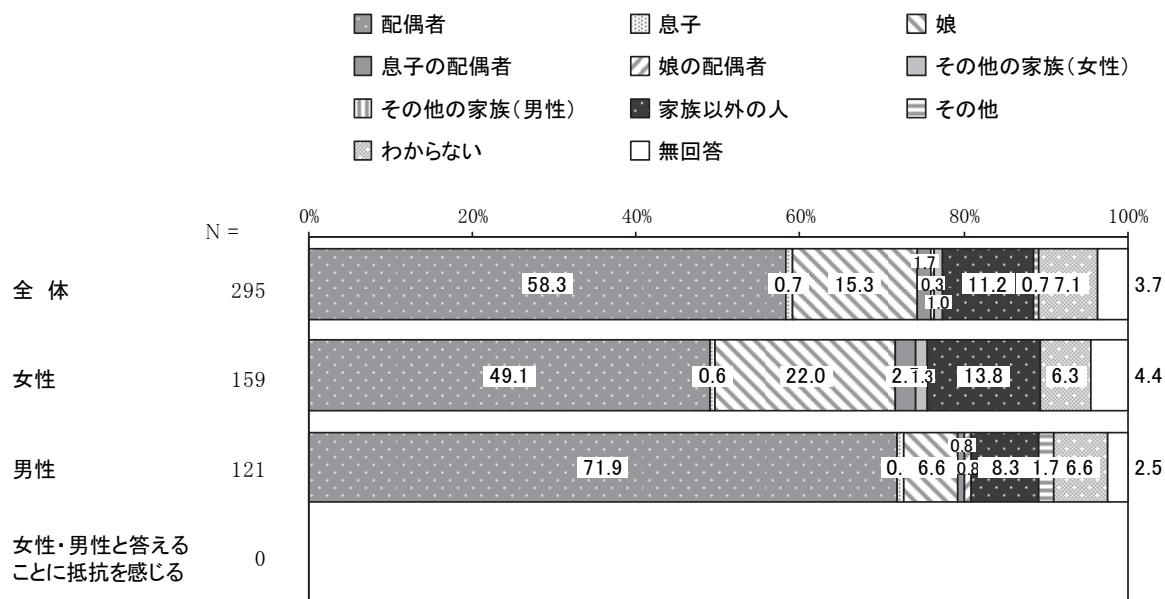


問 13 で「1」または「2」と答えた方におうかがいします

問 13-1 自宅で介護される場合、主に誰に介護してもらいたいと思いますか。
(1つだけに○)

「配偶者」の割合が 58.3%と最も高く、次いで「娘」の割合が 15.3%、「家族以外の人」の割合が 11.2%となっています。

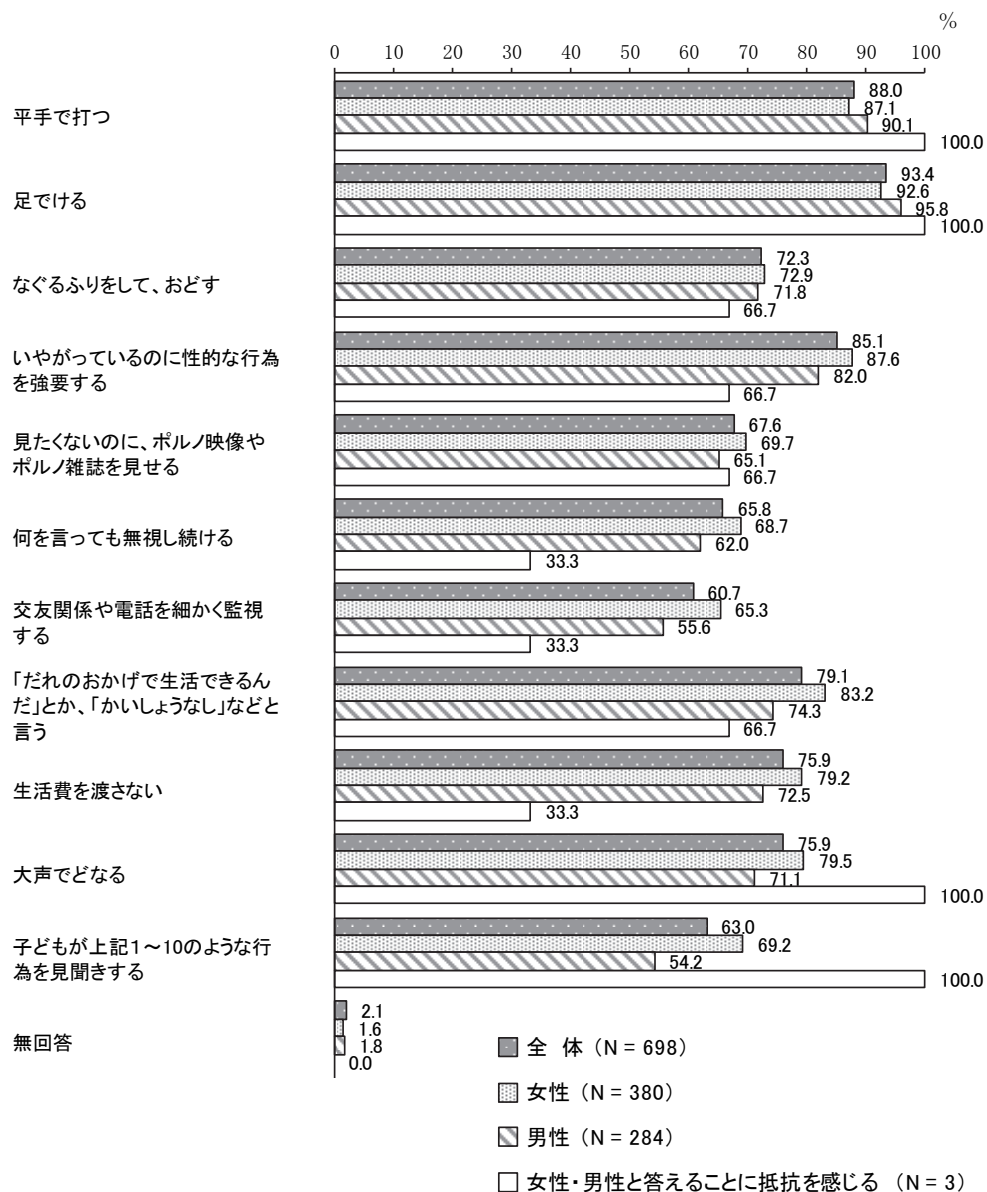
性別で見ると、男性に比べ、女性で「娘」「家族以外の人」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「配偶者」の割合が高くなっています。



問 14 あなたは、夫婦や恋人同士で起こる次のような行為は、「暴力」だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「足でける」の割合が93.4%と最も高く、次いで「平手で打つ」の割合が88.0%、「いやがっているのに性的な行為を強要する」の割合が85.1%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「いやがっているのに性的な行為を強要する」「何を言っても無視し続ける」「交友関係や電話を細かく監視する」「「だれのおかげで生活できるんだ」とか、「かいしようなし」などと言う」「生活費を渡さない」「大声でどなる」「子どもが上記1～10のような行為を見聞きする」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

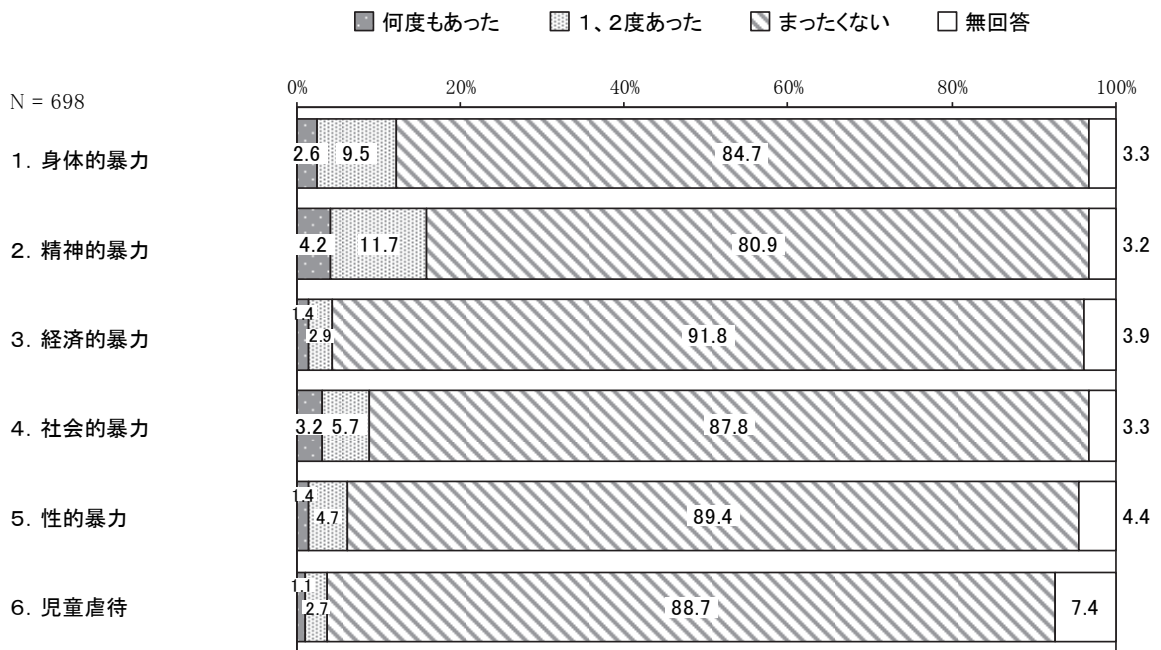
性・年代別でみると、男女ともに80歳以上で「なぐるふりをして、おどす」「何を言っても無視し続ける」の割合が低くなっています。また、男性の20歳未満、80歳以上で「交友関係や電話を細かく監視する」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	平手で打つ	足でける	なぐるふりをして、おどす	いやがっているのに性的な行為を強要する	見たくないのに、ポルノ映像やポルノ雑誌を見せる	何を言っても無視し続ける	交友関係や電話を細かく監視する	「だれのおかげで生活できるんだ」とか、「かいしようなし」などと言う	生活費を渡さない	大声でどなる	子どもが上記1～10のような行為を見聞きする	無回答
女性 20歳未満	12	100.0	100.0	83.3	100.0	91.7	66.7	83.3	83.3	91.7	75.0	83.3	—
20歳代	34	85.3	91.2	76.5	91.2	70.6	61.8	61.8	82.4	67.6	76.5	64.7	2.9
30歳代	58	89.7	93.1	81.0	94.8	70.7	72.4	63.8	89.7	81.0	81.0	79.3	—
40歳代	69	89.9	97.1	72.5	84.1	65.2	68.1	59.4	81.2	82.6	82.6	76.8	—
50歳代	64	93.8	93.8	76.6	90.6	73.4	79.7	75.0	87.5	84.4	84.4	76.6	1.6
60歳代	75	84.0	93.3	72.0	92.0	73.3	70.7	68.0	80.0	81.3	81.3	62.7	1.3
70歳代	53	81.1	84.9	66.0	75.5	64.2	62.3	62.3	79.2	73.6	73.6	52.8	3.8
80歳以上	14	64.3	85.7	35.7	64.3	50.0	35.7	50.0	85.7	64.3	64.3	57.1	7.1
男性 20歳未満	13	76.9	84.6	69.2	84.6	76.9	53.8	46.2	69.2	61.5	69.2	53.8	7.7
20歳代	16	87.5	100.0	81.3	87.5	87.5	62.5	56.3	75.0	68.8	56.3	68.8	—
30歳代	27	96.3	100.0	77.8	85.2	51.9	63.0	55.6	70.4	59.3	74.1	55.6	—
40歳代	47	91.5	95.7	76.6	85.1	70.2	57.4	51.1	74.5	76.6	74.5	55.3	—
50歳代	49	87.8	93.9	87.8	81.6	69.4	65.3	61.2	77.6	77.6	79.6	63.3	2.0
60歳代	57	86.0	98.2	64.9	86.0	66.7	68.4	61.4	77.2	78.9	68.4	57.9	—
70歳代	59	98.3	98.3	62.7	79.7	62.7	67.8	55.9	74.6	71.2	71.2	45.8	—
80歳以上	14	78.6	78.6	42.9	57.1	28.6	28.6	42.9	64.3	57.1	57.1	21.4	21.4

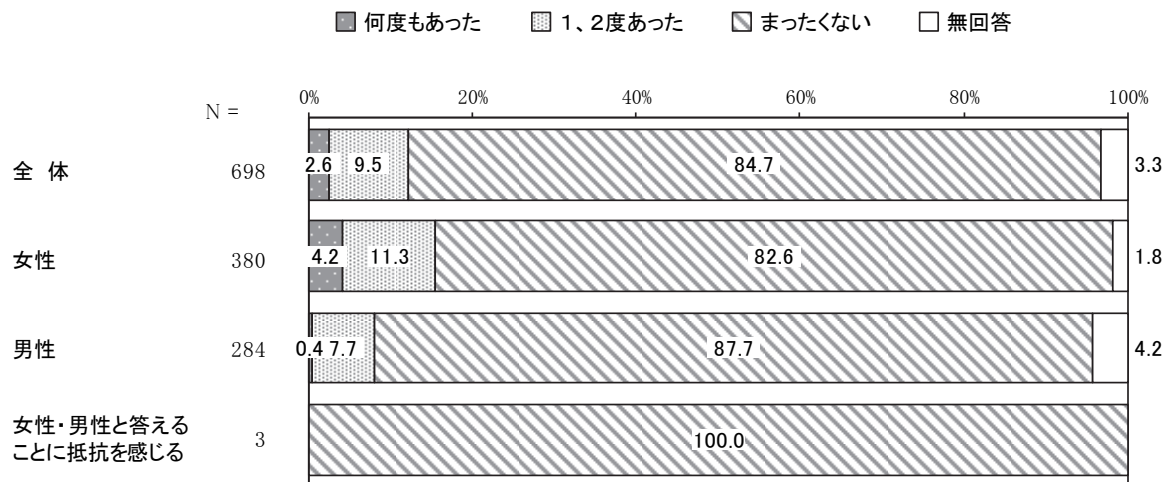
問15 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や親しい異性（恋人等）から次のようなことをされたことがありますか。（それぞれ1つずつに○）

2. 精神的暴力で「何度もあった」の割合が4.2%と他に比べ高くなっています。また、1. 身体的暴力で「1、2度あった」の割合が高くなっています。



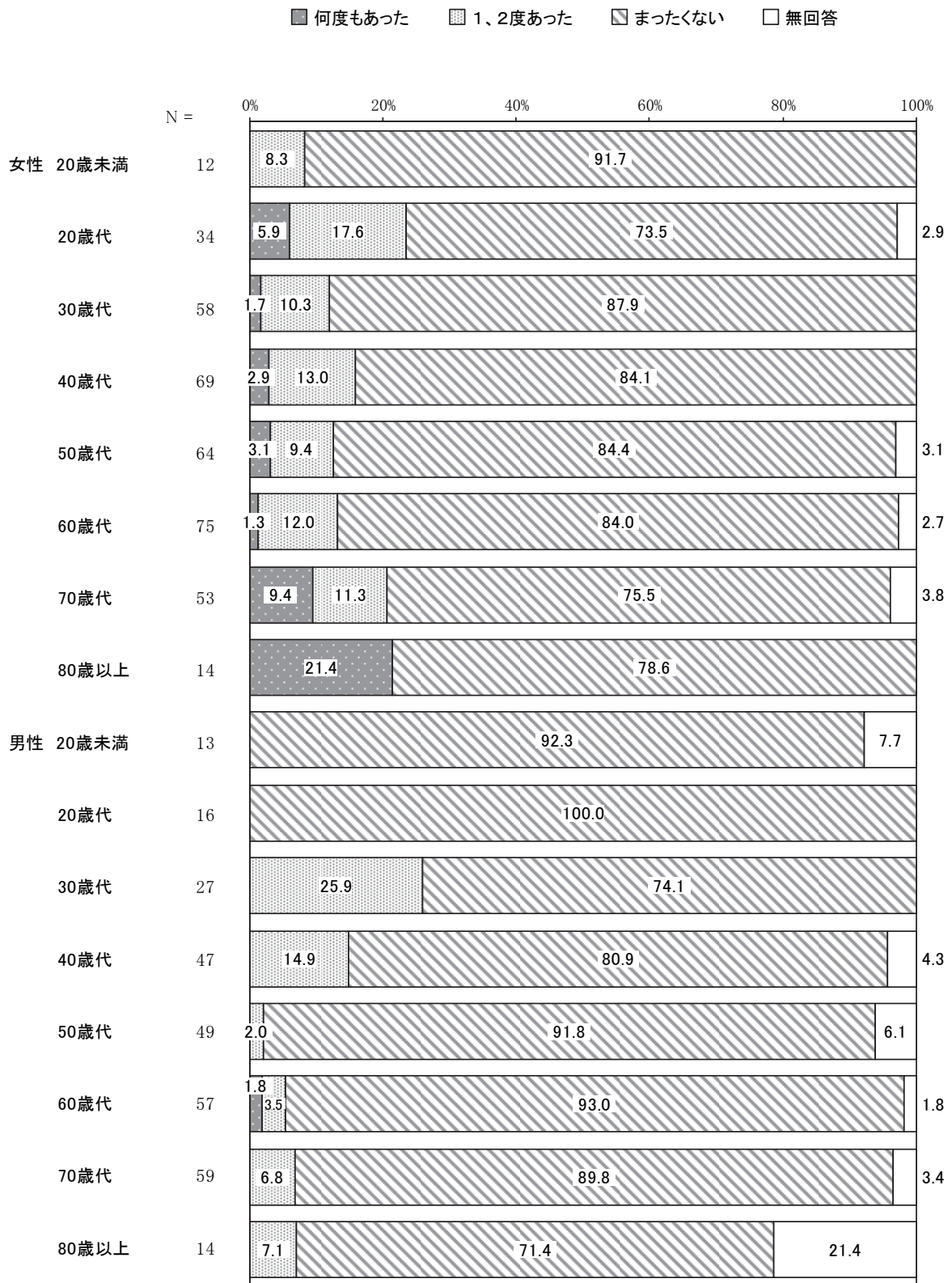
1. ながる、ける、刃物を突きつけられおどされる。ながるふりをしておどされるなど（身体的暴力）

「何度もあった」の割合が2.6%、「1、2度あった」の割合が9.5%となっています。性別で見ると、女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が高くなっています。



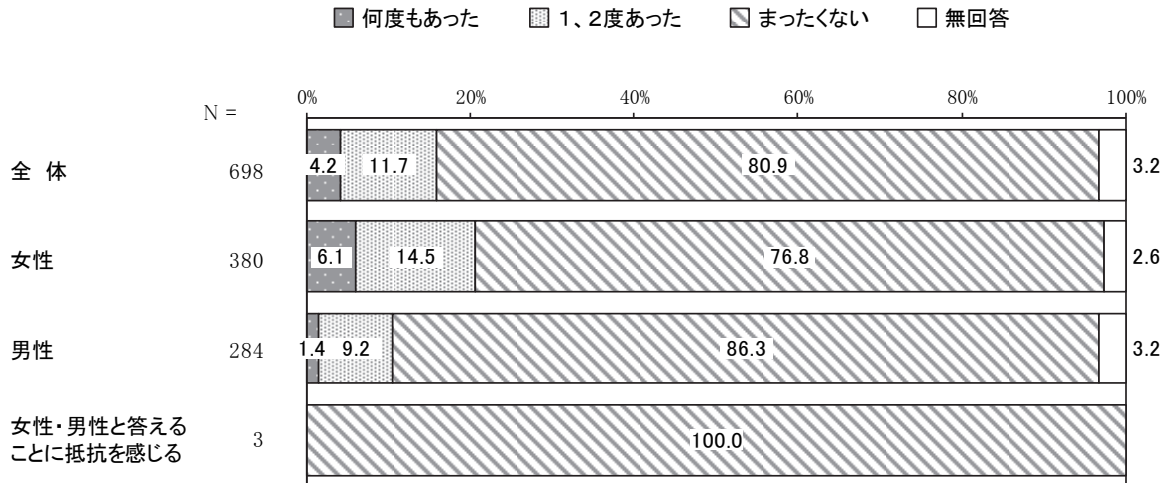
【性・年代別】

性・年代別で見ると、他に比べ、女性の80歳以上で「何度もあった」の割合が高くなっています。



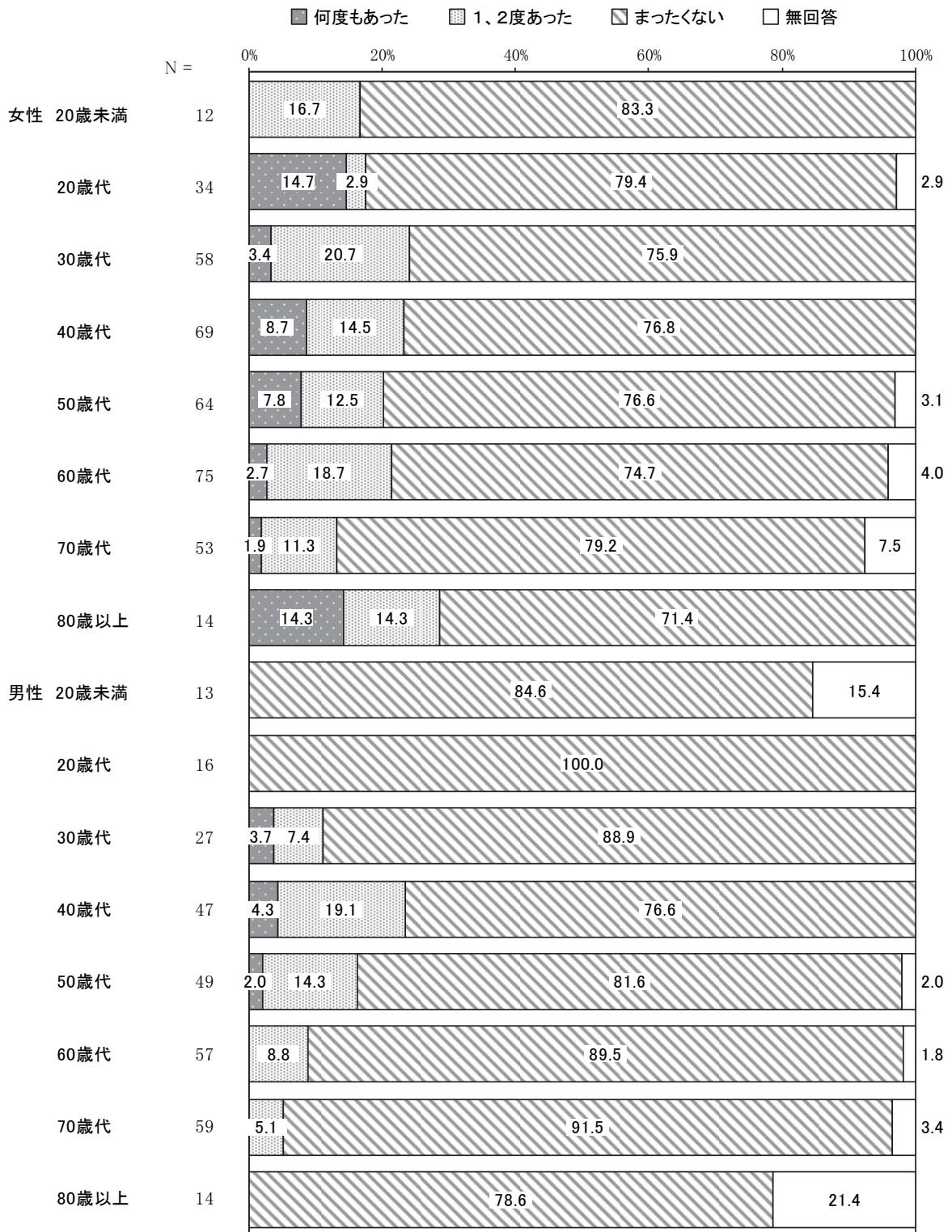
2. 「だれのおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われる。無視される。大声でど
 なられるなど（精神的暴力）

「何度もあった」の割合が4.2%、「1、2度あった」の割合が11.7%となっています。
 性別で見ると、男性に比べ、女性で「1、2度あった」の割合が高くなっています。



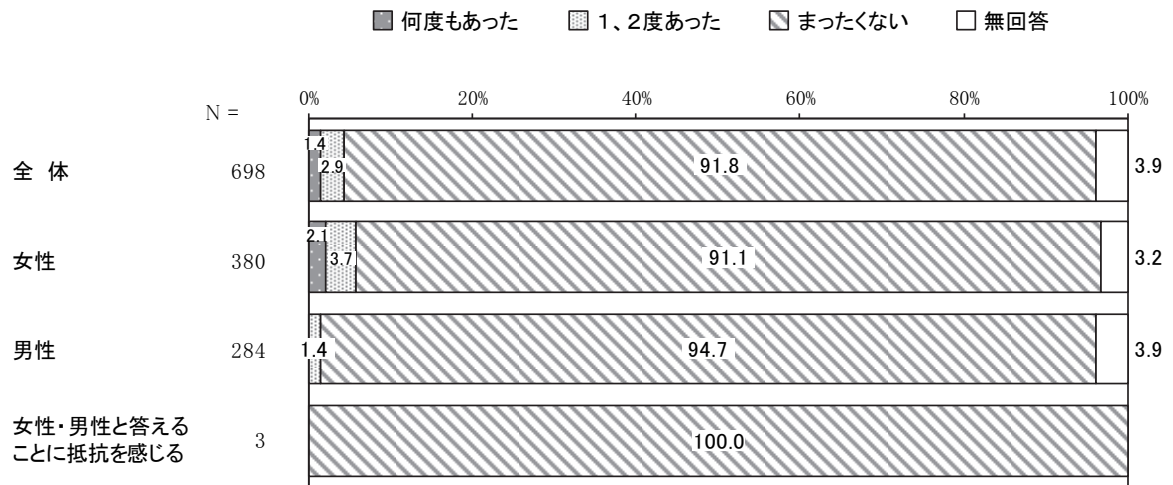
【性・年代別】

性・年代別で見ると、他に比べ、女性の20歳代、80歳以上で「何度もあった」の割合が高くなっています。



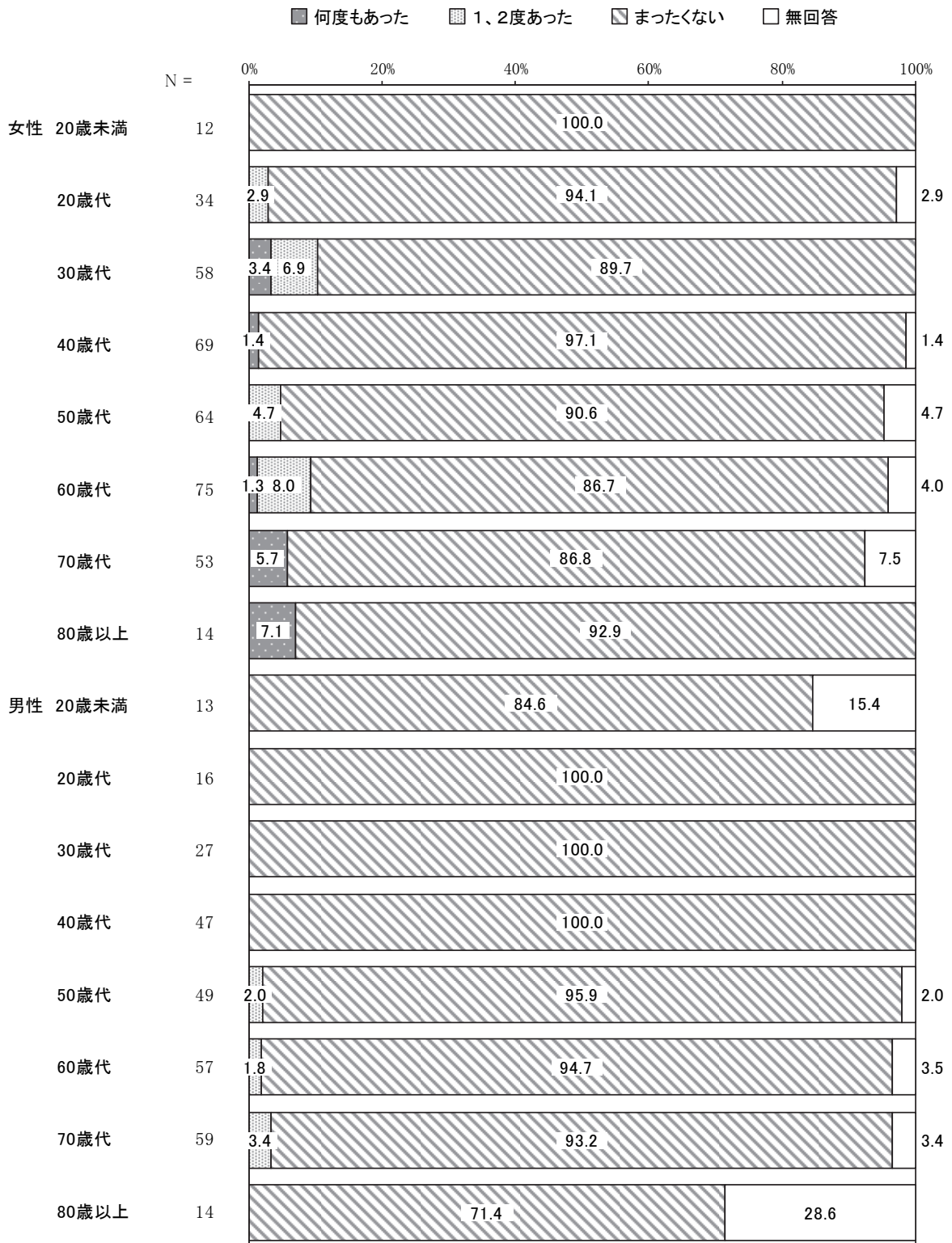
3. 生活費を渡さない（経済的暴力）

「何度もあった」の割合が1.4%、「1、2度あった」の割合が2.9%となっています。
性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年代別】

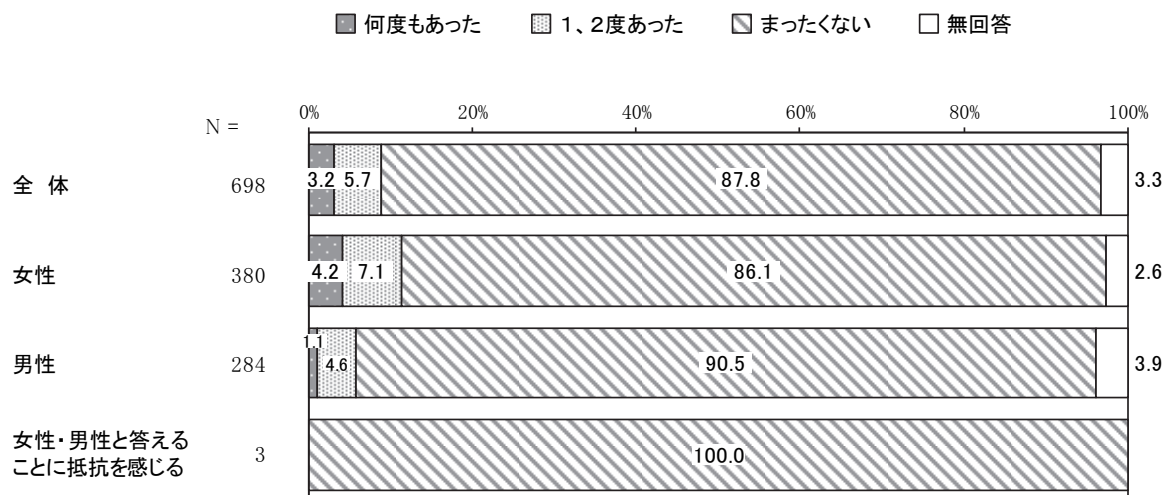
性・年代別で見ると、他に比べ、女性の70歳以上で「何度もあった」の割合が、女性の30歳代、60歳代で「1、2度あった」の割合が高くなっています。



4. 友人に会うことや実家に行くことを制限されたり、監視されるなど（社会的暴力）

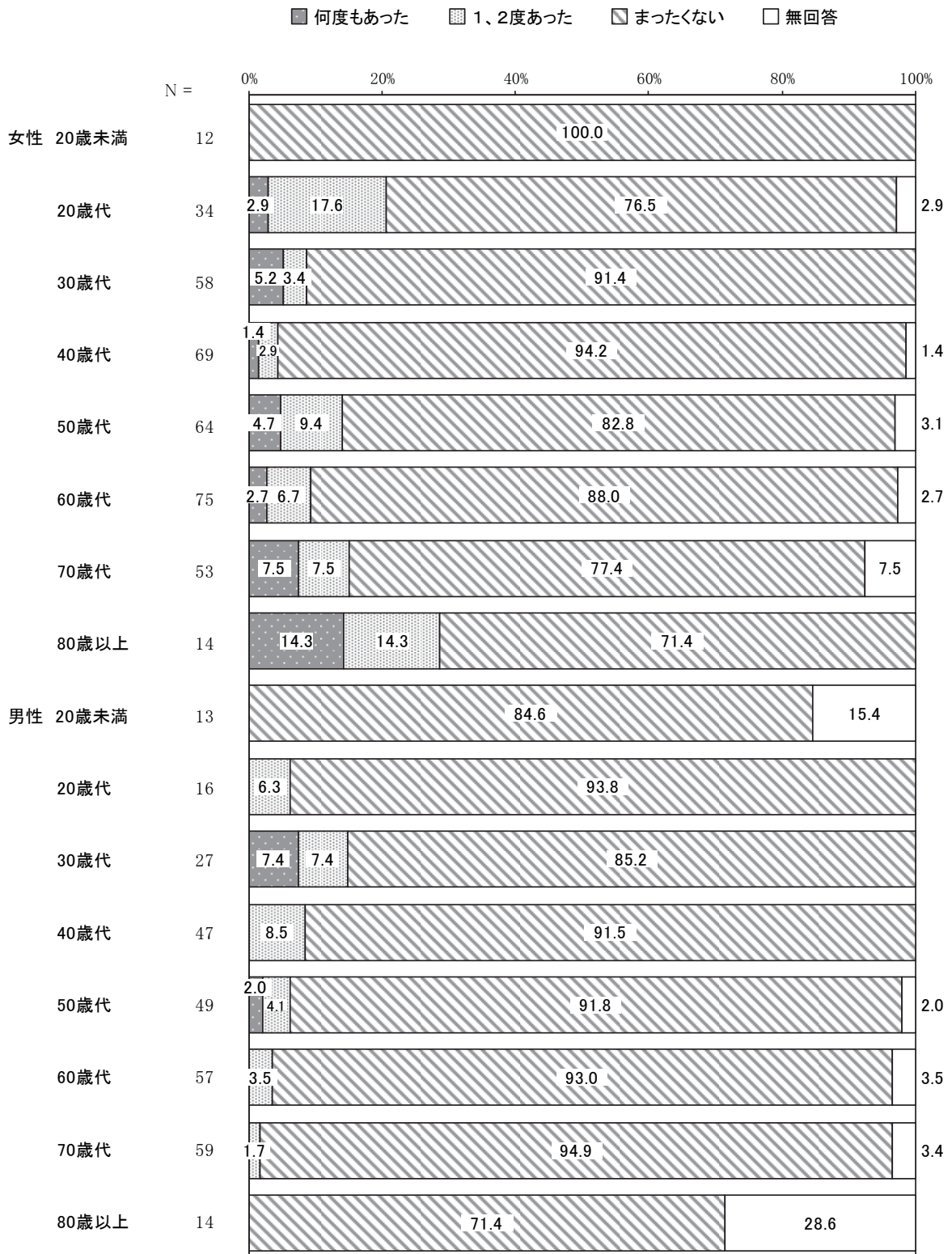
「何度もあった」の割合が3.2%、「1、2度あった」の割合が5.7%となっています。

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【性・年代別】

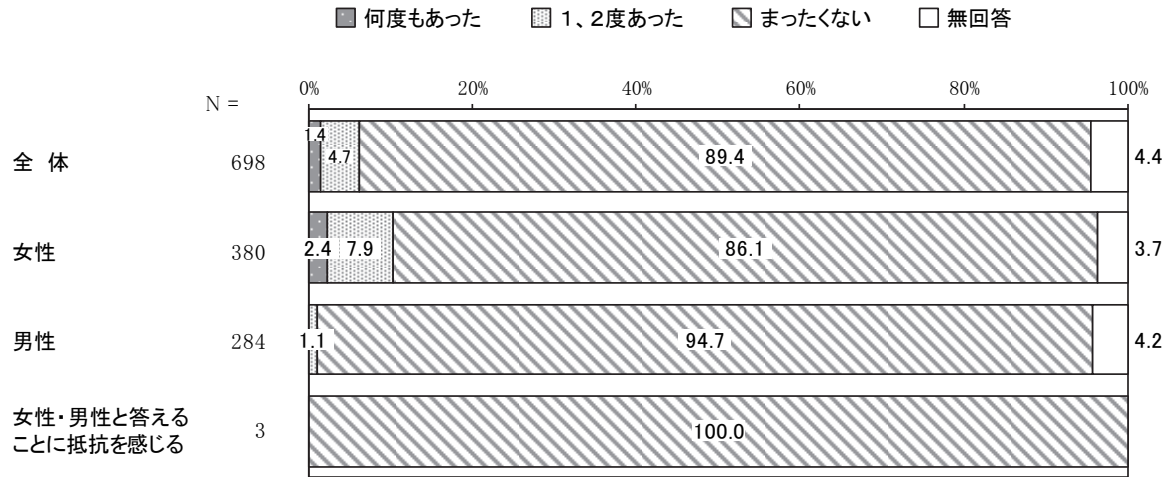
性・年代別で見ると、他に比べ、女性の80歳以上、男性の30歳代で「何度もあった」の割合が、女性の20歳代、80歳以上、男性の20歳代から40歳代で「1、2度あった」の割合が高くなっています。



5. 性行為の強要。避妊に協力しない。ポルノ映像や雑誌を見せられる（性的暴力）

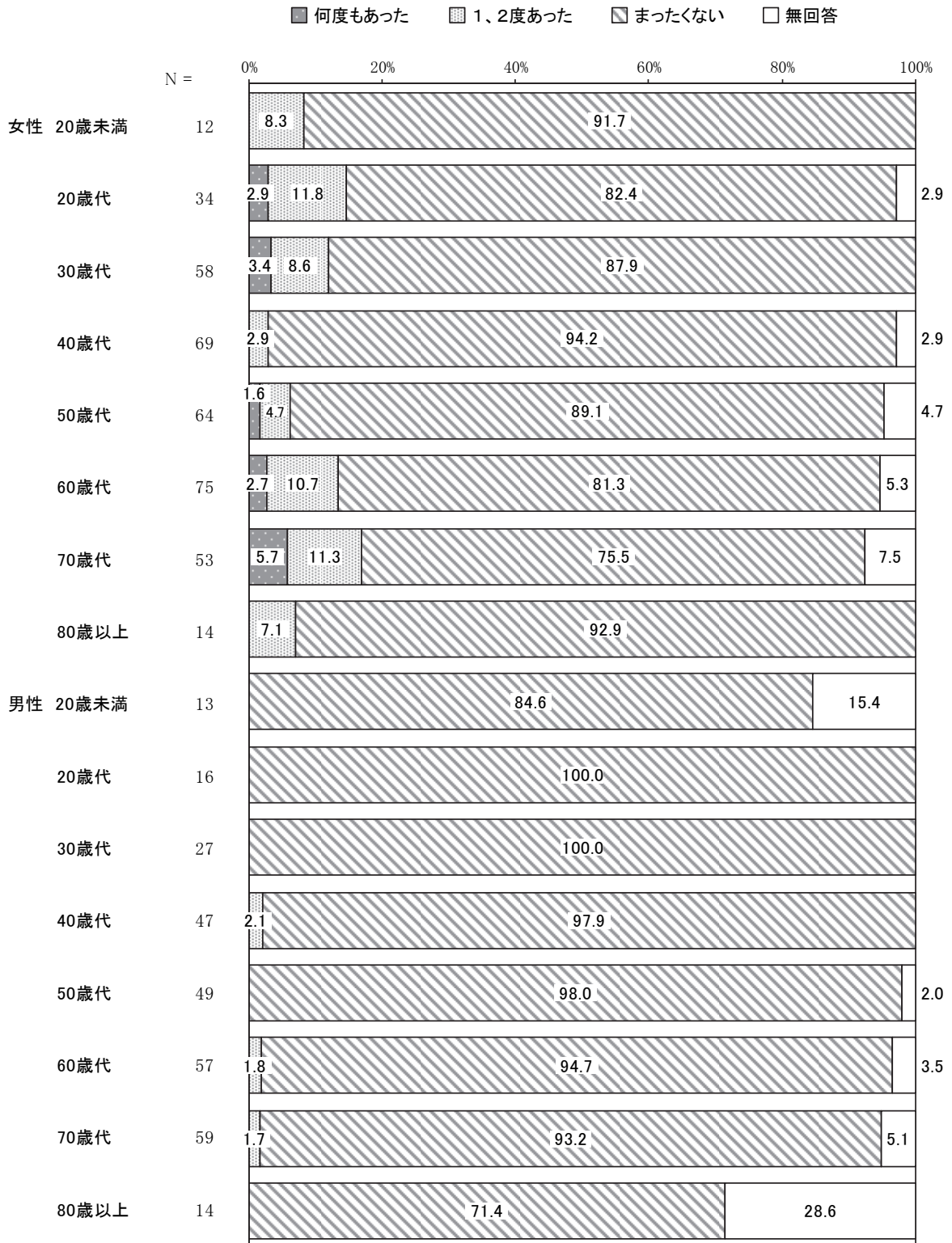
「何度もあった」の割合が1.4%、「1、2度あった」の割合が4.7%となっています。

性別で見ると、男性に比べ、女性で「1、2度あった」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が高くなっています。



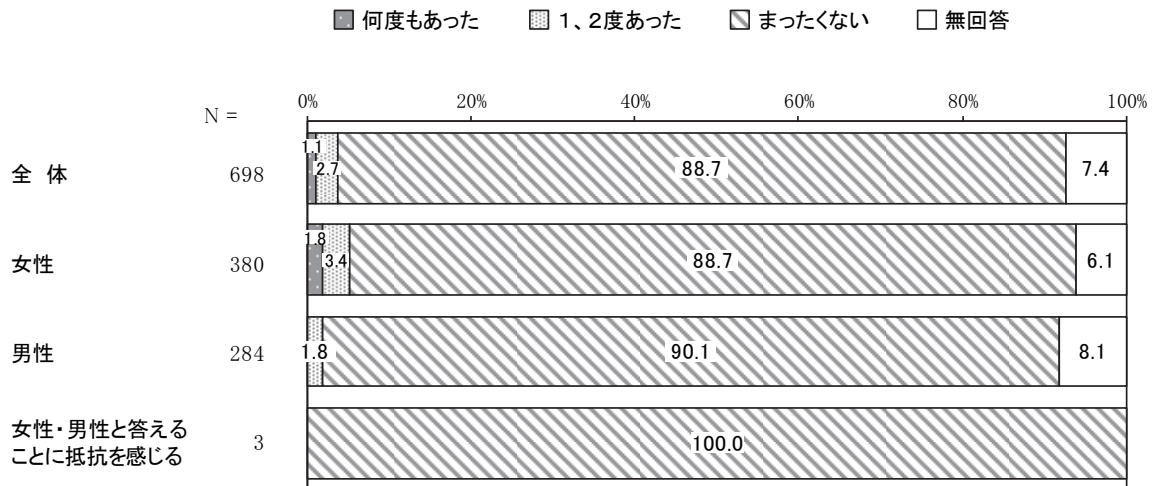
【性・年代別】

性・年代別でみると、他に比べ、女性の70歳代で「何度もあった」の割合が、女性の20歳代、60歳代、70歳代で「1、2度あった」の割合が高くなっています。



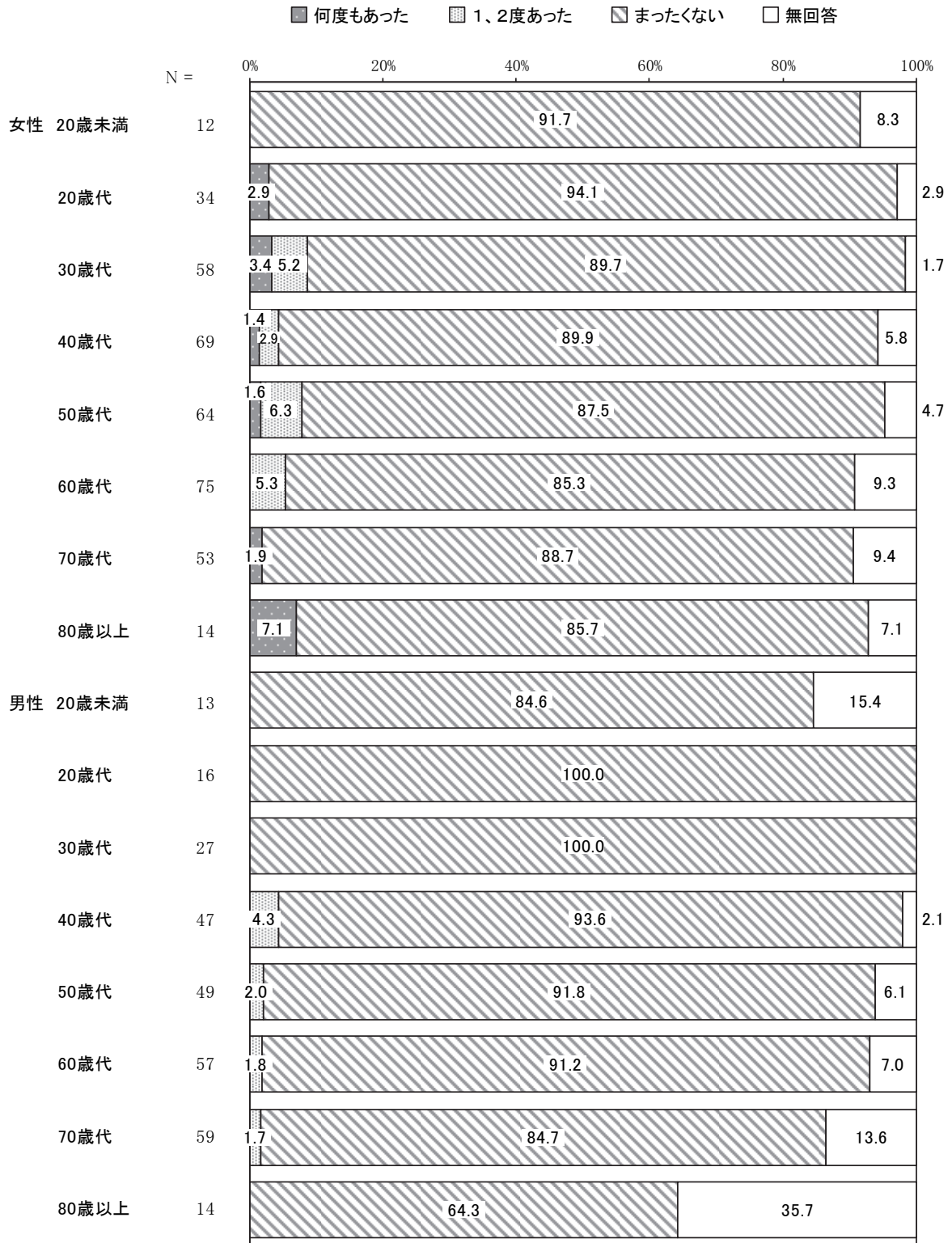
6. 1～5の行為を子どもに見せる（児童虐待）

「何度もあった」の割合が1.1%、「1、2度あった」の割合が2.7%となっています。
性別で見ると、大きな差異はみられません。



【性・年代別】

性・年代別で見ると、他に比べ、女性の80歳以上で「何度もあった」の割合が、女性の30歳代、50歳代、60歳代で「1、2度あった」の割合が高くなっています。

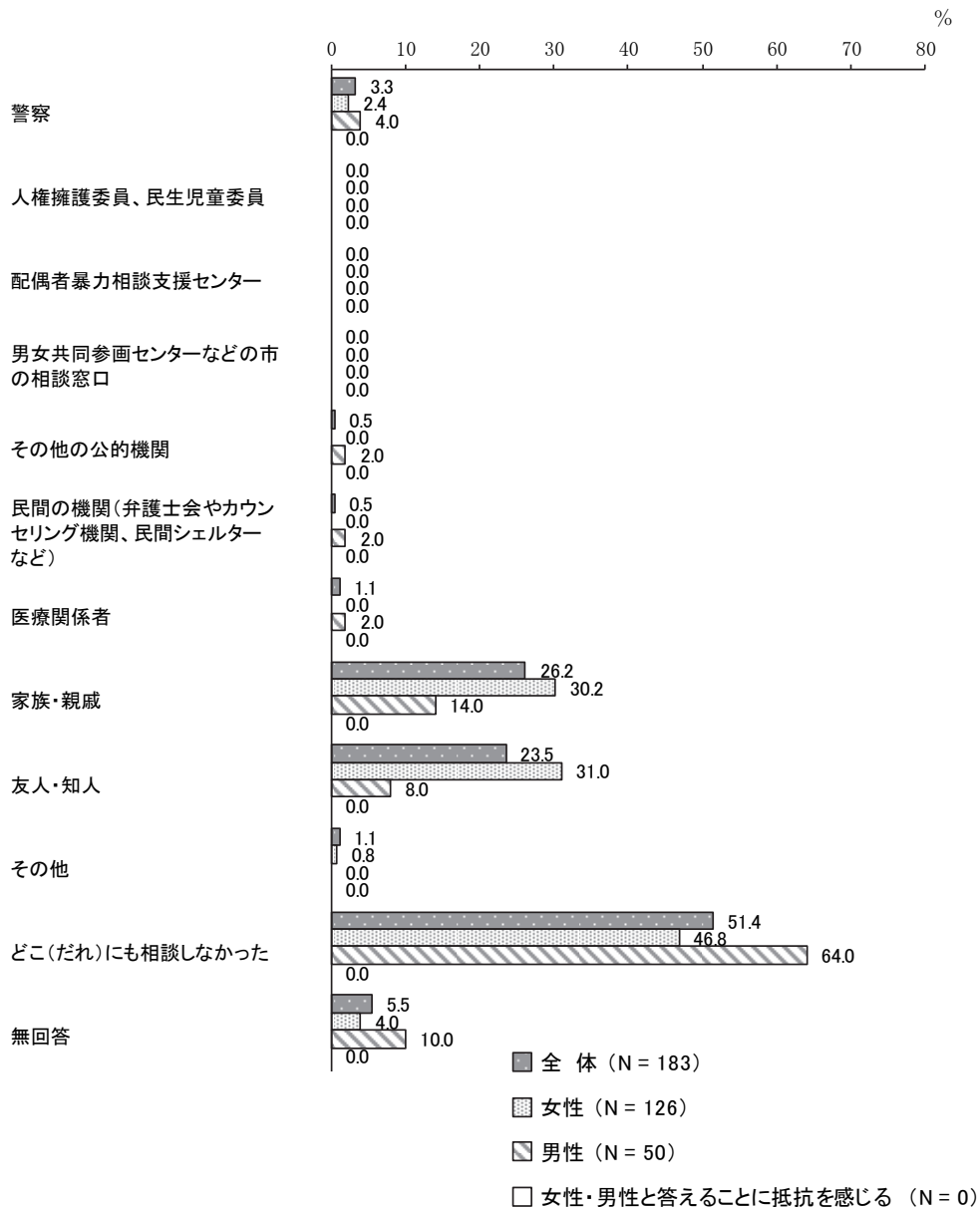


問 15 で 1～6 のうち、ひとつでも「何度もあった」か「1、2度あった」と答えた方におうかがいします

問 15-1 あなたは、これまでに問 15 であげたような行為を受けたことについて、だれかに相談されましたか。(あてはまるものすべてに○)

「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が 51.4%と最も高く、次いで「家族・親戚」の割合が 26.2%、「友人・知人」の割合が 23.5%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「家族・親戚」「友人・知人」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が高くなっています。

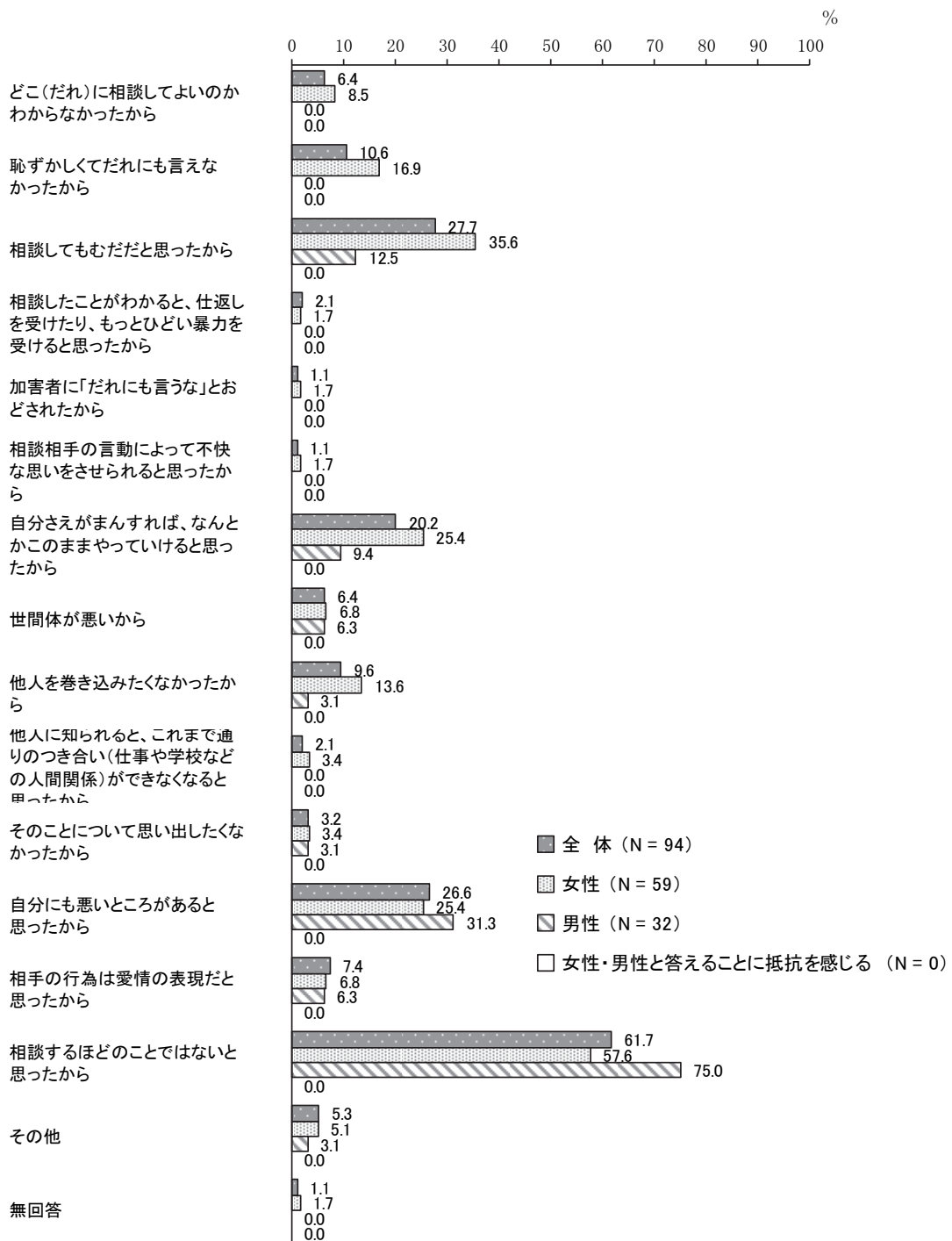


問 15-1 で「11. どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方におうかがいします

問 15-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○）

「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が 61.7%と最も高く、次いで「相談してもむだだと思ったから」の割合が 27.7%、「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が 26.6%となっています。

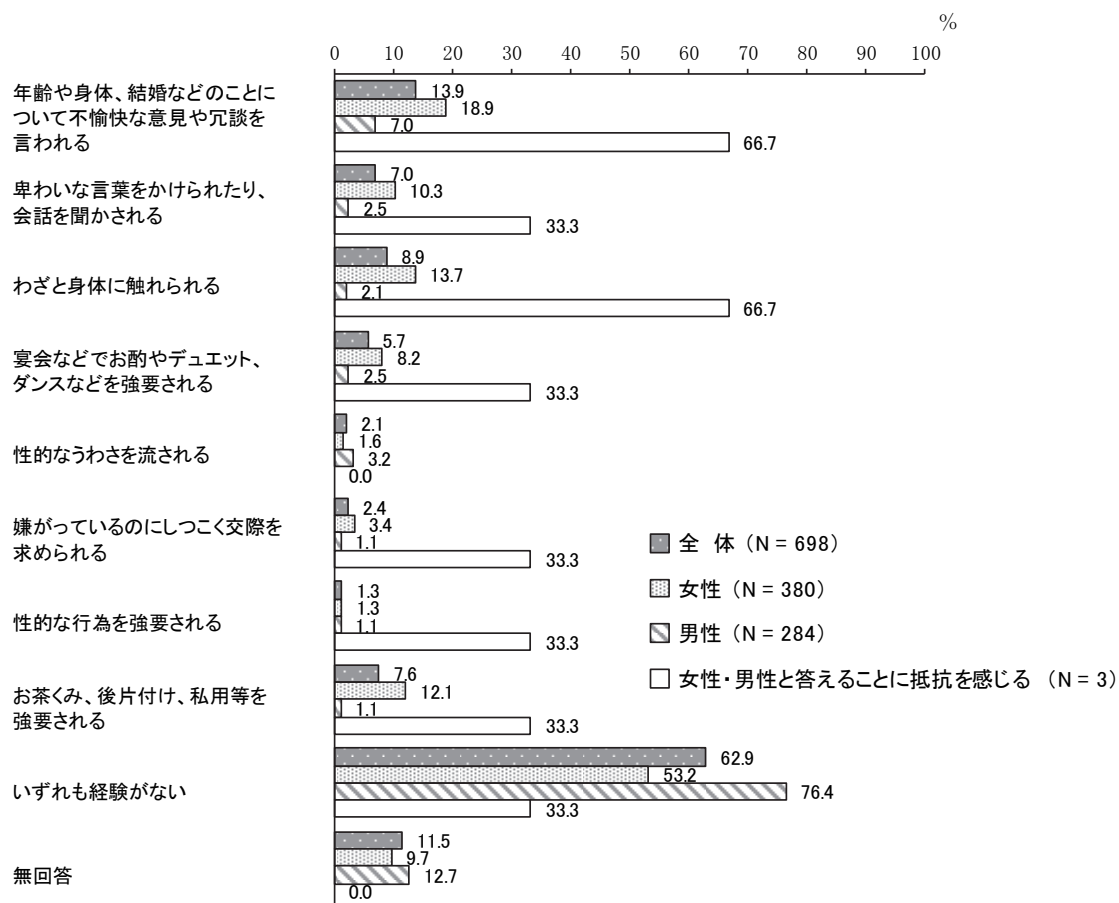
性別でみると、男性に比べ、女性で「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」「相談してもむだだと思ったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「他人を巻き込みたくなかったから」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「自分にも悪いところがあると思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が高くなっています。



問16 あなたは、職場や学校、地域などにおいて次のようなセクシュアル・ハラスメントの行為をされたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「いずれも経験がない」の割合が62.9%と最も高く、次いで「年齢や身体、結婚などのことについて不愉快な意見や冗談を言われる」の割合が13.9%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「年齢や身体、結婚などのことについて不愉快な意見や冗談を言われる」「卑わいな言葉をかけられたり、会話を聞かされる」「わざと身体に触れられる」「宴会などでお酌やデュエット、ダンスなどを強要される」「お茶くみ、後片付け、私用等を強要される」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「いずれも経験がない」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

性・年代別でみると、他に比べ、女性の20歳代、30歳代、男性の30歳代で「年齢や身体、結婚などのことについて不愉快な意見や冗談を言われる」の割合が、女性の30歳代から50歳代で「卑わいな言葉をかけられたり、会話を聞かされる」の割合が、女性の30歳代で「わざと身体に触れられる」「宴会などでお酌やデュエット、ダンスなどを強要される」の割合が、女性の30歳代、50歳代、60歳代で「お茶くみ、後片付け、私用等を強要される」の割合が高くなっています。

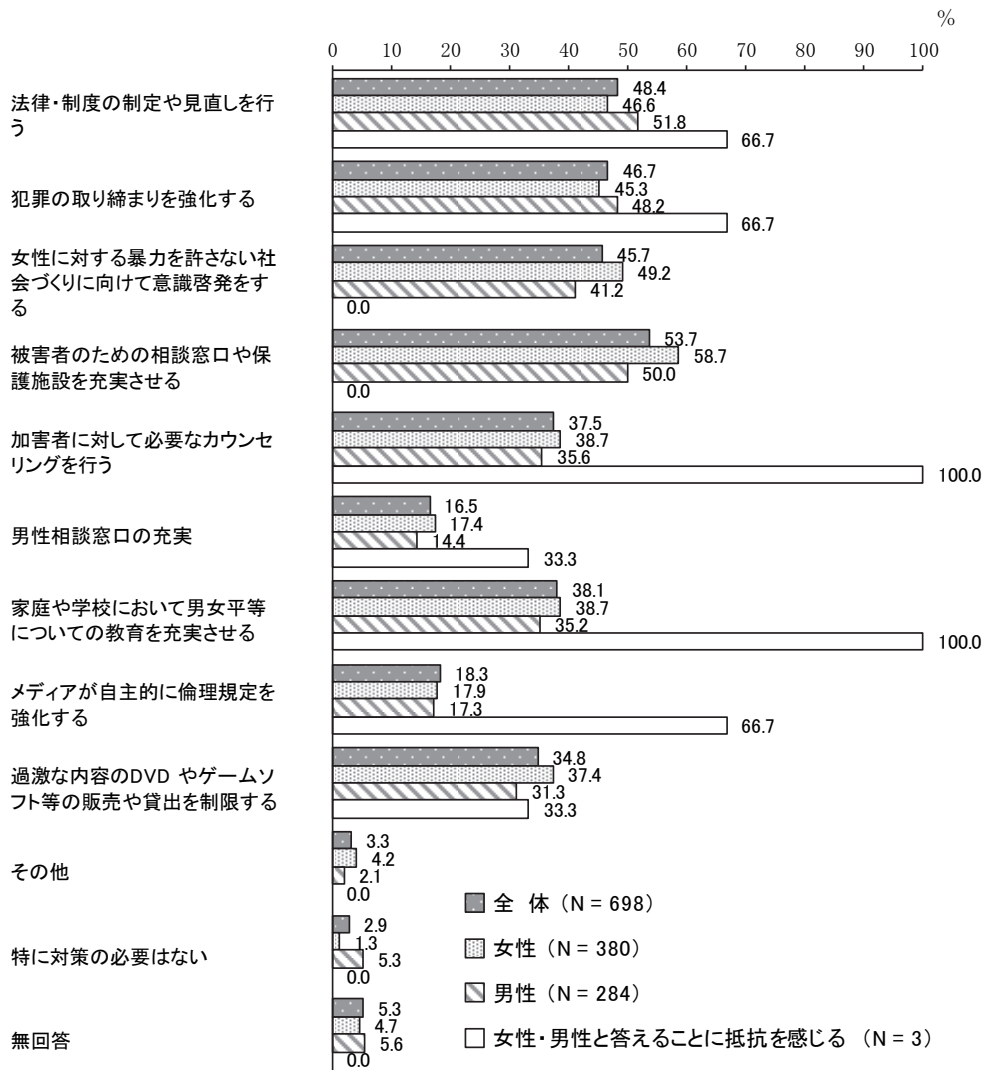
単位：％

区分	有効回答数(件)	年齢や身体、結婚などのことについて不愉快な意見や冗談を言われる	卑わいな言葉をかけられたり、会話を聞かされる	わざと身体に触れられる	宴会などでお酌やデュエット、ダンスなどを強要される	性的なうわさを流される	嫌がっているのにしつこく交際を求められる	性的な行為を強要される	お茶くみ、後片付け、私用等を強要される	いずれも経験がない	無回答
女性 20歳未満	12	8.3	8.3	16.7	—	8.3	—	8.3	—	66.7	8.3
20歳代	34	35.3	—	11.8	5.9	2.9	5.9	—	8.8	61.8	—
30歳代	58	31.0	13.8	20.7	15.5	5.2	5.2	1.7	19.0	41.4	8.6
40歳代	69	15.9	14.5	15.9	5.8	1.4	1.4	2.9	7.2	52.2	4.3
50歳代	64	21.9	17.2	10.9	9.4	—	6.3	—	15.6	50.0	4.7
60歳代	75	13.3	8.0	14.7	10.7	—	4.0	1.3	17.3	52.0	14.7
70歳代	53	9.4	5.7	7.5	3.8	—	—	—	7.5	60.4	20.8
80歳以上	14	7.1	—	7.1	—	—	—	—	—	64.3	21.4
男性 20歳未満	13	—	—	—	—	7.7	—	—	—	76.9	15.4
20歳代	16	12.5	12.5	6.3	12.5	12.5	6.3	6.3	6.3	75.0	—
30歳代	27	25.9	—	3.7	7.4	7.4	—	—	7.4	66.7	—
40歳代	47	12.8	6.4	6.4	6.4	4.3	2.1	2.1	—	78.7	2.1
50歳代	49	10.2	2.0	2.0	—	4.1	2.0	2.0	—	77.6	8.2
60歳代	57	—	1.8	—	—	—	—	—	—	75.4	22.8
70歳代	59	—	—	—	—	—	—	—	—	83.1	16.9
80歳以上	14	—	—	—	—	—	—	—	—	57.1	42.9

問 17 配偶者等からの暴力、セクシュアル・ハラスメント、性暴力・性犯罪等女性に対する暴力をなくすために、もっと取り組みを進める必要があるのはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」の割合が 53.7%と最も高く、次いで「法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が 48.4%、「犯罪の取り締まりを強化する」の割合が 46.7%となっています。

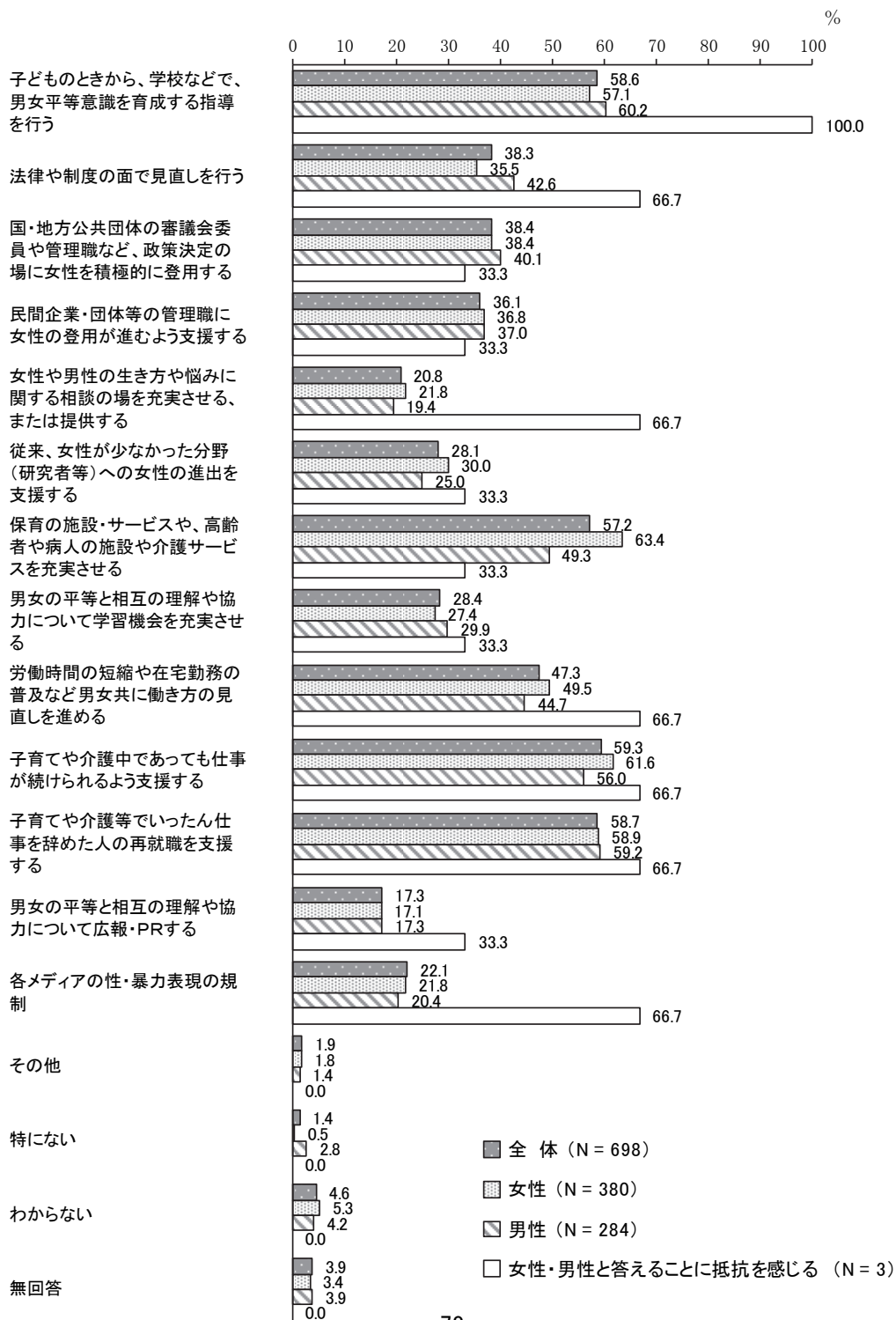
性別で見ると、男性に比べ、女性で「女性に対する暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする」「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」「過激な内容のDVD やゲームソフト等の販売や貸出を制限する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が高くなっています。



問18 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が59.3%と最も高く、次いで「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」の割合が58.7%、「子どものときから、学校などで、男女平等意識を育成する指導を行う」の割合が58.6%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「法律や制度の面で見直しを行う」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

性・年代別でみると、他に比べ、女性の50歳代で「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」の割合が、女性の30歳代で「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」の割合が、女性の40歳代で「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が高くなっています。また、男性の20歳代で「子どものときから、学校などで、男女平等意識を育成する指導を行う」の割合が、男性の60歳代、70歳代で「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	子どものときから、学校などで、男女平等意識を育成する指導を行う	法律や制度の面で見直しを行う	国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を充実させる、または提供する	従来、女性が少なかった分野(研究者等)への女性の進出を支援する	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる	男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実させる
女性 20歳未満	12	41.7	25.0	33.3	25.0	8.3	50.0	58.3	25.0
20歳代	34	50.0	38.2	38.2	47.1	35.3	44.1	55.9	23.5
30歳代	58	53.4	36.2	37.9	37.9	24.1	34.5	62.1	22.4
40歳代	69	62.3	42.0	33.3	34.8	14.5	24.6	59.4	21.7
50歳代	64	59.4	34.4	37.5	26.6	17.2	20.3	75.0	37.5
60歳代	75	58.7	37.3	42.7	45.3	26.7	33.3	66.7	30.7
70歳代	53	64.2	28.3	43.4	37.7	20.8	28.3	66.0	28.3
80歳以上	14	35.7	28.6	35.7	28.6	28.6	21.4	35.7	21.4
男性 20歳未満	13	38.5	30.8	15.4	15.4	15.4	7.7	38.5	7.7
20歳代	16	75.0	56.3	37.5	25.0	31.3	25.0	43.8	18.8
30歳代	27	51.9	33.3	25.9	22.2	11.1	25.9	40.7	22.2
40歳代	47	57.4	38.3	19.1	27.7	21.3	12.8	36.2	23.4
50歳代	49	55.1	40.8	38.8	36.7	20.4	32.7	57.1	24.5
60歳代	57	64.9	47.4	45.6	33.3	22.8	21.1	56.1	31.6
70歳代	59	69.5	45.8	61.0	62.7	20.3	35.6	61.0	50.8
80歳以上	14	42.9	35.7	50.0	28.6	—	21.4	14.3	21.4

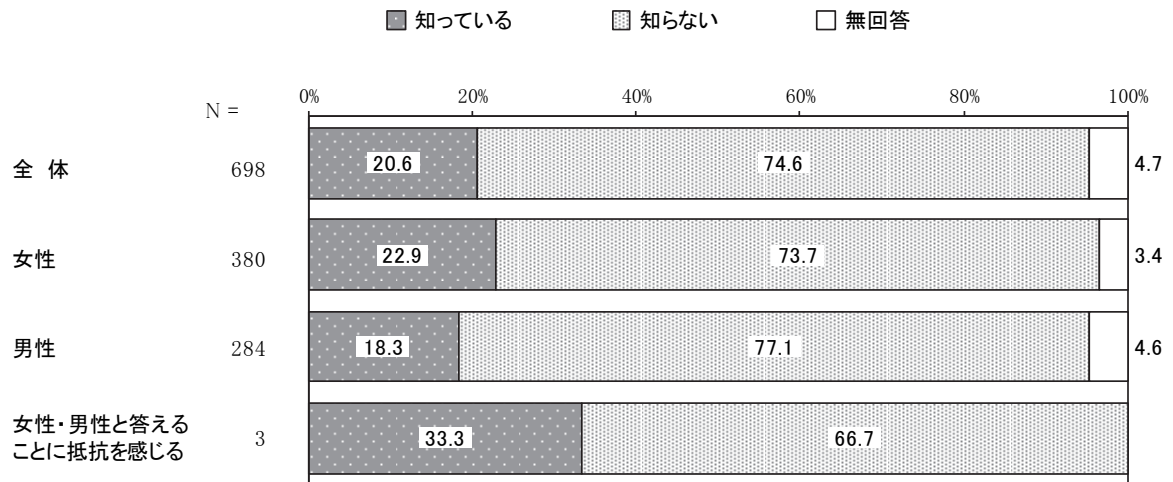
(つづき)

単位：%

区分	直しを進める 普及など男女共に働き方の見直しを進める	子育てや介護中であつても仕事が続けられるよう支援する	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	各メディアの性・暴力表現の規制	その他	特にない	わからない	無回答
女性 20歳未満	50.0	66.7	58.3	—	16.7	—	—	8.3	—	
20歳代	38.2	61.8	64.7	14.7	14.7	—	2.9	14.7	—	
30歳代	70.7	65.5	53.4	12.1	19.0	3.4	—	5.2	—	
40歳代	53.6	71.0	65.2	11.6	23.2	1.4	—	1.4	—	
50歳代	45.3	65.6	53.1	20.3	17.2	4.7	—	6.3	—	
60歳代	42.7	58.7	66.7	21.3	26.7	1.3	—	4.0	4.0	
70歳代	49.1	52.8	56.6	24.5	28.3	—	1.9	3.8	11.3	
80歳以上	28.6	28.6	35.7	21.4	21.4	—	—	—	28.6	
男性 20歳未満	30.8	30.8	46.2	7.7	—	—	—	23.1	7.7	
20歳代	43.8	37.5	31.3	31.3	12.5	—	—	6.3	—	
30歳代	48.1	66.7	59.3	3.7	3.7	3.7	—	3.7	—	
40歳代	42.6	55.3	46.8	8.5	17.0	2.1	2.1	2.1	2.1	
50歳代	44.9	57.1	63.3	20.4	20.4	4.1	4.1	6.1	4.1	
60歳代	47.4	57.9	70.2	17.5	26.3	—	—	1.8	3.5	
70歳代	54.2	62.7	71.2	28.8	33.9	—	5.1	3.4	1.7	
80歳以上	—	35.7	28.6	7.1	14.3	—	14.3	—	28.6	

問 19 男女間における暴力の防止や男女共同参画を推進するため、河内長野市では広報・啓発活動、また、男女共同参画センター（キックス）において、様々な講座や相談対応を実施しています。あなたはこのことを知っていますか。（どちらかに○）

「知っている」の割合が 20.6%、「知らない」の割合が 74.6%となっています。
性別で見ると、大きな差異はみられません。



Ⅲ 河内長野市男女共同参画に関する市民意識調査のまとめ

1 回答者属性（F1～F6）

回答者の性別をみると、「女性」の割合が54.4%、「男性」の割合が40.7%となっています。

また、回答者の年代をみると、「65～69歳」の割合が10.5%と最も高く、次いで「60～64歳」の割合が9.5%となっています。

回答者の職業をみると、「勤め人（常勤）」の割合が30.9%と最も高く、次いで「無職」の割合が22.1%、「家事専従」の割合が18.1%となっています。

回答者の配偶者の有無をみると、「はい（婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻関係にある場合も含む）」の割合が75.4%、「いいえ」の割合が23.6%となっています。

回答者の家族構成をみると、「親子2世代世帯」の割合が46.4%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」の割合が30.4%となっています。性別でみると、男性に比べ、女性で「親子2世代世帯」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「夫婦のみ世帯」の割合が高くなっています。

回答者の末子についてみると、「社会人」の割合が36.7%と最も高く、次いで「子どもはいない」の割合が21.3%となっています。

2 男女の地位の平等感について（問1）

『男性優遇』の意識が特に強い分野は「職場」「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体でみたとき」であり、反対に平等感が高い分野は「学校教育の場」「地域活動の場」となっています。また、全ての分野において、男性に比べ女性の方が『男性優遇』の意識が高くなっており、男女において認識の差がうかがえます。

今後は、女性の多様な価値観と発想を取り入れるため、政治・経済・地域など、さまざまな分野における政策・方針決定過程への女性の参画の拡大について、事業者や団体等へ働きかけを行うことが重要となります。

3 男女共同参画の考え方について（問2、問4）

『妻子を養うのは男の責任である』『結婚は、個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』『子どもが3歳くらいまでは母親の元で育てるべきである』で“そう思う”の割合が高くなっています。また、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』『妻子を養うのは男の責任である』『男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい』『夫の親を妻が介護・看護するのは当然である』で、女性に比べ男性の方が“そう思う”の割合が高くなっており、男女において認識の差があることがうかがえます。

『男性の子育てへの参画が以前より進んでいる』で“そう思う”の割合が7割以上となっていますが、『男性の介護への参画が以前より進んでいる』で“そう思う”の割合は5割以下となっています。

長い年月をかけて作られてきた男女の固定的な役割分業を前提とした社会制度・慣行が、市民

の意識に影響を与えています。生まれながらに持った性別によって、「男だから」「女だから」といった理由で不利益をこうむることがあってはなりません。

今後も、男女共同参画社会の実現を目指し、男女の不平等の原因となっている固定的性別役割分担意識や、社会的なしきたり・ならわしの是正を図っていくことが必要です。

4 言葉の認知度について（問3）

「ドメスティック・バイオレンス（DV）」や「男女雇用機会均等法」の認知度は高くなっていますが、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」や「女性活躍推進法」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」などの認知度は低い状況となっています。

特に「男女共同参画社会」や「男女雇用機会均等法」「女性活躍推進法」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の認知度は、男性に比べ女性で低くなっています。

国では様々な法律が制定され、府や河内長野市では様々な取り組みが行われています。これらの法律や取り組みの周知・啓発を図り、男女共同参画社会の実現を図っていくことが必要です。

5 女性の就労について（問5～問8）

女性が職業をもつことについて、全国では「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」といった『就労継続型』の割合が増加しており、河内長野市においても『就労継続型』の割合は高くなっていますが、同程度で「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」といった『再就職型』の働き方を支持する割合も高くなっています。男女別でみると、男性に比べ女性で『再就職型』の働き方を支援する割合がたかくなっています。

女性で、今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由として、「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため」「働くことで家族に迷惑がかかると感じるため」「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないため」の割合が高くなっており、企業の理解が必要であるとともに、ワーク・ライフ・バランスの推進が重要であることがうかがえます。

再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるために必要なこととして、「企業経営者や職場の理解」や「育児や介護等による退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」「労働時間の短縮やフレックスタイム制等の柔軟な勤務制度の導入」の割合が高くなっており、今後、女性活躍を推進していく上では、企業における取り組みが必要であることがうかがえます。

女性の活躍促進に関する法律等の整備とともに、子育て中など就業を一時中断している女性の公正な職場復帰、再就職や起業など、個人の意欲と能力が活かされる環境づくりを進め、女性の活躍を推進していくことが求められています。

6 家庭生活について（問9～問11）

家庭生活における「食事の支度」「食事の後片付け」「掃除」「洗濯」「町内会や自治会活動などへの参加」「子どもの世話やしつけ（教育）」「子どもの学校行事への参加」で、男性に比べ女性で

“する”の割合が高く、「ごみ出し」においては、男女ともに同程度となっています。依然として、男性の家庭生活への参加状況が低いことがうかがえます。

現実の生活のバランスは、男性で「仕事優先」、女性で「家庭生活優先」がそれぞれ高くなっていますが、理想の生活のバランスでは、男女ともに「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が高くなっています。

また、男性が家庭生活に積極的に参加するために必要な取り組みについてみると、全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が最も高く、男女ともに6割以上と高くなっています。また、男性では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」の割合が女性に比べ高くなっています。

男女とも「仕事と家庭生活と地域・個人の生活の調和」を望んでいるにもかかわらず、男性は仕事優先に、女性は家庭優先になっていることから、家族一人ひとりが家庭にかかわるような意識づけを図るとともに、働き方の見直しなど、職場環境における取り組みが重要となります。

7 高齢者などに対する介護について（問12～問13）

自宅で介護する場合、主に誰が介護することになるかについて性別でみると、男性に比べ、女性で「主に、自分が介護すると思う（している）」の割合が高くなっており、女性に比べ、男性で「主に、配偶者が介護すると思う（している）」の割合が高くなっていることから、女性が高齢者を介護する割合が高いことがうかがえます。

自身に介護が必要になった場合に「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」が最も多く4割を超え、次いで「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」が4割となっており、介護保険のサービスを受ける一方で家族からの介護を受けたいと希望する人が多いことがうかがえます。

今後は、女性が介護するという性別による固定的な役割分担意識の解消を図るとともに、仕事と家庭生活の両立を可能とする環境づくりを進めていくことが必要です。

8 配偶者などからの暴力（DV）やセクシャル・ハラスメントについて（問15～問16）

配偶者や親しい異性（恋人等）からの暴力（DV）については、「まったくない」の割合は高くなっているものの、女性で「身体的暴力」を受けたことがある人の割合が1割以上となっており、「精神的暴力」を受けたことがある人の割合は2割以上と、身体的な暴力より精神的な暴力による被害が多くなっています。

DVを受けた際の相談では、男女ともに「どこ（誰）にも相談しなかった」が高くなっており、DVの被害が潜在化していることが懸念されます。また、相談しない理由をみると、女性においては「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」の割合が高く、あきらめの気持ちや自分一人で抱え込んでしまう状況があることがわかります。

職場や学校、地域などでのセクシャル・ハラスメントの被害について、『何らかのセクシャル・ハラスメントの被害を受けたことがある』人の割合は25.6%になり、性別では女性で37.1%、

男性で10.9%となります。

セクシャル・ハラスメントやDVは、社会的な問題となっており、国や府などにおいても、さまざまな政策が打ち出されており、市民の意識は高くなっていることは考えられます。

セクシャル・ハラスメントやDVなどの被害の潜在化を防ぐため、被害者が安心して安全に相談できる体制や相談窓口の充実とその周知に努めていくことが求められています。

9 「男女共同参画社会」を実現するために有効な取り組みについて（問18、19）

「男女共同参画社会」の実現に向けて、今後、行政が力をいれていくこととして、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が最も高く、次いで「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」、「子どものときから、学校などで、男女平等意識を育成する指導を行う」の割合が高くなっています。また、女性では男性に比べ、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が高くなっており、男女共同参画に向けた意識の向上とその支援が求められています。

また、本市が男女間における暴力の防止や男女共同参画を推進するために、男女共同参画センター（キックス）において、様々な講座や相談対応を行っていますが、その認知度は2割程度にとどまっています。男女共同参画を推進するための施設としてさらに周知を図り、機能強化に努めていくことが必要です。

